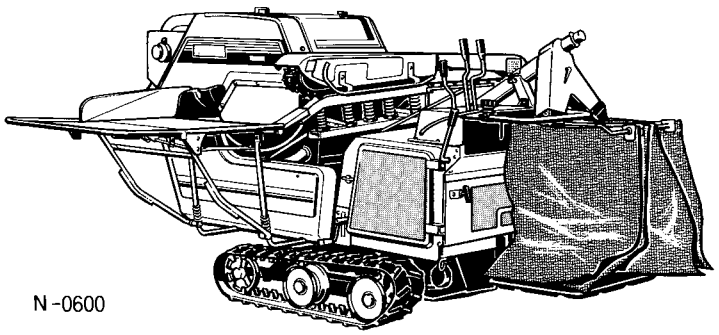
クボタハーベスタ

取扱説明書

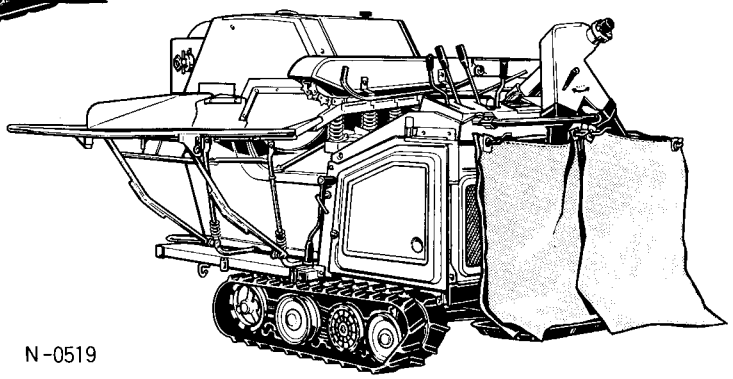
RH1

-40・-50・-45
-65・-75・-95



N-0600

〔RH1-40仕様〕



N-0519

〔RH1-65仕様〕

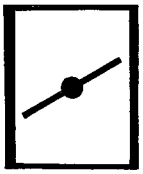
安全宣言

安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



チョーク（作動）

専門用語の説明

1番スクリュ……精選された穀粒を搬送するスクリュコンベア

2番スクリュ……粗選された穀粒やワラクズを横搬送するスクリュコンベア

ト　ウ　ミ……選別風を発生させるファン

こ　ぎ　胴……脱こくするドラム

フィードチェーン……稲を挟持搬送するチェーンコンベア

縦スクリュ……精選された穀粒を機外へ搬送するスクリュコンベア

ドレーンプラグ……エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの排水栓

シャトルシフトレバー……機体を前進又は後進させるときの操作レバー

仕様について

この取扱説明書では，型式仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はRH_1-75仕様を基本とし，RH_1-75仕様と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 大きさ別によって……「RH_1-40仕様」「RH_1-50仕様」（ガソリンエンジン）
  「RH_1-45仕様」「RH_1-65仕様」「RH_1-75仕様」「RH_1-95仕様」（ディーゼルエンジン）
- 始動方式によって……「リコイル仕様」「クランクハンドル仕様」「セル仕様」
- 派生形式によって……「運搬車仕様なし」「運搬車仕様付」

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

56421-6131-6

■ 注意事項について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警 告** …注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うおそれがあるものを示します。

⚠ **注 意** …注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重 要 …注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足 …その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。……⚠-1
2．⚠表示ラベルと貼付位置……⚠-10
3．⚠表示ラベルの手入れ……⚠-13

サービスと保証について …… 1

機体方向説明……3

各部の名称 …… 4

運転前の点検 …… 5

上手な運転のしかた …… 8

ガソリンエンジンの始動と停止
【RH_1-40・50仕様】……8
ディーゼルエンジンの始動と停止
【RH_1-45・65・75・95仕様】……11
路上走行について……14
トラックへの積降ろし,運搬……16

上手な作業のしかた …… 17

ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態……17
作物の条件……17
ほ場の条件……17
ほ場への乗入れ・あぜ越え……18
作業に適した機械の方向……18
作業前の各部の準備……19
ハーベスタ作業のしかた……21
脱こくの操作のしかた……22
作業に適した調節のしかた……25

不調時の点検と処置 …… 27

各部の調整 …… 30

エンジンオイルの点検・交換……30
ミッションオイルの点検・交換……31
燃料フィルタの点検・清掃……32
エアークリーナの点検・清掃……32
点火プラグの点検・調整【RH_1-40・50仕様】……33
燃料パイプの点検……33
ラジエータの点検【RH_1-45・65・75・95仕様】……34
警笛が鳴った場合【RH_1-45・65・75・95仕様】……35
バッテリの取扱いと保守……36
ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検・交換……37
電気配線の点検,ヒューズの交換……37
ワイヤの調節……38
各部ベルトの張り調整……41
チェーンの調整……43
クローラの点検・調整……44
ワラ切刃の交換……44
機内の掃除のしかた……45
長期格納のしかた……45
使用者が行なってはいけない修理……46
使用済資材の処分について……46

ハーベスタ⇄運搬車への切換え〔運搬車仕様付〕……47
脱こく機の降ろしかた……47
脱こく機の積みかた……48
荷台枠の取付け……50
運搬作業……50
付　表……51
主要諸元……51
別途購入アタッチメント一覧表……53
ラットガード……54
配線図……55
主な消耗・主部品一覧表……57

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも本文の中で⚠警告，⚠注意，重要，補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および機械の警告ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

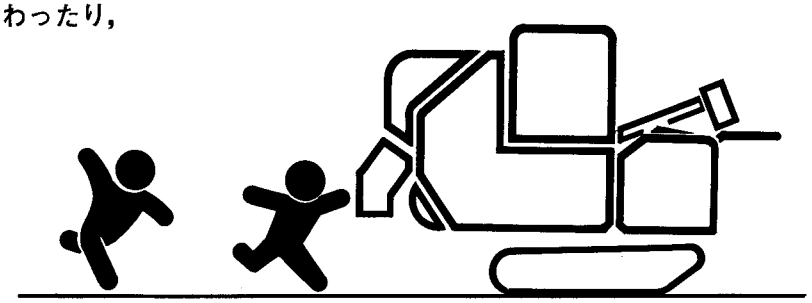
適確者運転

■運転操作には高度な技能が必要です。

- 病気中，飲酒中の人，１６才未満の人は運転操作しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

子供が近づくのは危険

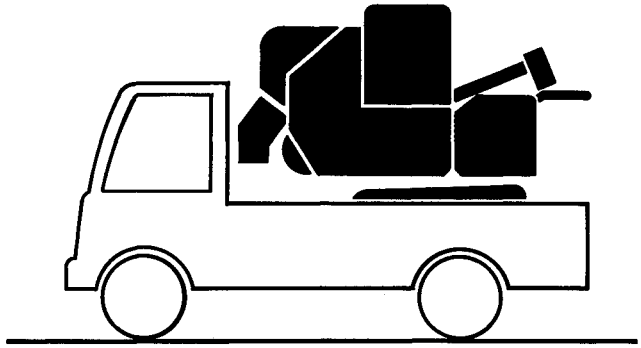
■点検・整備中および収穫作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械にさわったり，かくれたりして危険です。



⚠ 安全に作業するために

道路走行の注意

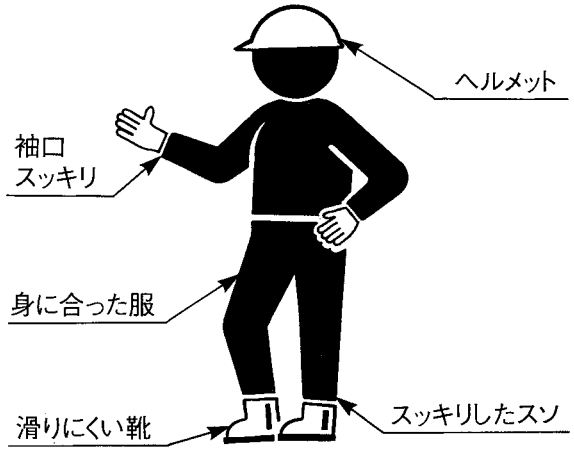
■この機械は“道路運送車両法”により公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（14頁参照）してください。



安全な服装

■運転者・補助者とも作業に合った服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引掛り，傷害を起すことがありますのでだぶだぶの服は，着用しないでください。また，袖口はきっちり止めてください。



排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気が十分入るようにしてください。

燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。
取扱いには注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気を近づけないでください。禁煙です。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。

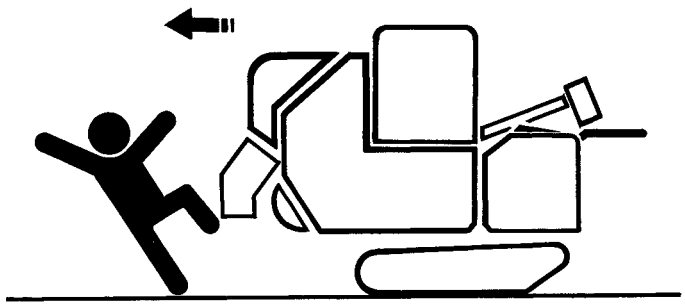
作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には30頁以降の点検項目の点検をしてください。異常があれば直してから運転してください。

■点検・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチは**“切”**駐車ブレーキをかけてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリ周辺にわら屑がたまっていると火災の原因となります。きれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。
- 取外した安全カバー，保護カバーは必ず取り付けて作業してください。

機械を動かす場合は安全に注意



■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，シャトルシフトレバーを**“中立”**にし各クラッチを**“切”**周囲の人に合図をしてください。
- 機械の発進や各クラッチを入れるときは，周囲の人に合図をして，人を機械に近付けないでください。
- 後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確かめてください。

⚠ 安全に作業するために

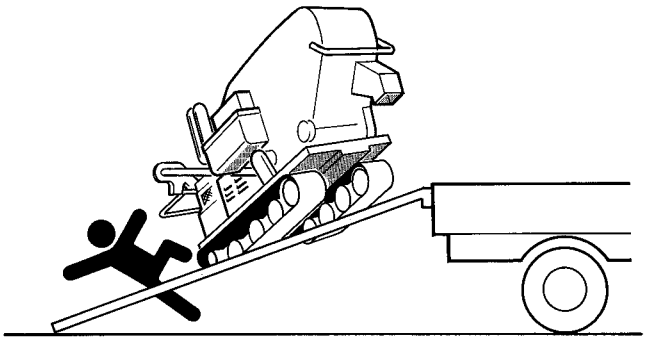
安全なトラック輸送

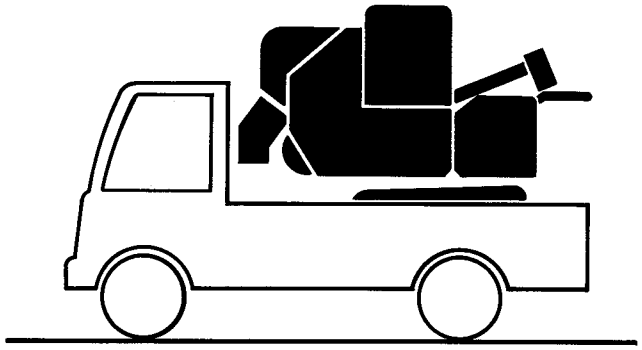
■あゆみ板で，トラックへの積み降ろしは，平地を選び低速で行ってください。

- あゆみ板は十分強く，すべり止めがあって段差の４倍以上の長さの丈夫なあゆみ板を使ってください。
- あゆみ板の安定・平行をたしかめてください。
- 積込みは前進で，降ろすときは後進で行ってください。
- あゆみ板の途中でサイドクラッチレバー・変速レバーを操作すると機械が急降下し，落下する危険がありますので操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上に降りて向きを正し，再度上り直してください。

■トラックの上ではシャトルシフトレバーを“中立”位置（ブレーキが作動します）にし，ロープでしっかり床に固定します。

- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは荷動きが生じ危険ですから，絶対しないでください。

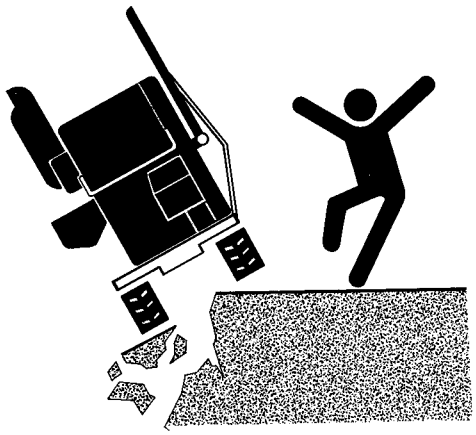




転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，機械の重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。



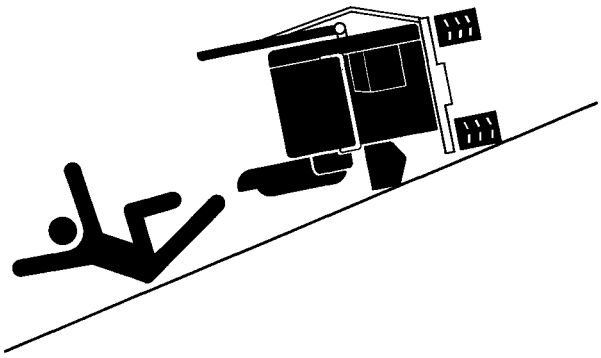
転倒・転落注意

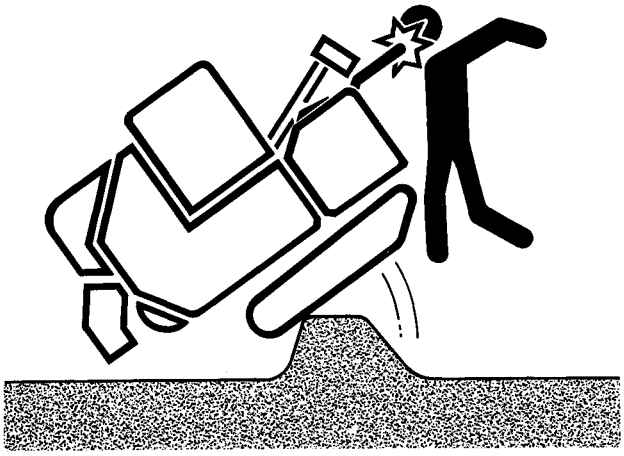
■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としシャトルシフトレバー・副変速レバー・サイドクラッチレバーを操作しないでください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。

■10cm以上の段差のあるところでは，段差の4倍以上の長さで丈夫なあゆみ板を使ってください。

- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でスロットルをエンジン回転数**“高速”**側への操作はしないでください。

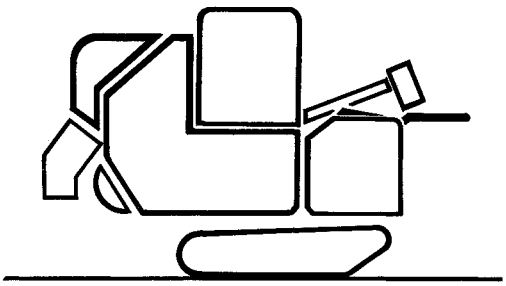




安全な駐車の仕方

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，シャトルシフトレバーを“中立”にし，スロットルレバーを“停”の位置まで動かし，スタータスイッチがあるものは“切”にする。

- 傾斜地に駐車するときは，車止めをしてください。

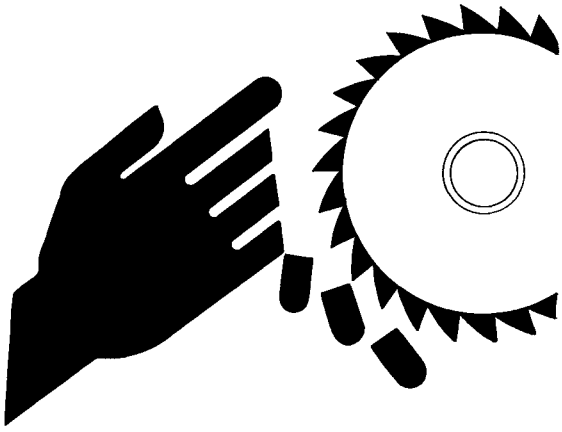


⚠ 安全に作業するために

安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くあります。作動中にわらの巻付きや詰りを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタや結束機にわらが詰ったときは，すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで作動させないでください。
- 各部の掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。



安全な手こぎ作業

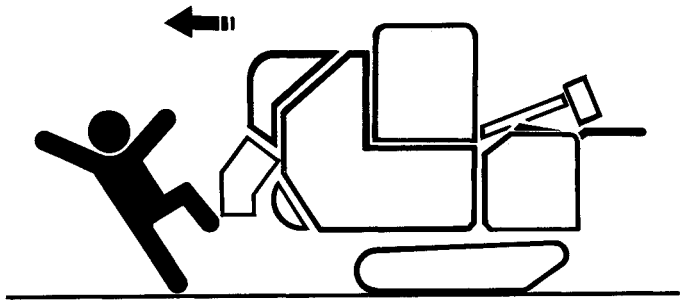
■機械の走行部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ，わらを少量ずつ送り込むこと。

- 袖口がスッキリした服装で，手袋は使用しないでください。

共同作業の安全確保

■補助者は運転席から見えにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

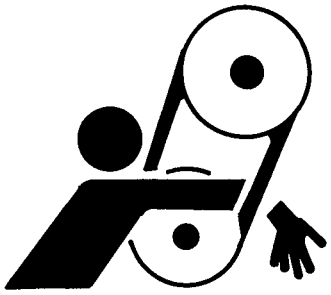
- エンジン始動時，各クラッチを入れるときは大きい声で合図し，補助者のＯＫをもらってください。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させてください。



安全な点検・整備

■水平で平坦な場所で行ってください。

■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，さらにシャトルシフトレバーを“中立”にしてください。



⚠ 安全に作業するために

爆発・火災防止

■バッテリのガスは爆発するおそれがあります。

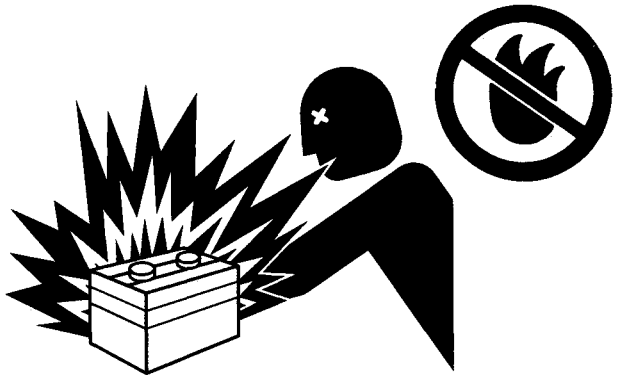
- バッテリの近くでスパークさせたり，マッチを点火したり，裸火を近付けたりしないでください。
- バッテリの充電は機械より取外して行ってください。

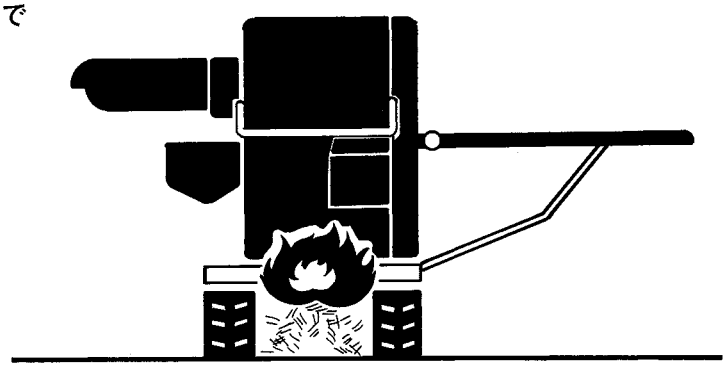
■わら屑は燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺にわら屑がたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わら屑の上や枯れた雑草の上に停車すると，火炎のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火炎のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火炎のおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



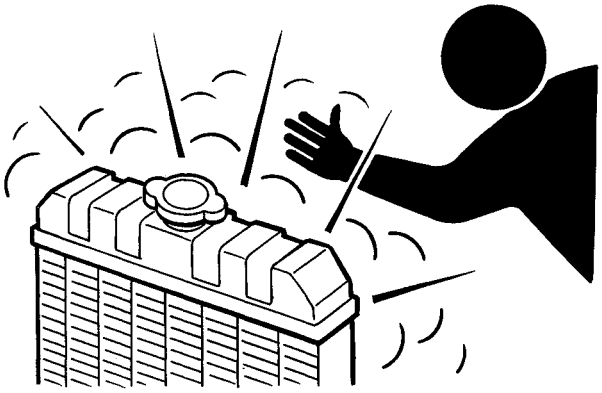


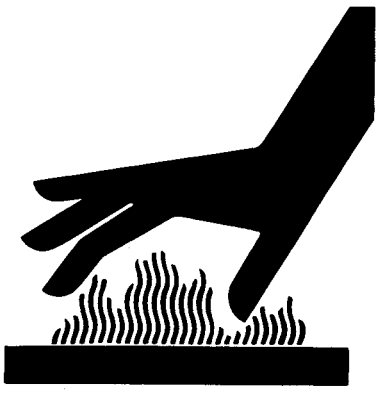
ヤケド防止

■高温の冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。

● 運転後はエンジン冷却水は，高温であるとともに加圧されています。エンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて圧を抜いてから作業してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。





このハーベスタを他人に貸すときは

■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使い方を説明して，安全な作業ができるように指導してあげてください。

夜間作業はしないでください

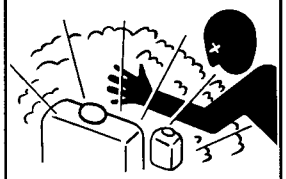
■この機械は夜間作業に必要な箇所を照明するための作業灯が付けられませんので，安全のため夜間作業はしないでください。

⚠ 安全に作業するために

2. ⚠表示ラベルと貼付位置

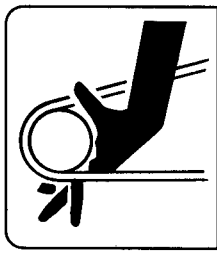
①品番　56431-5219-3

⚠ 注　意



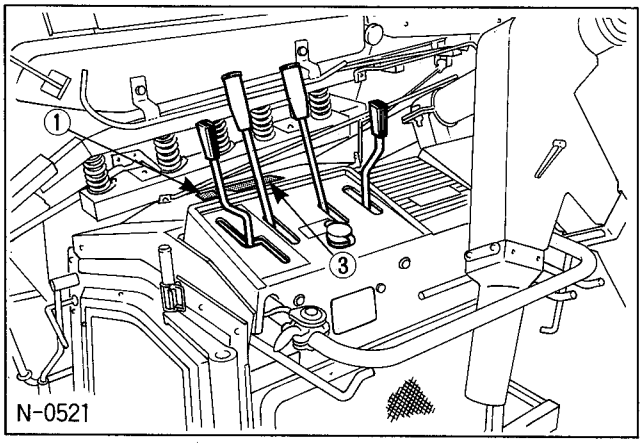
オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1.エンジンを止める。
2.停止後３０分以上経過してから開ける。
エンジンが冷えていないときエンジンルームを開けると、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがある。

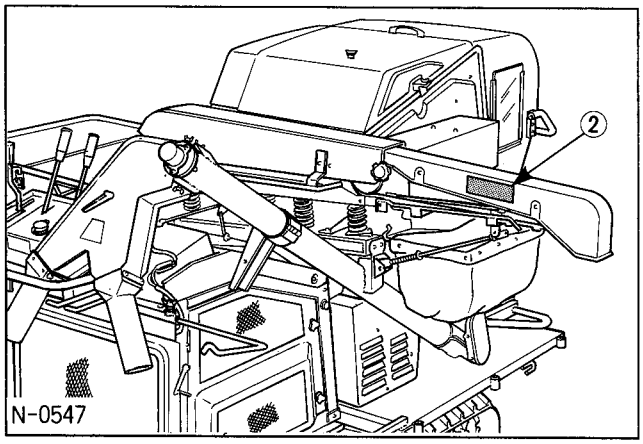
②品番　53981-6436-2



⚠ 注　意

1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。





③品番　56421-5216-2

⚠ 注　意

1．作業前
1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。
2. 緊急停止が必要なときは、シャトルシフトレバーを「中立」の位置に戻すこと。(ブレーキが作動する)

2．作業中
1. 屋内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒のおそれがあるので換気をすること。
2. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは切りワラや雑草の上に止めないこと。

3．積み込み
1. 車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、エンストしない程度にエンジンの回転を落として下さい。あゆみ板は十分強くすべり止めがあって段差の４倍以上のものを使って下さい。
2. 車への積降ろしの途中で、サイドクラッチレバーを操作すると、機械が急降下し落下する危険があるので絶対に操作しないこと。

4．作業後
1. けがをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。
2. 発進するとき、脱こく部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して機械に人を近付けないこと。
3. 走行時は人に当たり、けがをさせるおそれがあるので、キョウキュウダイ・モミウケダイ・ハイワラハンソウ・ハイジントウは収納すること。
4. 転倒・転落事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけ際などは走行しないこと。

5．駐停車
1. 機械から離れるときは、エンジンを止めてシャトルシフトレバーを必ず「中立」の位置にすること。また、坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。

④品番　56421-5217-1

⚠注意

最大積載量は300kgです。荷物の積み過ぎは転倒したり、ブレーキのききめが悪くなるおそれがあるので、荷物は積み過ぎないこと。

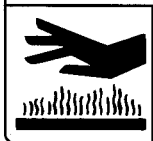
⑤品番　56421-5213-1

⚠注意

1．もみ受け台に乗らないこと。
2．移動するときは必ず収納すること。

⑦品番　56421-2613-1（40）

⚠ 注　意



カバーが熱くなることがあります。触れるとヤケドをするおそれがあるので、触れないこと。

⑧品番　56421-5223-1（40,50）

⚠ 警　告

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること

ガ ソ リ ン

⑧品番　52166-2575-1（45,65,75,95）

⚠ 警　告

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること

ディーゼル軽油

⑥品番　52320-3159-1

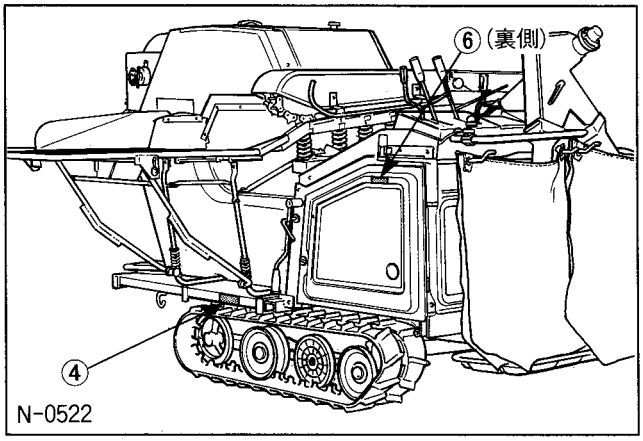
⚠ 注　意

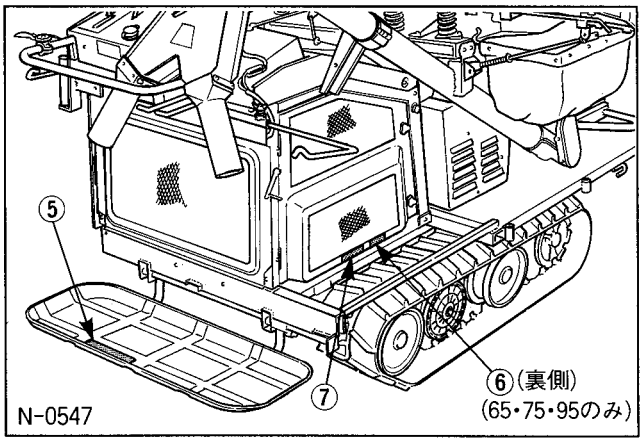
マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

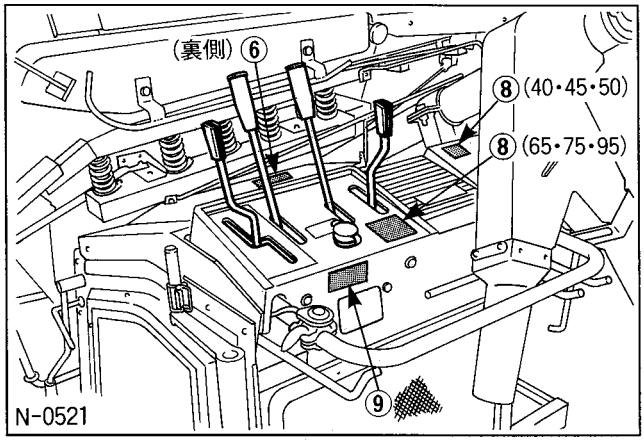
⑨品番　56421-5219-1

⚠ 注　意

エンジンを始動するときは、シャトルシフトレバーを「中立」にし、脱こくクラッチを「切」にすること。







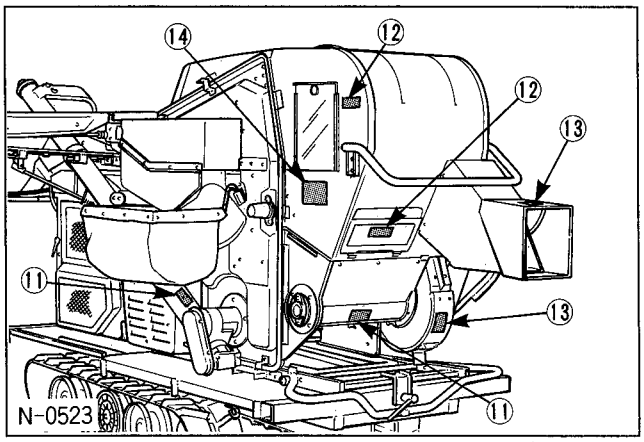
⚠ 安全に作業するために

⑪品番　53981-6434-1

注意

掃除口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

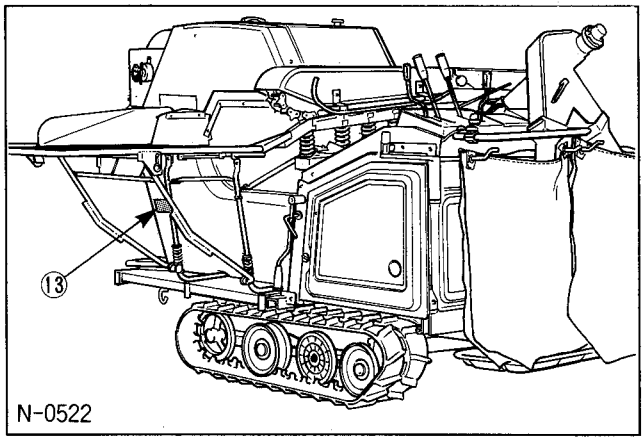


N-0523

⑫品番　53981-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



N-0522

⑬品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

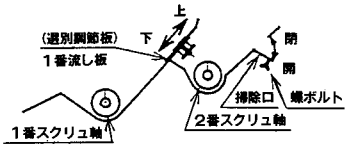
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

⑭品番　53441-6229-2

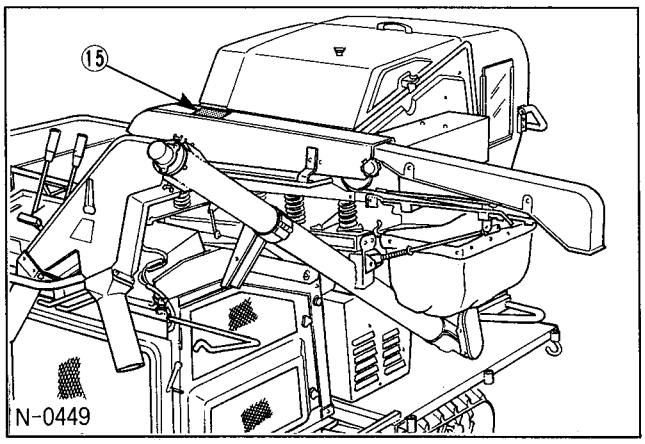
⚠ 注　意

中に回転物がありけがをするので、
1番流し板の調節をするとき必ずエンジンをとめること。

◆調節の仕方
2番掃除口を開き、選別調節板を調節してください。



上	穀粒の傷みが多い時
中	標準（出荷時）
下	選別が悪く、長ワラが多く入る時



N-0449

⑮品番　53441-6219-1

⚠ 警　告

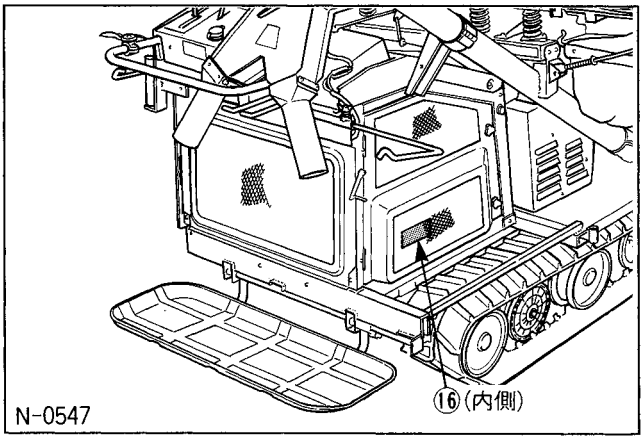
わら等の巻付き・詰り除去のときは、エンジンを必ず止めること。
手扱ぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
1．平坦な所で機械を止めること。
2．手・腕がチェーンに触れないように少しづつ送り込むこと。

⑯（セル付き仕様のみ）

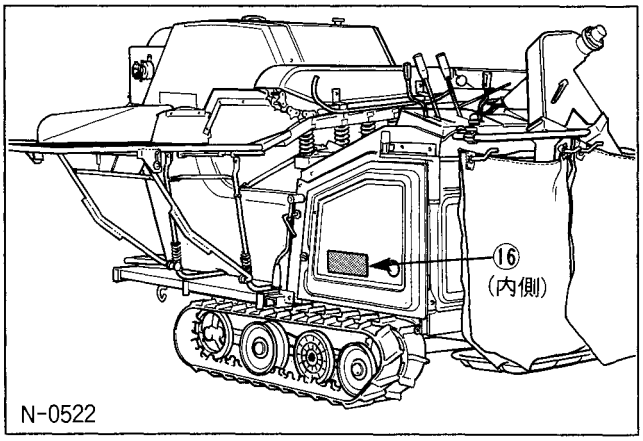
危険！バッテリの取扱いにご注意

取扱いを誤ると引火爆発することがあります。
●ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気は危険です。
●充電や使用は通風のよいところでおこなって下さい。
●ブースタケーブル使用時には危険のないように取扱い下さい。
バッテリ液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。
●目・皮膚・衣服についたときは直ちに多量の水で洗って下さい。
●なお目に入ったときは水洗い後、医師の治療をうけて下さい。

【RH1-50・65・75・95仕様】



【RH1-40・45仕様】



3. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

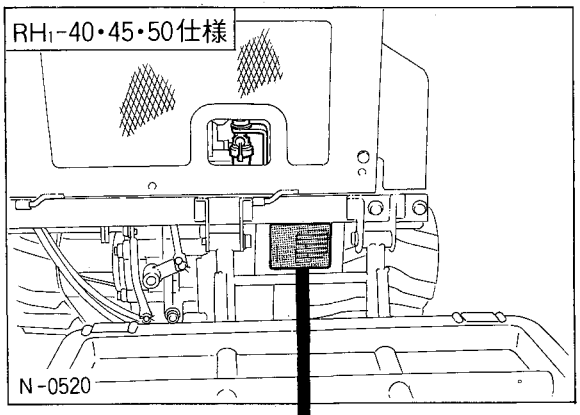
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際(1)商品名と車体番号
(2)搭載機関の型式名と機関番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

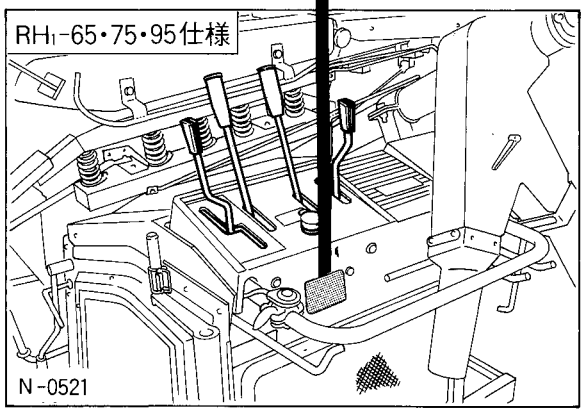
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

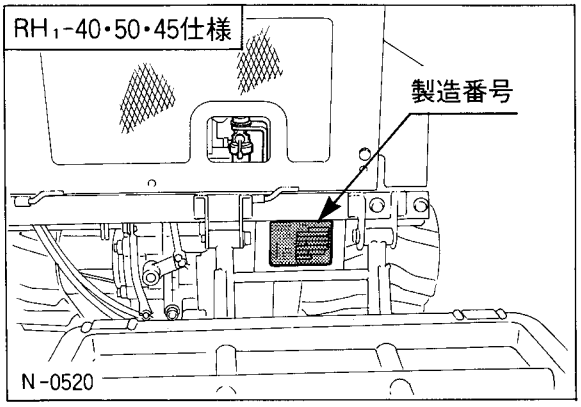
◆安全鑑定番号

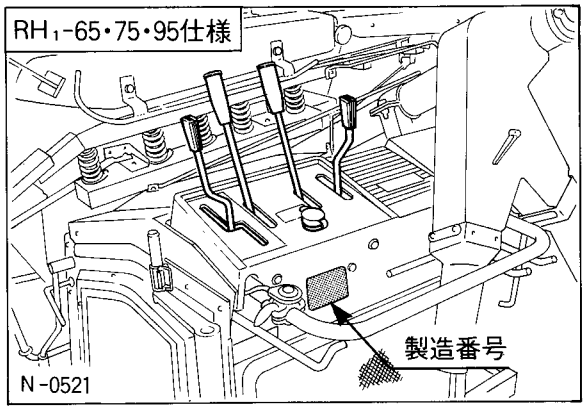
クボタRH400(RH_1-40)……917001
クボタRH500(RH_1-50)……917002
クボタRH450(RH_1-45)……917008
クボタRH650(RH_1-65)……917009
クボタRH750(RH_1-75)……917010
クボタRH950(RH_1-95)……1217004

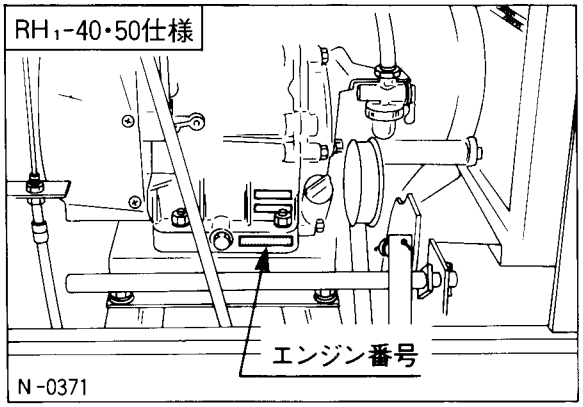


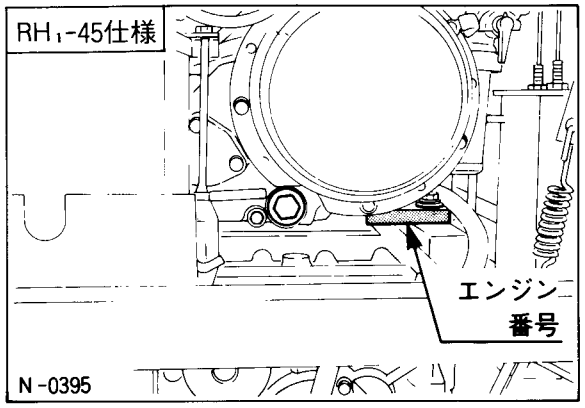
農業機械の種類 自動脱穀機（自走式）			
農機型式名	クボタ		
区分			
製造番号			
とう載機関 型式名	クボタ		
とう載機関 機関番号			
とう載機関 連続定格出力		PS/	r.p.m.
とう載機関 最大出力		PS/	r.p.m.
製造元	株式会社クボタ		

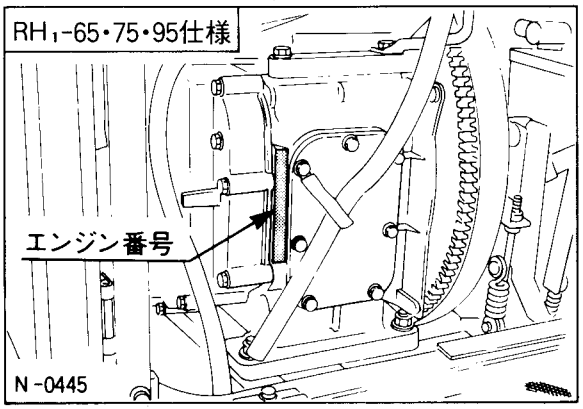



RH1-40・50・45仕様
製造番号
N-0520


RH1-65・75・95仕様
製造番号
N-0521

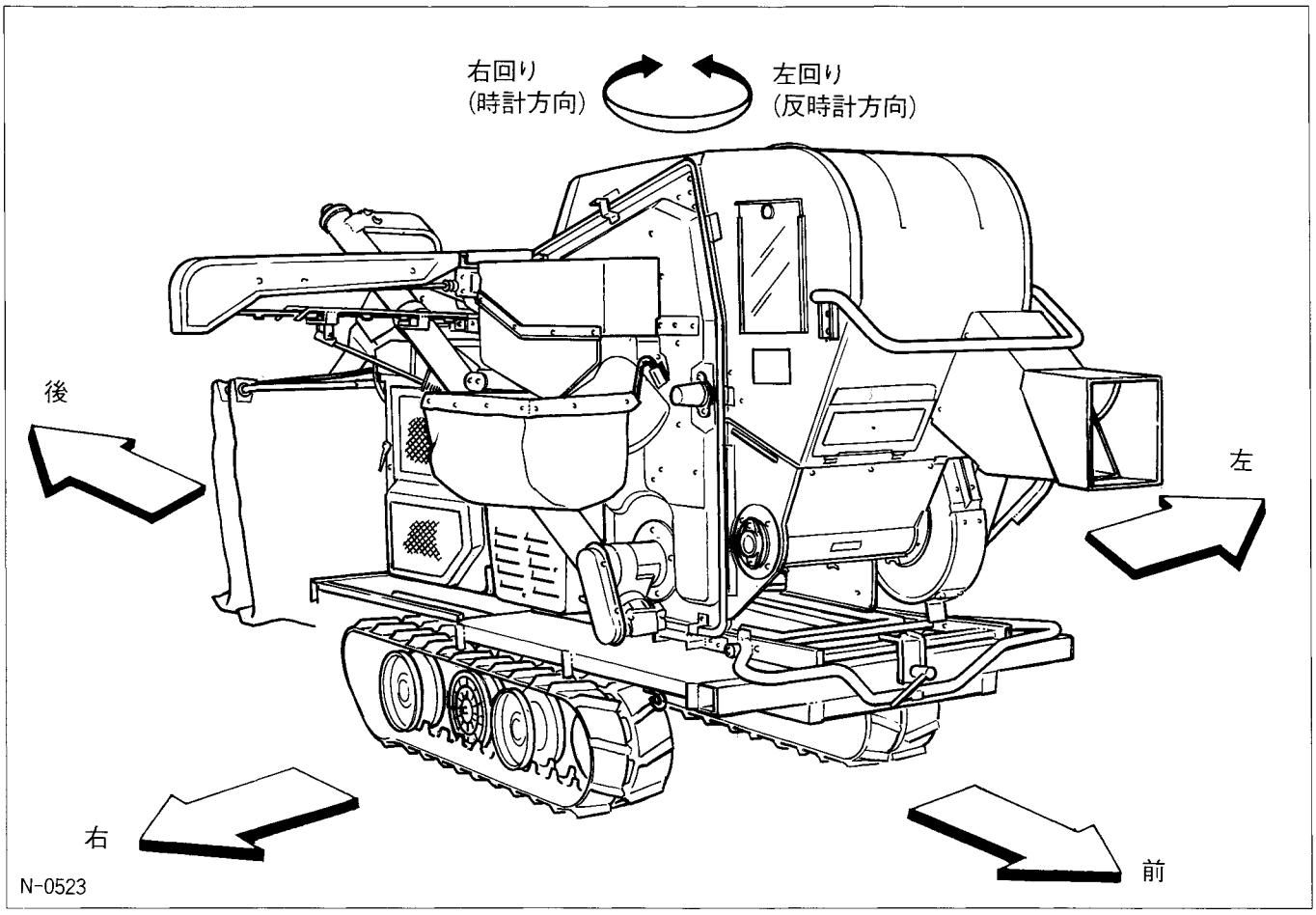

RH1-40・50仕様
エンジン番号
N-0371


RH1-45仕様
エンジン番号
N-0395

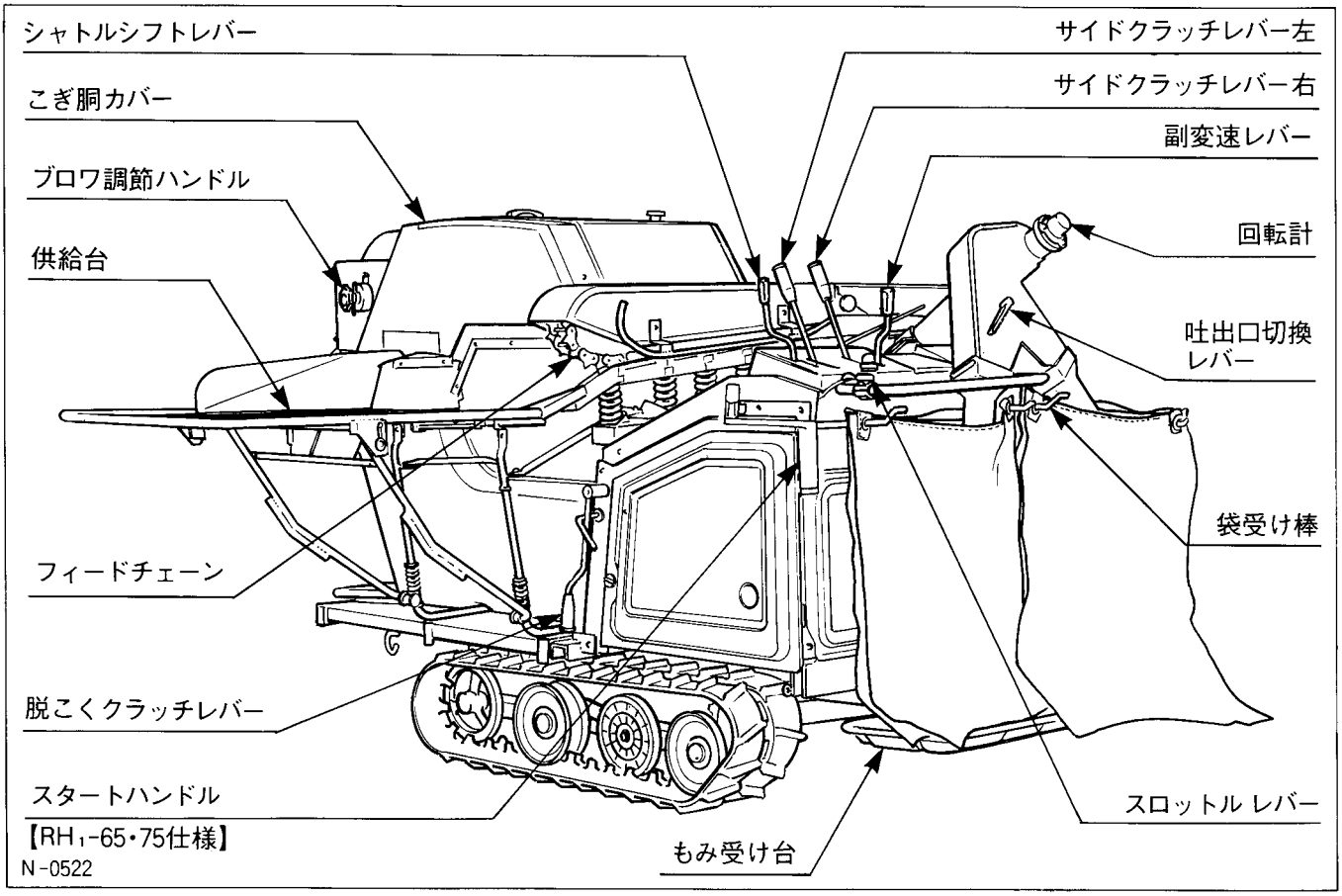

RH1-65・75・95仕様
エンジン番号
N-0445

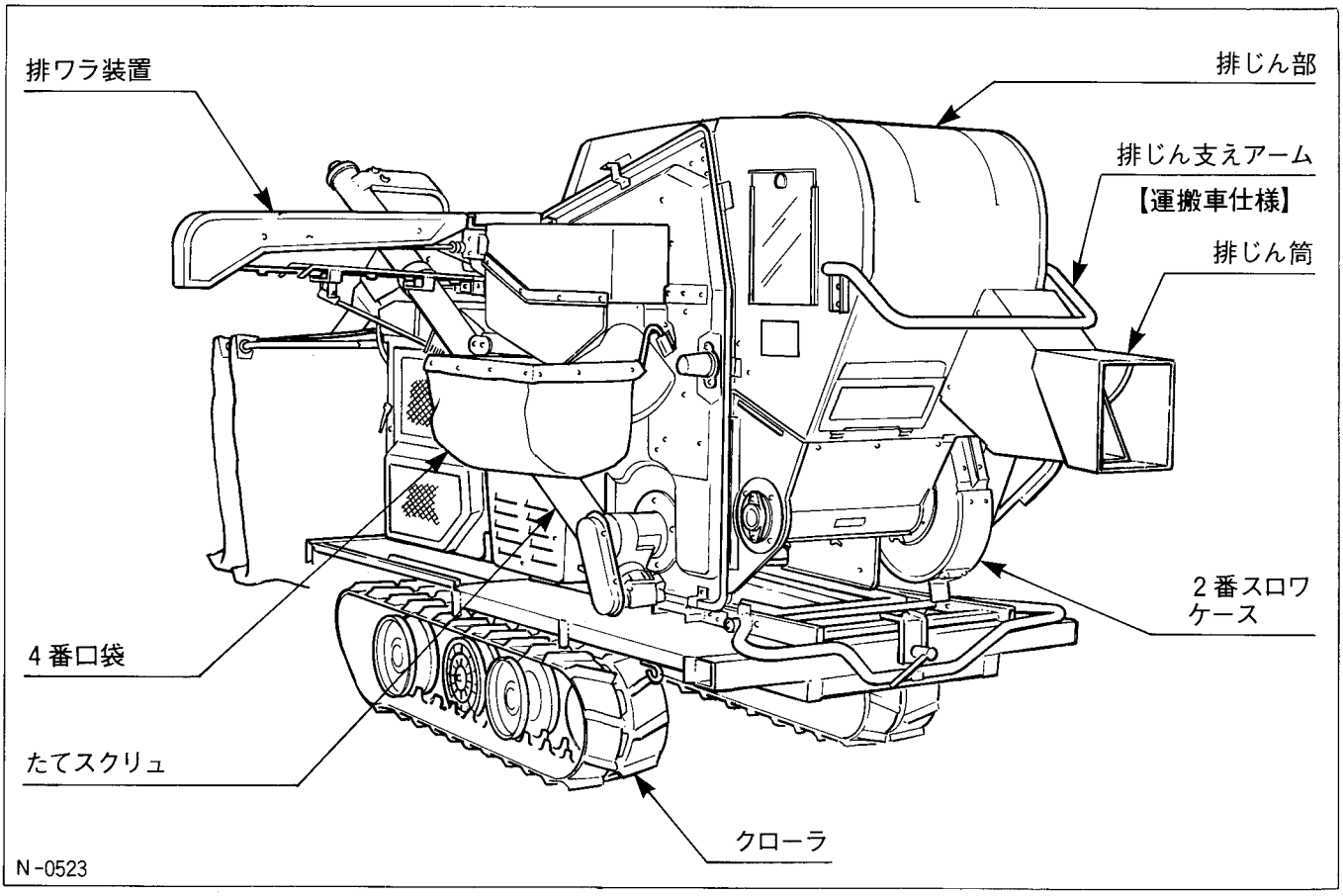
■機体方向説明

この取扱説明書で使用している“前後・左右・左回り・右回り”などの方向は，図示の通りに決めています。



各部の名称


シャトルシフトレバー
こぎ胴カバー
ブロワ調節ハンドル
供給台
フィードチェーン
脱こくクラッチレバー
スタートハンドル
【RH1-65・75仕様】
サイドクラッチレバー左
サイドクラッチレバー右
副変速レバー
回転計
吐出口切換レバー
袋受け棒
スロットル レバー
もみ受け台
N-0522


排ワラ装置
排じん部
排じん支えアーム
【運搬車仕様】
排じん筒
2番スロワケース
4番口袋
たてスクリュ
クローラ
N-0523

運転前の点検

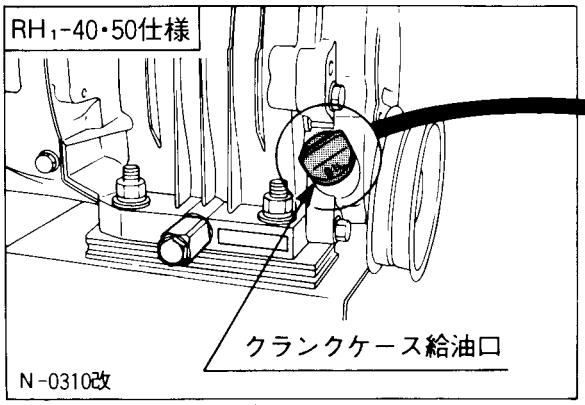
警 告

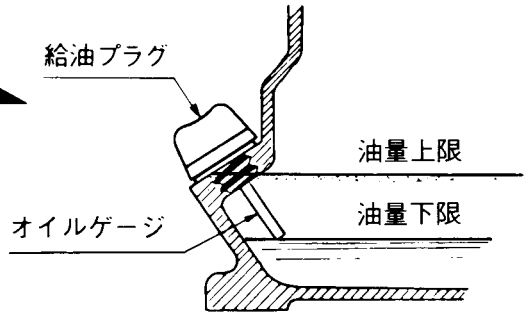
＊火気厳禁!!
＊エンジンは，必ず停止してから行なってください。
＊使用前には必ずオイル，燃料を規定量，給油してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。【RH_1-45・65・75・95仕様】
＊エンジン，マフラ，脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。

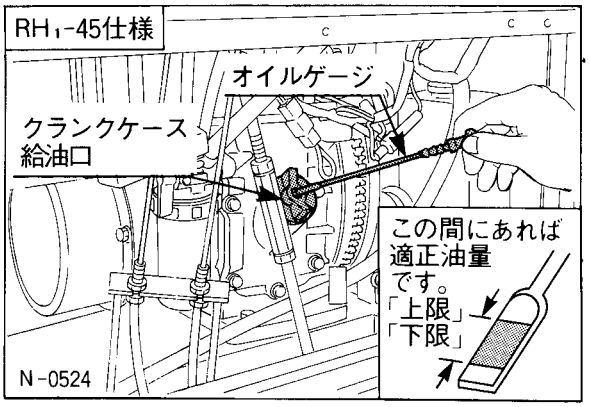
給油

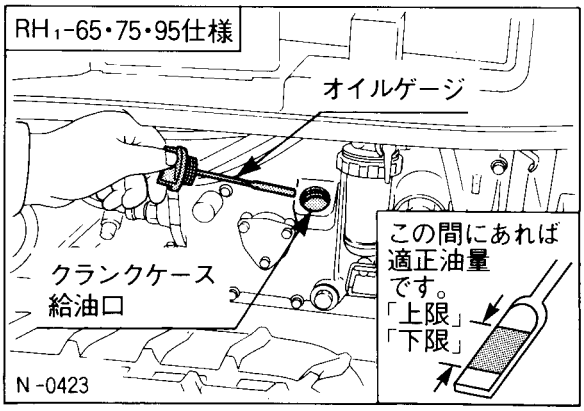
★エンジンクランクケースオイル

オイルゲージで点検し，適正油量まで補給してください。









オイルの種類

【RH_1-40・50仕様】
クボタ純オイルG30(ガソリン,灯油エンジン用)
【RH_1-45・65・75・95仕様】
クボタ純オイルD10W30(ディーゼルエンジン用)

外 気 温	粘 度 ナ ン バ
5℃以下	SAE #10W又は10W—30
5～20℃	SAE #20 又は10W—30
20℃以上	SAE #30 又は10W—30

10W—30はオールシーズン用です。

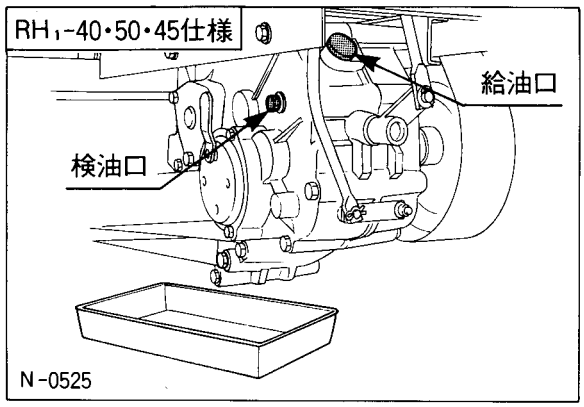
重 要

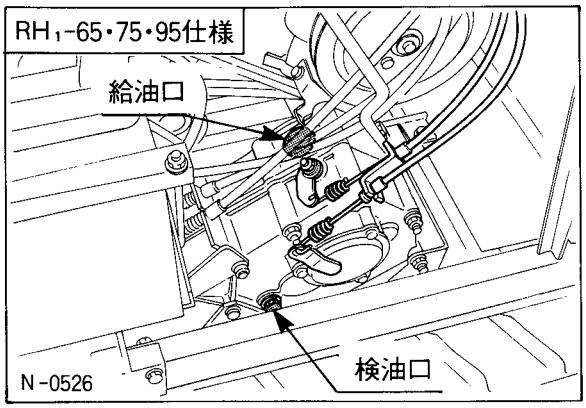
＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
気温に応じて上表の通り使い分けをしてください。

給油

★トランスミッションケースオイル

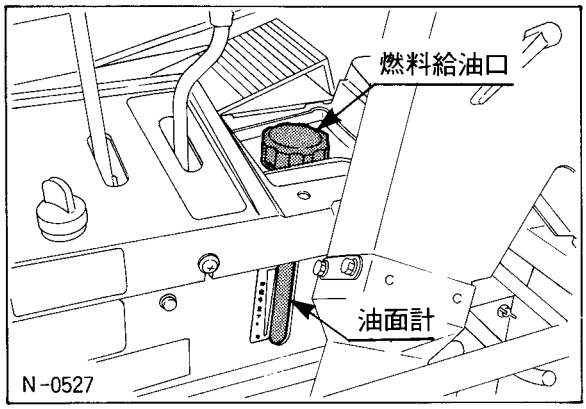
オイルが少ない場合，検油口からオイルがあふれる程度まで補給してください。





オイルの種類 ……クボタ純オイルM80B又はM90(ミッション用)

★燃料の補給



重 要

＊油面計を見ながら入れ，こぼさないこと。
(火災の原因になります)
＊こぼした燃料がトレーなどにたまったときは，
必ずウエスで拭きとってください。

燃料の種類

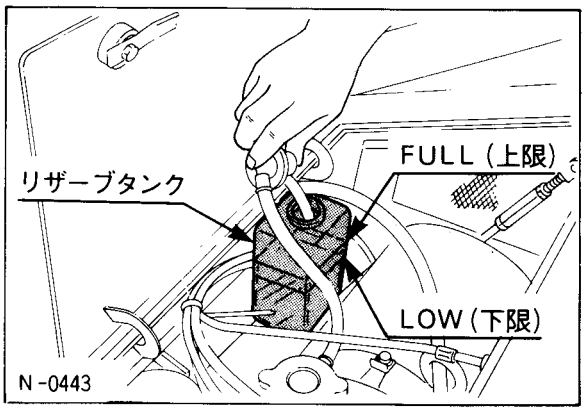
【RH1-40・50仕様】
自動車用レギュラガソリン(無鉛)
【RH1-45・65・75・95仕様】
燃料はクボタディーゼル重油をお使いください。
クボタディーゼル重油の入手が困難な場合はディーゼル軽油をお使いください。
クボタディーゼル重油は共同石油，コスモ石油，日本石油，昭和シェル石油の4社で販売しております。

満たん容量 ……7.0ℓ

給水 RH1-45・65・75・95仕様

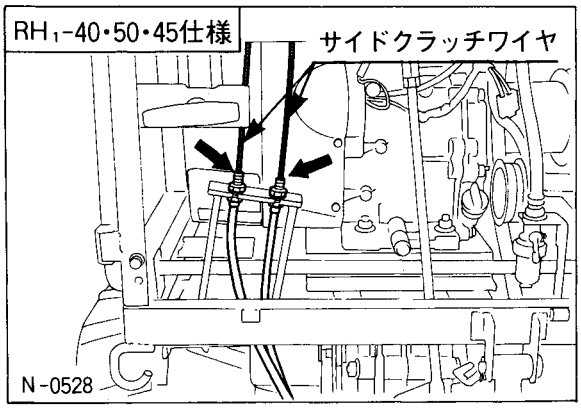
★冷却水の補給(リザーブタンク)

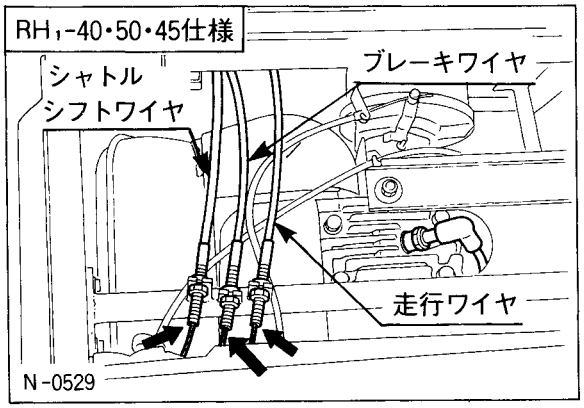
ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
通常は補給の必要はありませんがリザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は，LOWとFULLのレベルの間まで補給が必要です。
FULL以上は入れないでください。

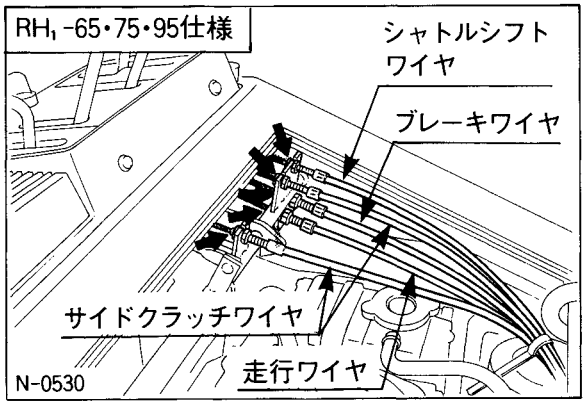


注油

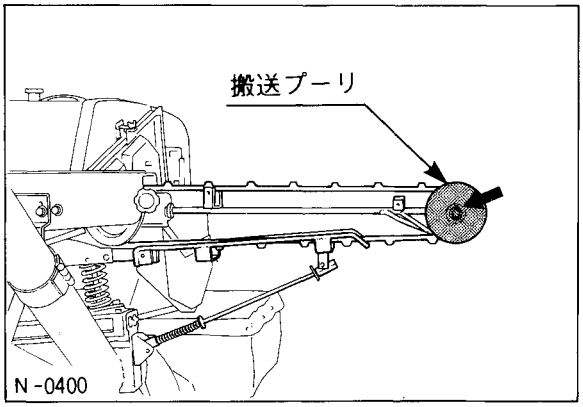
●ワイヤ関係



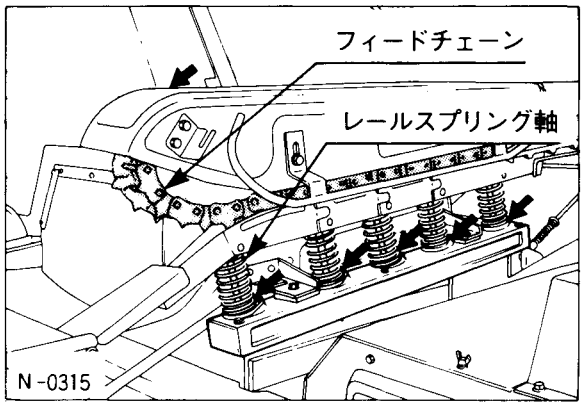




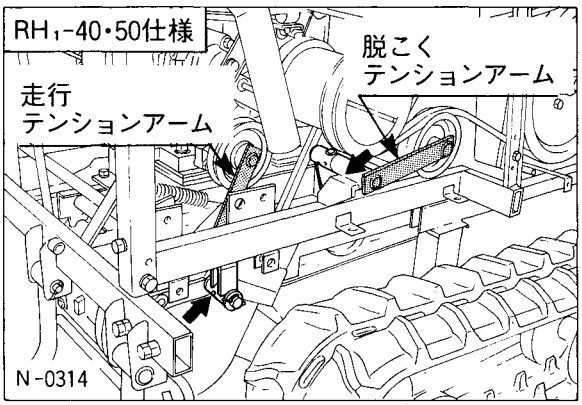
●排ワラプーリ関係

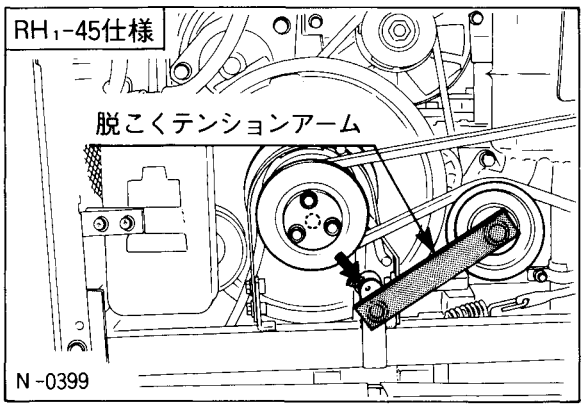


●チェーンレール関係



●テンションアーム関係





上手な運転のしかた

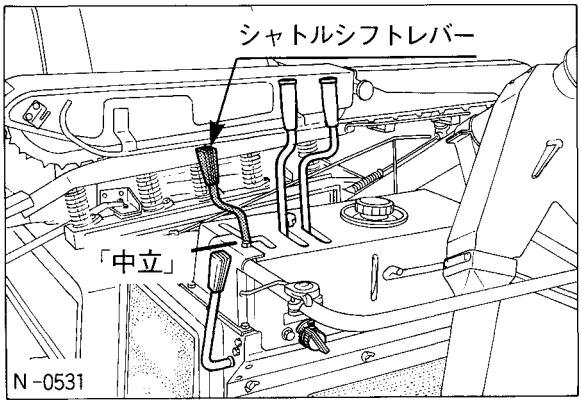
注　意

＊各クラッチレバーを“切”にしてから始動してください。
＊周囲の人に始動の合図をしてから始動してください。
＊スタートハンドルを回す方向，及びリコイルを引張る方向に人がいないか，突起物，障害物がないかを確かめてから始動してください。
＊運転中は必ずジェットスタートコックを締めておいてください。コックをあけていますと，運転中燃料を吸込むおそれがあります。【RH_1-45・65・75・95仕様】

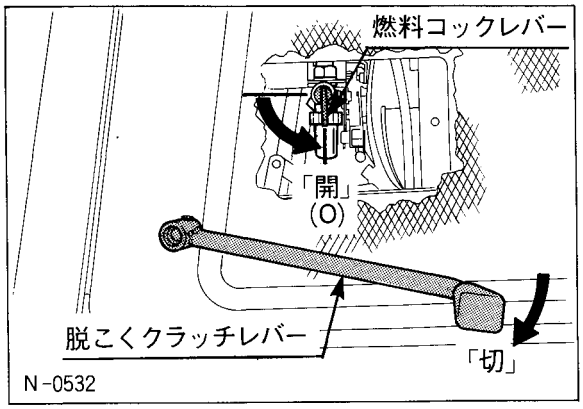
ガソリンエンジンの始動と停止【RH_1-40・50仕様】

始動のしかた

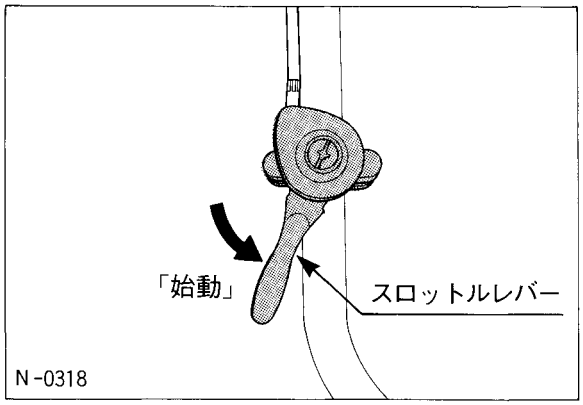
❶シャトルシフトレバーを“中立”の位置にする。



❷脱こくクラッチレバーを“切”の位置にする。
❸燃料コックレバーを“開”(O)の位置にする。
（RH_1-40仕様はカバーを開けてください）



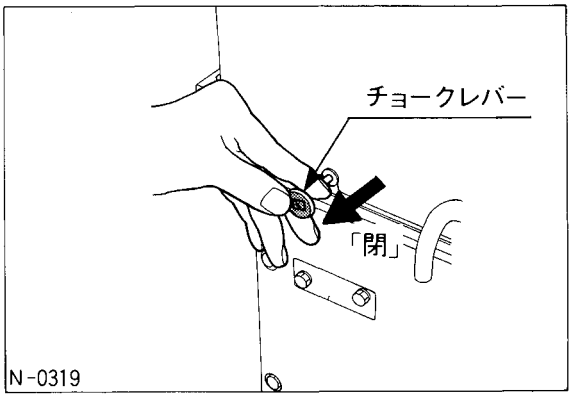
❹スロットルレバーを“始動”の位置にする。



❺チョークレバーを手前に引張って“全閉”にする。

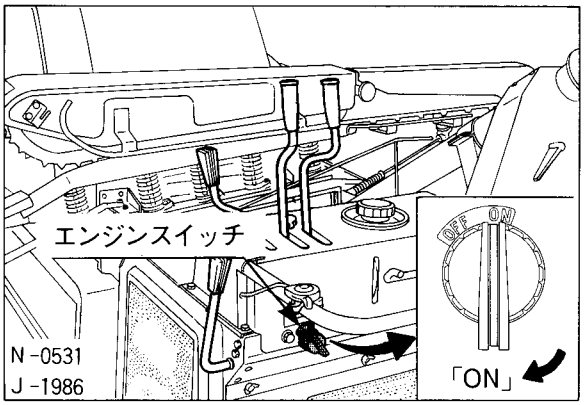
補　足

＊エンジンが暖まっているときは，チョークレバーはそのまま“全開”位置で始動してください。

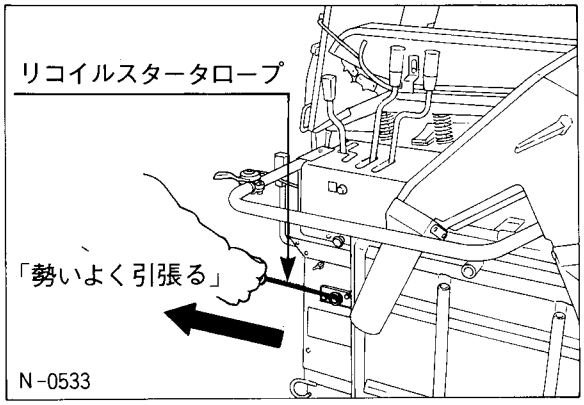


リコイル仕様の場合

❻エンジンスイッチを“ON”の位置にします。

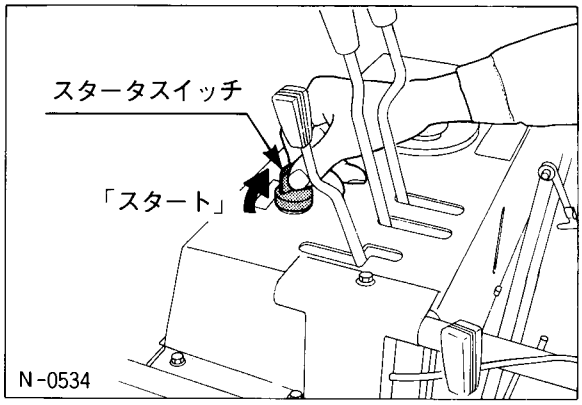


❼リコイルスタータのロープを重さを感じるところまで引き，ロープを一度戻してから勢いよく引張ると，エンジンが始動します。



セル(S)仕様の場合

❻スタータスイッチを“入”にし，“スタート”の位置まで回す。
エンジンが始動すれば，キーから手を放す。



重　要

＊スタータスイッチを“スタート”にし，10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど休止してから再スタートしてください。
15秒以上の使用は，故障の原因になります。

❽始動後，エンジンの調子をみながらチョークレバーを徐々に元に戻す。(“全開”にする)

補　足

＊エンジンが始動すれば，約3分間負荷をかけないで暖機運転し，その後作業に入ってください。
＊エンジンの回転速度を上げるときは，スロットルレバーはゆっくりと操作してください。

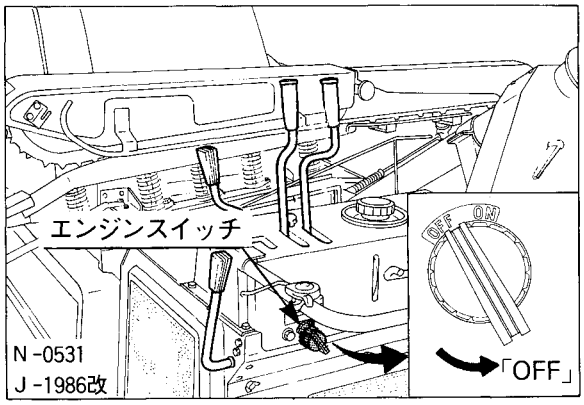
停止のしかた

リコイル仕様の場合

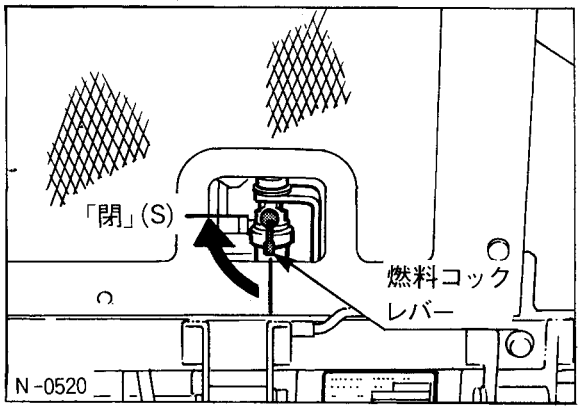
❶脱こくクラッチを“切”，シャトルシフトレバーを“中立”にする。

❷スロットルレバーで，エンジンの回転速度を下げる。(“低速”の位置にする。)

❸エンジンスイッチを“OFF”の位置にすると，エンジンは止まります。



❹停止後，燃料コックレバーを“閉”(S)の位置にする。



重 要

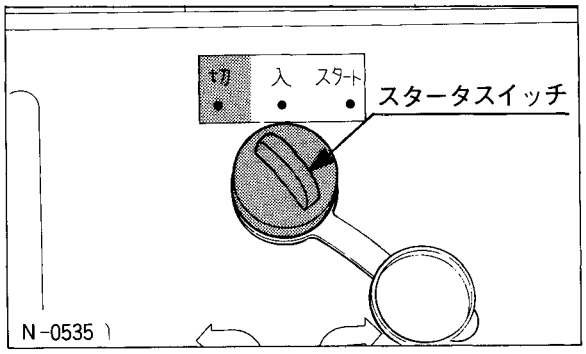
＊高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

セル(S)仕様の場合

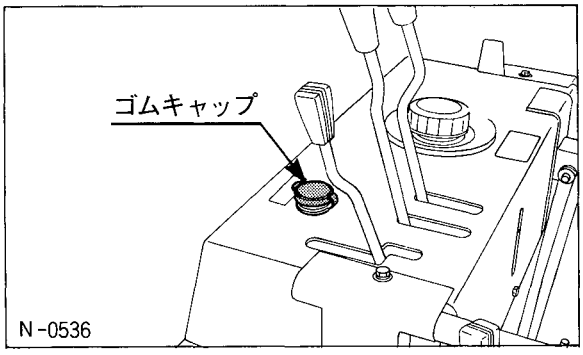
❶脱こくクラッチを“切”，シャトルシフトレバーを“中立”にする。

❷スロットルレバーで，エンジンの回転速度を下げる。(“低速”の位置にする。)

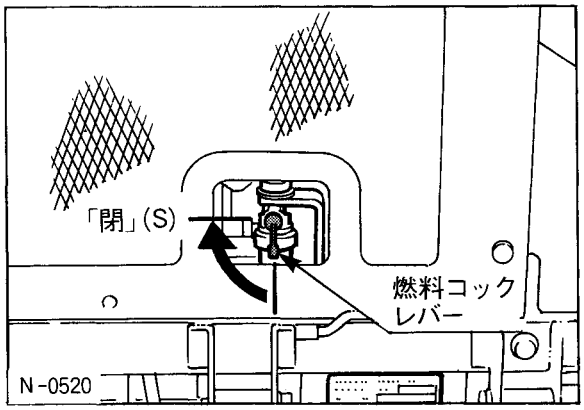
❸スタータスイッチを“切”にして，キーを抜取る。



❹ゴムキャップをする。



❺停止後，燃料コックレバーを“閉”(S)の位置にする。



重 要

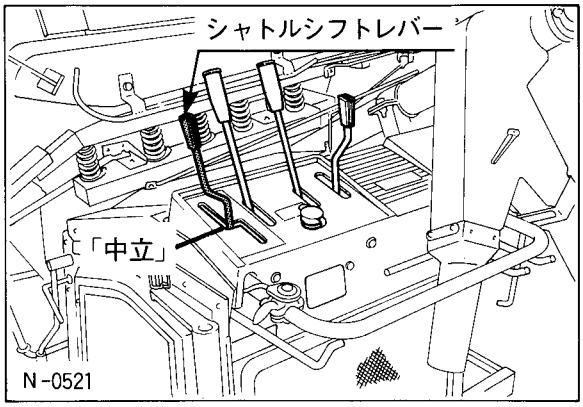
＊エンジン停止後は，必ずスタータスイッチを“切”にしてください。“入”で放置すると電流が流れた状態のままとなり，“バッテリ上がり”の原因となります。

＊高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

ディーゼルエンジンの始動と停止【RH_1-45・65・75・95仕様】

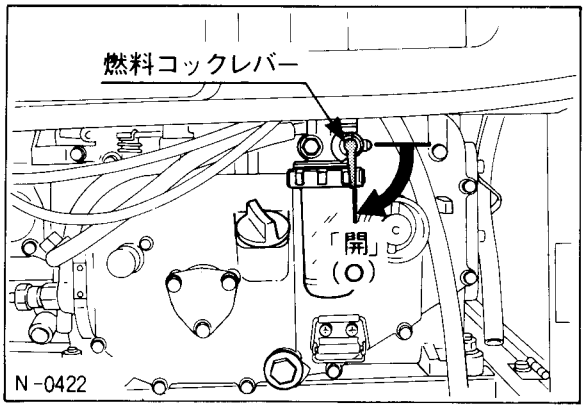
始動のしかた

❶シャトルシフトレバーを“中立”の位置にする。

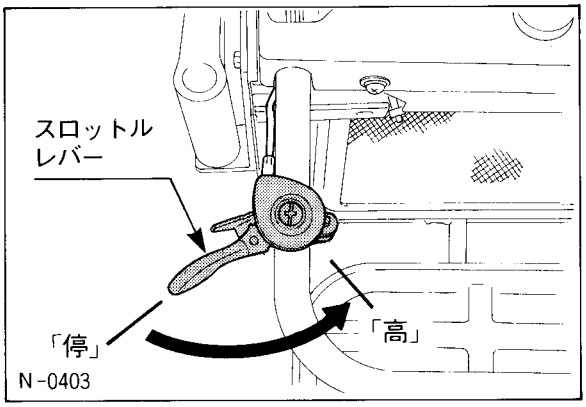


❷脱こくクラッチレバーを“切”の位置にする。

❸燃料コックレバーを“開”(O)の位置にする。



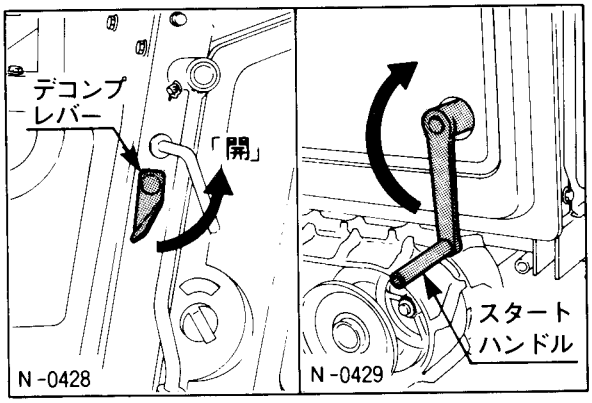
❹スロットルレバーを“高”の位置にする。



クランクハンドル仕様の場合

【RH_1-65・75仕様】

❺左手でデコンプを“開”にし，右手でスタートハンドルをスタート軸に入れ，４～５回空回しして，デコンプレバーを放し，ハンドルが勢いよく圧縮位置を越せば始動します。



注　意

＊クランク軸にスタートハンドル爪が完全に引掛かるまで奥に入れてください。

＊圧縮位置は上と下にありますが，下側に合せて圧縮を越してください。上側に合せると手首を痛めたり，逆転する恐れがあります。

＊デコンプを放すタイミングは，コン！コン！と噴射音が聞こえたら放してください。燃料が噴射する音です。

＊エンジンが始動し始めると，ハンドルは軸から自然に抜けますので，絶対にハンドルから手を放さないでください。

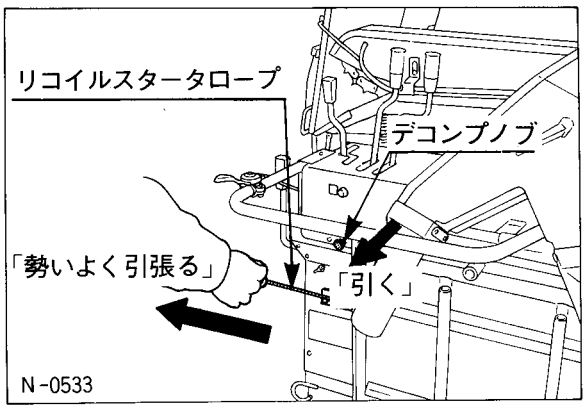
始動のしかた

リコイル仕様の場合【RH_1-45仕様】

❺ウォーミングアップのため，デコンプノブを手で引張った状態で，力強くスタータロープを4～5回引張ってください。

❻リコイルスタータのロープを引張り，圧縮の位置を確認後ロープをゆっくり元に戻す。

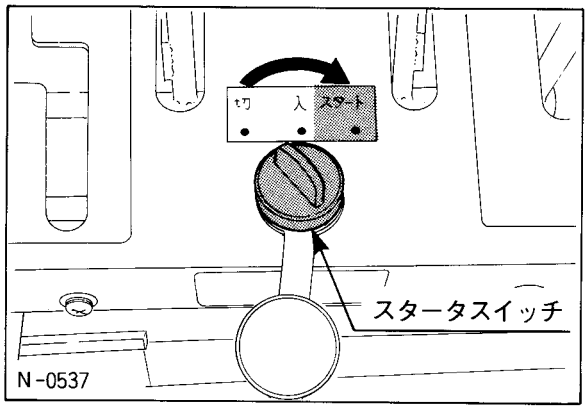
❼デコンプノブを引張り，リコイルスタータのロープを勢いよく長めに引張ってください。デコンプノブは自動的に戻ります。



セル(S)仕様の場合

【RH_1-45S・65S・75S・95S仕様】

❺スタータスイッチを“入”にし“スタート”の位置まで回す。
エンジンが始動すれば，キーから手を放す。



重　要

＊スタータスイッチを“スタート”にし，10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど休止してから再スタートしてください。
15秒以上の使用は，故障の原因になります。

補　足

＊エンジンが始動すれば，約3分間負荷をかけないで暖機運転し，その後作業に入ってください。
＊エンジンの回転速度を上げるときは，スロットルレバーはゆっくりと操作してください。

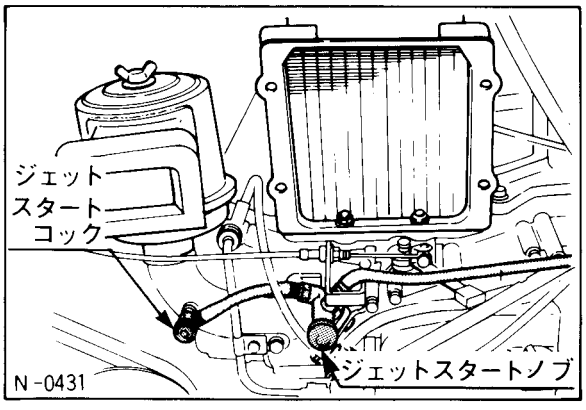
★寒冷時のスタート【RH_1-45・65・75・95仕様】

寒冷時の始動困難な際は，“始動のしかた”の❹と❺の間で，ジェットスタートを御使用になりますと，楽に始動することができます。

❶ジェットスタートコックを左にねじって，コックを開けます。

❷ジェットスタートノブを4～5回引き押しします。(1回につき1cc注入されます)

❸燃料注入が終ればコックを元どおりに完全に締めます。コックを開けていますと，運転中，燃料を吸込む恐れがあります。



重　要

＊始動用燃料は，タンク下部の取出し口からゴムパイプを通りジェットスタートへ吸込まれますが，フューエルタンクの底にゴミや水がたまりますと，ジェットスタートの吸込みが悪くなりますから注意してください。
＊ラジエータに熱湯を入れると，エンジンがあたたまって始動が楽になります。
＊寒冷時最も大切なことは，クランクケースのオイルに，指定のクボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D10W30を使っていただくことです。

停止のしかた

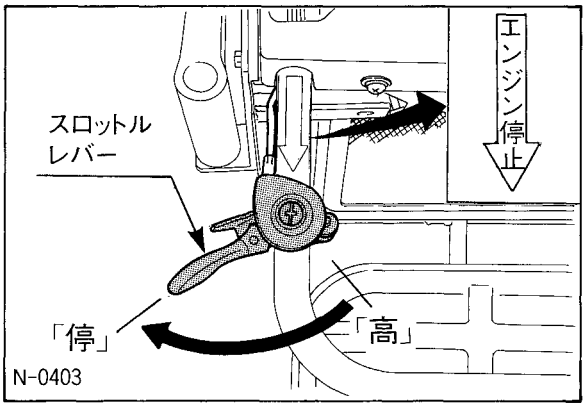
リコイル仕様の場合【RH_1-45仕様】

クランクハンドル仕様の場合

【RH_1-65・75仕様】

❶脱こくクラッチを“切”，シャトルシフトレバーを“中立”にする。

❷スロットルレバーを“停”の位置まで動かすとエンジンは停止します。



❸燃料コックレバーを“閉”(S)にする。

重　要

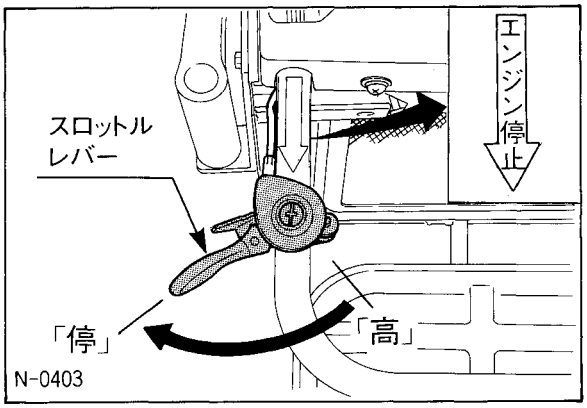
＊この際デコンプレバーやデコンプノブには絶対に触れないでください。バルブ関係が故障します。

セル(S)仕様の場合

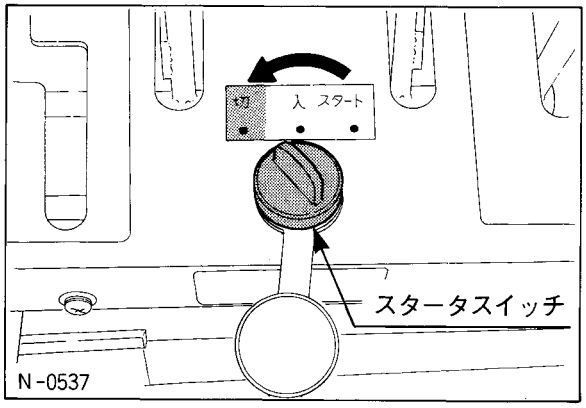
【RH_1-45S・65S・75S・95S仕様】

❶脱こくクラッチを“切”，シャトルシフトレバーを“中立”にする。

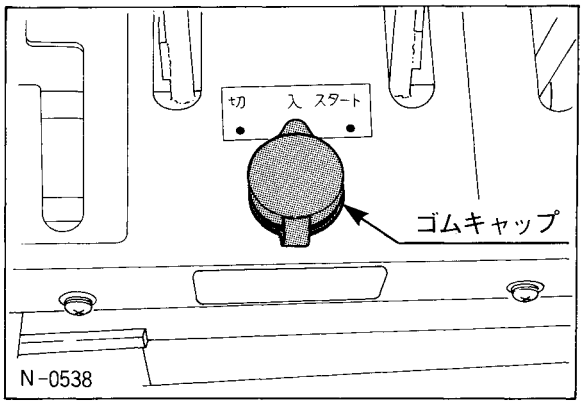
❷スロットルレバーを“停”の位置まで動かすとエンジンは停止します。



❸スタータスイッチを“切”にして，キーを抜取る。



❹ゴムキャップをする。



❺燃料コックレバーを“閉”(S)にする。

重　要

＊エンジン停止後は，スタータスイッチを必ず“切”にしてください。“入”で放置すると電流が流れた状態のままとなり，“バッテリ上がり”の原因となります。

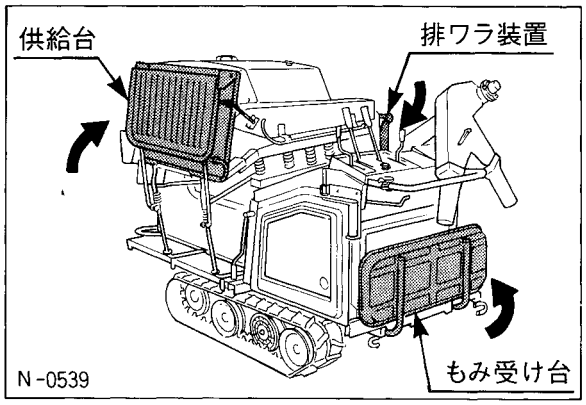
路上走行について

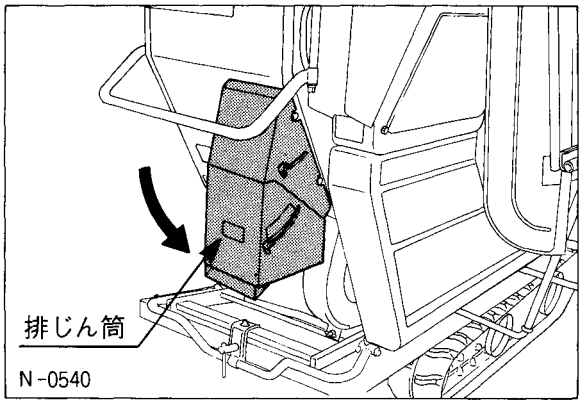
注 意

＊発進の際は，前進・後進を問わず，周囲の安全に充分注意し，確認の上で行なってください。
＊旋回するときは，低速に落としてから操作してください。高速のままでサイドクラッチレバーを引くと，急旋回するので危険です。
＊機械を移動するときは，もみ受け台は必ず折りたたみ，危険ですから絶対に上へ乗らないでください。
＊凹凸はできるだけ避けて，機体にショックがかからないようにしてください。
＊やむをえず，凹凸のはげしい道路，傾斜地(10度を越える傾斜，但し15度以上は無理です。)，道路の端が低くなったり，高くなったりするところを走行するときは，スリップ，転倒，くずれ落ちなどの事故を防ぐため，走行速度は「低速」にしてください。
＊踏切を渡る場合は，必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。
＊この機械は，“道路運送車両法”により公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送をしてください。

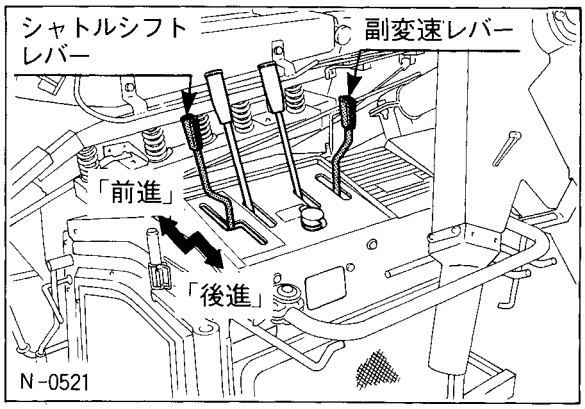
走行のしかた

❶機械を移動するときは，供給台，排ワラ装置，袋受け棒，もみ受け台，排じん筒を折りたたむ。

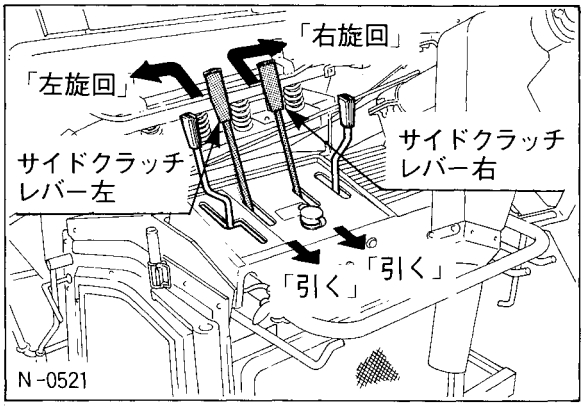




❷エンジンを始動する。
❸副変速レバーを作業条件に合せた位置にし，シャトルシフトレバーを“前進”又は“後進”にすると動き出します。



❹サイドクラッチレバーの操作。

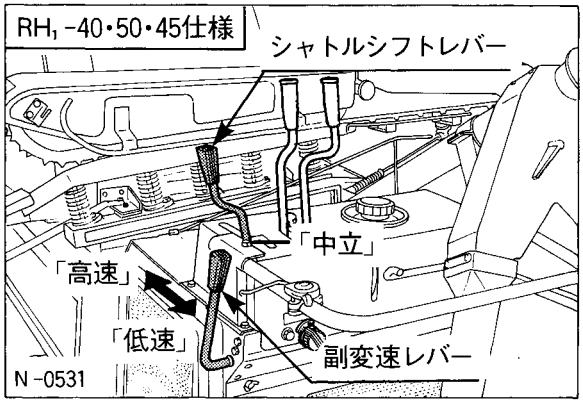


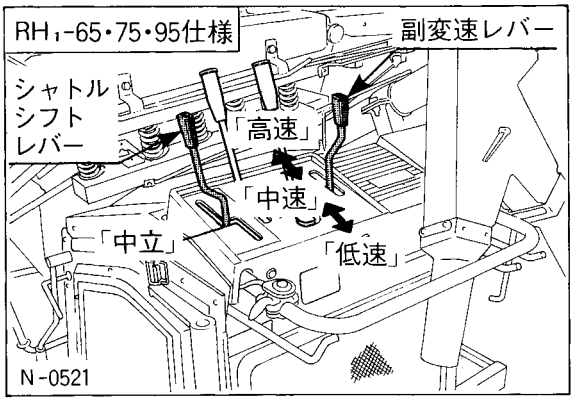
副変速の操作

❶シャトルシフトレバーを“中立”にします。
❷副変速レバーを操作します。
・高速↔低速……【RH_1-40・45・50仕様】
・高速↔中速↔低速……【RH_1-65・75・95仕様】

重 要

＊副変速レバーの切換えは，必ずシャトルシフトレバーを“中立”にしてから行なってください。





停車のしかた

リコイル仕様の場合【RH_1-40・50・45仕様】

❶シャトルシフトレバーを“中立”にする。
❷ストップスイッチを押し，エンジンを停止させる。【RH_1-40・50仕様】
❷スロットルレバーを“停”の位置まで動かし，エンジンを停止させる。【RH_1-45仕様】
❸燃料コックレバーを“閉”(S)にする。

クランクハンドル仕様の場合【RH_1-65・75仕様】

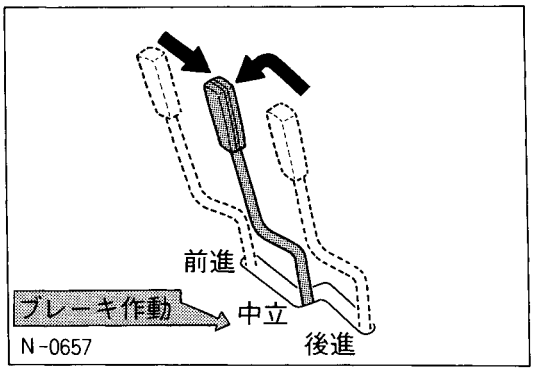
❶シャトルシフトレバーを“中立”にする。
❷スロットルレバーを“停”の位置まで動かし，エンジンを停止させる。
❸燃料コックレバーを“閉”(S)にする。

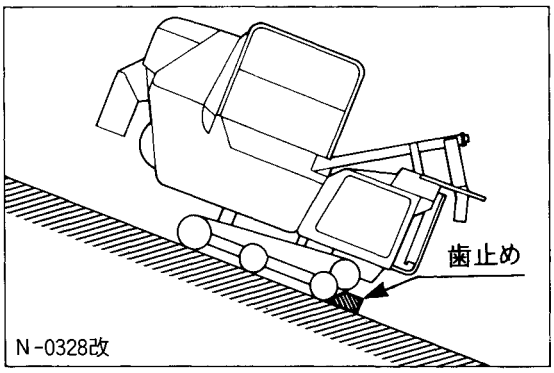
セル(S)仕様の場合

❶シャトルシフトレバーを“中立”にする。
❷スロットルレバーを“停”の位置まで動かし，エンジンを停止させる。
【RH_1-45・65・75・95仕様】
❸スタータスイッチを“切”にする。
❹燃料コックレバーを“閉”(S)にする。

重 要

＊停車する場合は，なるべく平たんな安定した場所にしてください。
やむなく傾斜地に機械を停車する場合は，シャトルシフトレバーをすみやかに“中立”にしてください。
“中立”にするとブレーキが働きます。さらに駐車する場合は，木片などで“歯止め”をして暴走を防いでください。





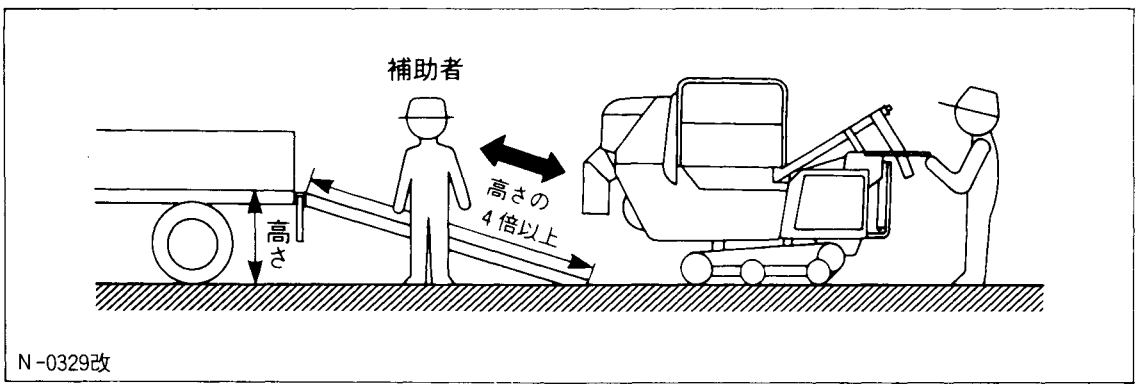
トラックへの積降ろし，運搬

積降ろし

注　意

＊トラックなどへの積降ろしは，周囲に危険物のない平たんな場所を選んで，運転者のほかに監視誘導する補助者を1名おき，慎重に行なってください。

＊アユミ板は，充分な強度，幅(クローラの1.2倍以上)，長さ(高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，ハーベスタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



＊アユミ板のフックは，荷台に段差のないように，またずれないように確実に掛けてください。

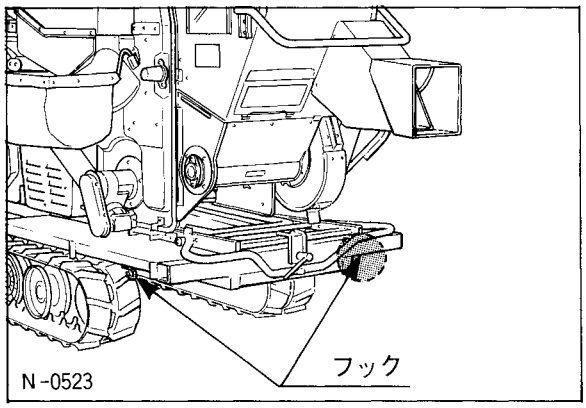
＊アユミ板の途中でサイドクラッチを切ると，機体が急旋回し落下する危険がありますから，絶対に操作しないでください。

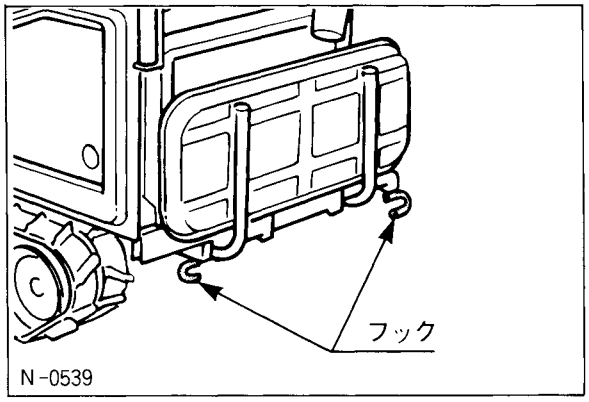
＊サイドクラッチを操作する必要のないように，アユミ板の中央に左右のクローラを合せてから積降ろしをしてください。

＊エンジン回転数と車速は，低速でゆっくりと行なってください。

運搬

トラックやトレーラなどに積んで走るときは，ロープを掛けてください。ロープはフレームの所定の“ロープ掛けフック”に掛けてください。





補　足

＊長距離運搬する場合，供給台が倒れる恐れがありますので，安全を期すためにロープを掛けてください。

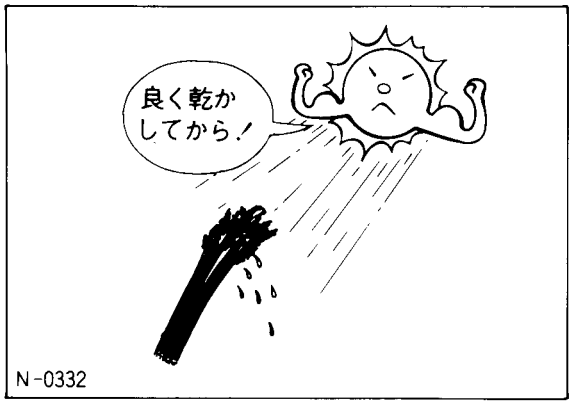
上手な作業のしかた

ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態

作物とほ場の状態が下記の条件より悪いときは，正常なハーベスタ作業はできません。

作物の条件

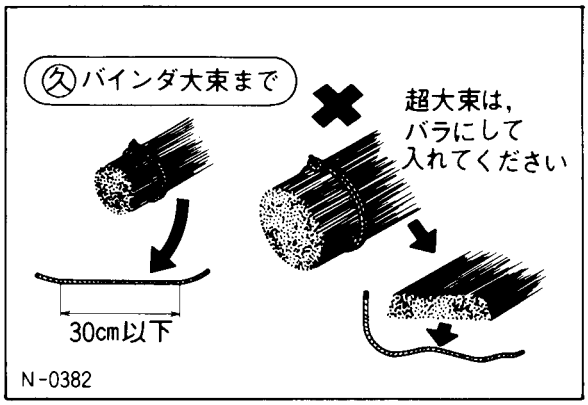
(1)乾いていること。



補　足

＊ぬれていたり，水分が高いと作業能率の低下をまねくと共に，選別不良や脱こく内部の詰まりの原因となりますので，充分乾かしてから作業を開始してください。

(2)束の大きさは，クボタバインダ大束まで。
（ひも周長30cmまで）

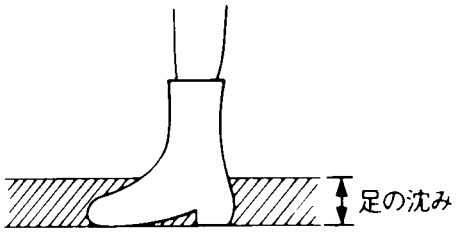


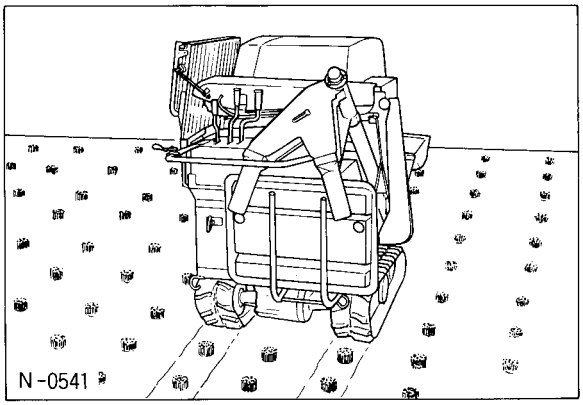
補　足

＊超大束で脱こくしますと，こぎ残し，能率低下，選別不良，脱こくの詰まりの発生をまねくと共に，脱こくの破損にもつながりますので，超大束はバラにして入れてください。

ほ場の条件

(1)人間の足が6 cm程度沈下する所までが，作業の限度です。



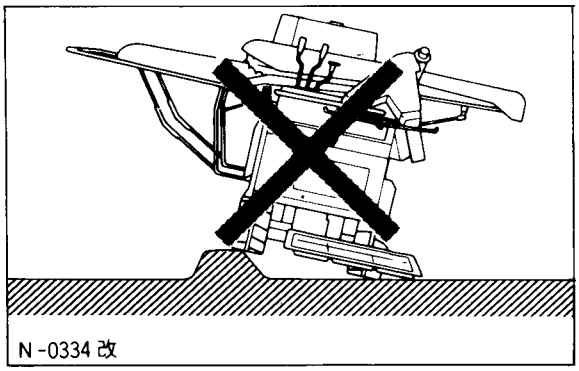


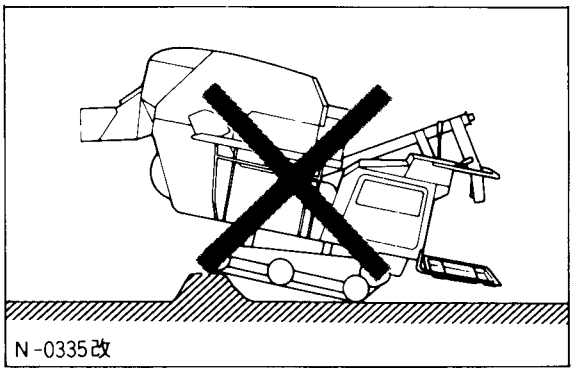
補　足

＊湿田で走行する場合は，クローラが刈株の上を走るようにすると，沈下量が少なくなります。

ほ場の条件

(2)機体が傾斜しない平らな所で作業してください。


N-0334 改


N-0335改

重 要

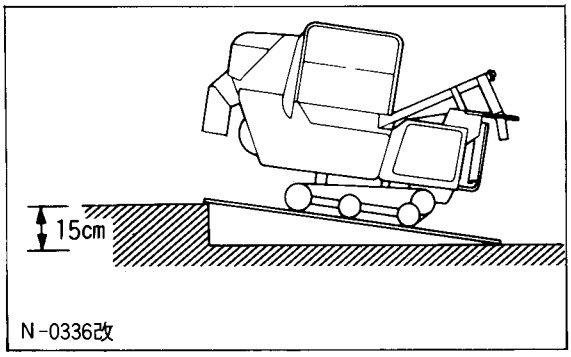
＊脱こくの詰まり，選別不良の原因になりますので，平らな所で作業してください。

ほ場への乗り入れ・あぜ越え

注 意

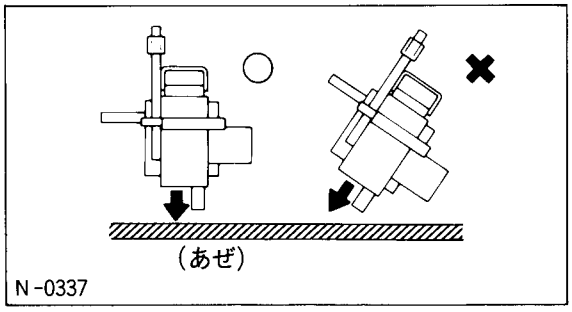
＊速度は低速で，エンストしない程度までエンジン回転を落として行なってください。

(1)15cm以上の高いあぜの場合は，アユミ板を使用してください。



N-0336改

(2)あぜ越えは，エンストしない程度にエンジン回転を落として，あぜに直角に乗越えてください。



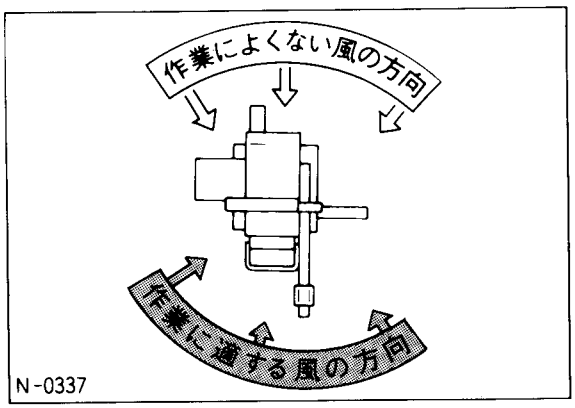
N-0337

作業に適した機械の方向

警 告

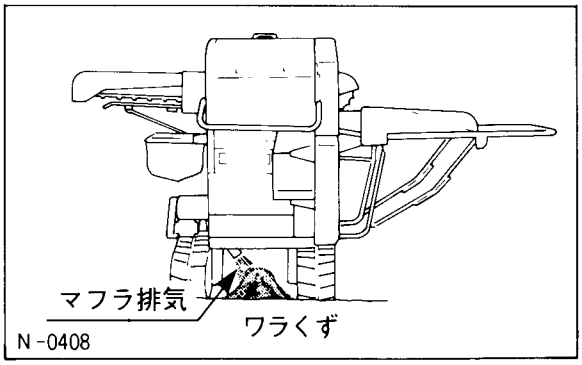
＊ワラくずの上での作業はしないでください。

(1)風が吹く場所での脱こく作業は，下図のように“風の方向”を考慮して作業してください。



N-0337

(2)ワラくずの上で連続作業はしないでください。機体フレームの下に排気管があり，火災の原因になります。

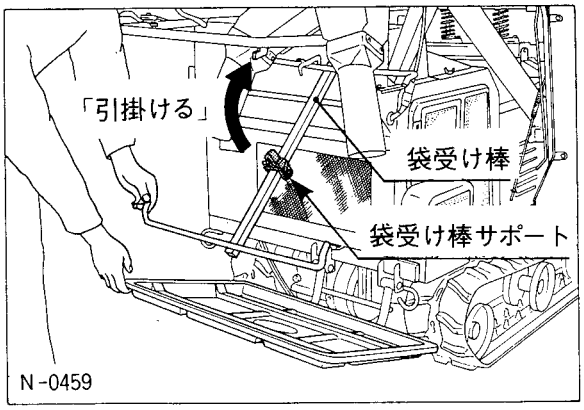


N-0408

★もみ袋の取付け

❶もみ受け台を倒し，袋受け棒を持上げ，袋受け棒サポートをハンドルに引掛け固定する。

【RH_1-40・50・45仕様】

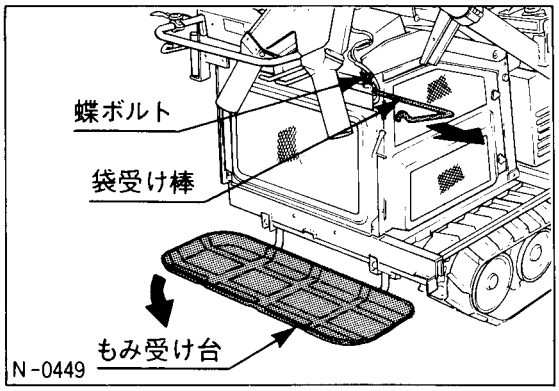


補　足

＊もみ受け台は，掛け金具を外さないと倒れません。

❶もみ受け台を倒し，袋受け棒を引出し，ロールピンがパイプに引っかかったら蝶ボルトで固定する。

【RH_1-65・75・95仕様】

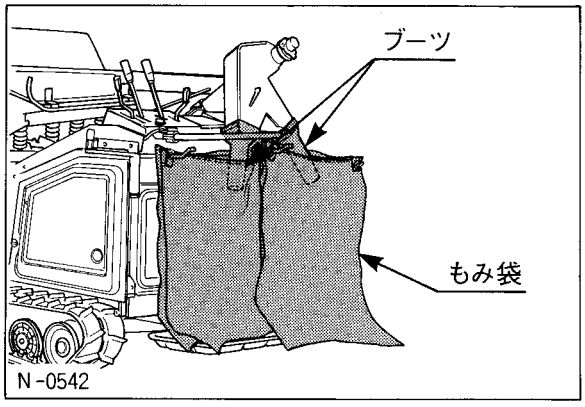


補　足

＊もみ受け台は，掛け金具を外さないと倒れません。

❷袋受け棒に，もみ袋をかける。１番端の袋は，吐出口ブーツを中に入れる。(左右共)

【RH_1-40・50・45・65・75仕様】



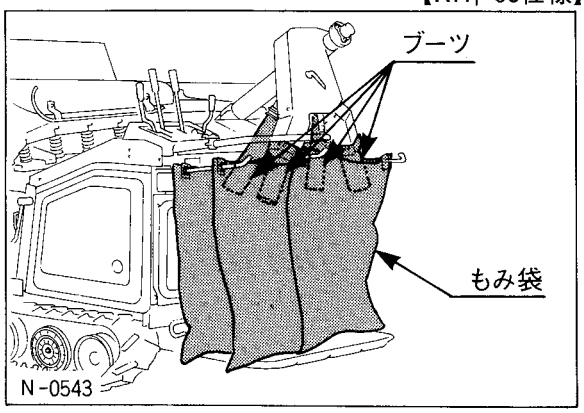
補　足

＊左右共，同じ枚数(10枚)入れてください。

＊袋のチャックは，全て開けてから取付けてください。

❷袋受け棒の奥側フック(オーバフロー用)に，左右共もみ袋をかけ，ブーツを中に入れる。次に，順次もみ袋をかけてゆき，１番手前の袋にも左右共，ブーツを中に入れる。

【RH_1-95仕様】



補　足

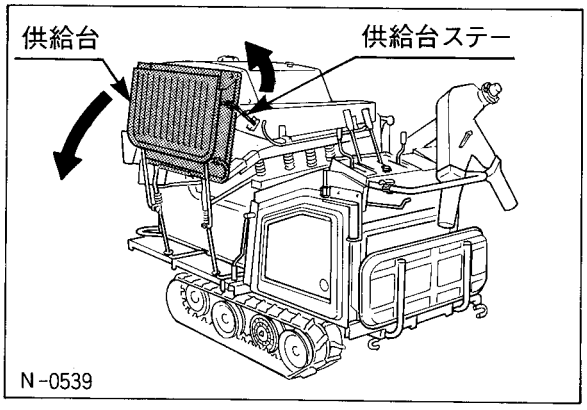
＊左右共，同じ枚数(10枚)入れてください。

＊袋のチャックは，全て開けてから取付けてください。

★供給台の出しかた

❶供給台ステーをフィードチェーンカバーより外す。

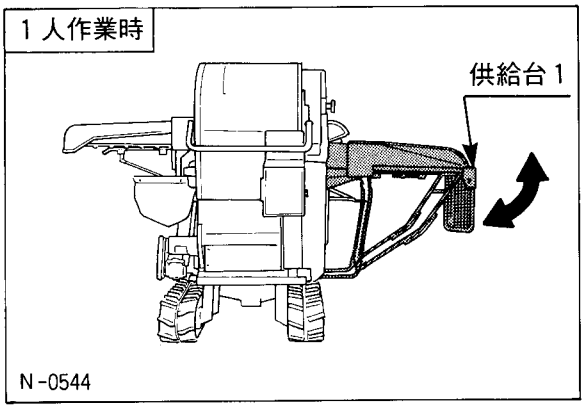
❷供給台を倒す。

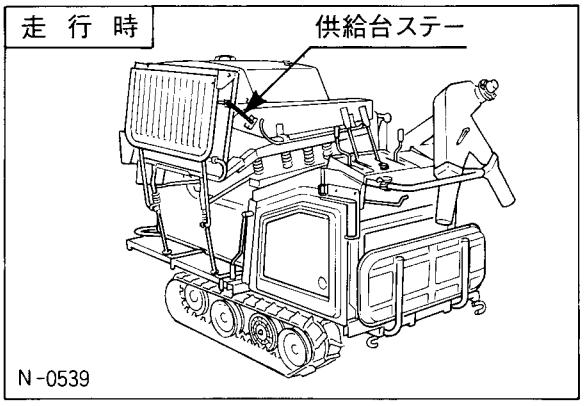


★供給台の取扱い

(1)供給台は２段折りたたみができます。１人作業を行なうときなどは供給台１を図のように下側に折りたたんで使用すると便利です。

(2)路上又はほ場での走行時は，必ず供給台を図のように折りたたんで供給台ステーでセットしてください。



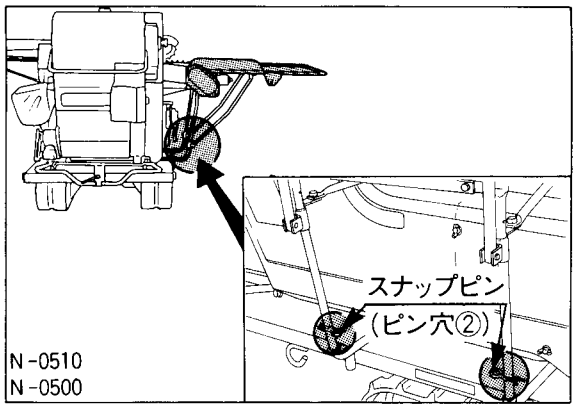


★供給台の高さ調節のしかた【RH_1-95仕様】

身長や作業条件に合せて最適な作業ができるよう，供給台の高さは，２段階に調節できます。

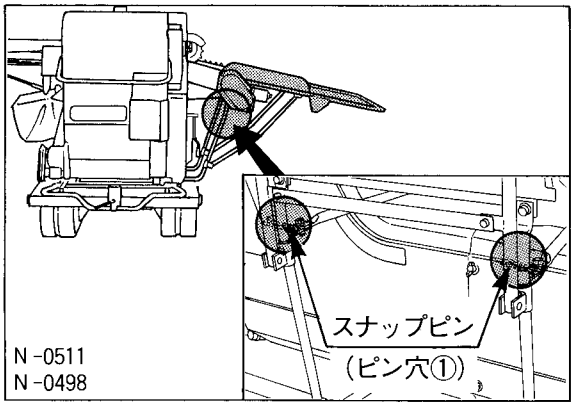
◆水平にする場合【工場出荷時】

スナップピンをピン穴②に差込んで，供給台を倒してください。



◆斜めにする場合

スナップピンをピン穴①に差込んで，供給台を倒してください。

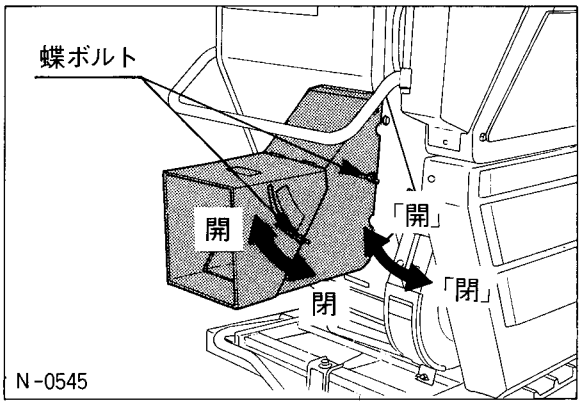


供給台の高さが，地上より約77㎝になります。

★排じん筒の取扱い

工場を出荷するときは，下向きにたたんであります。脱こく作業をするときは２段折りたたみのため，蝶ボルト２本をゆるめ，上にいっぱい出してください。

上に出した後は，蝶ボルトで確実に固定してください。



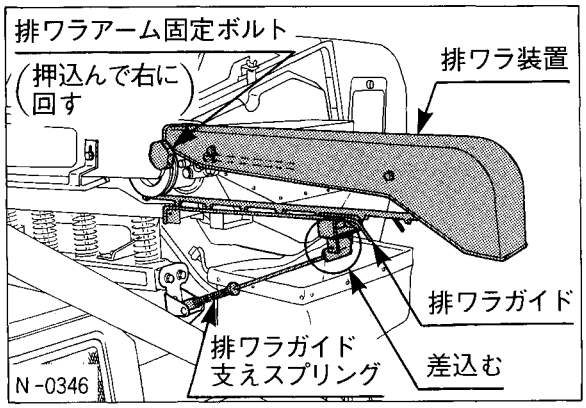
作業前の各部の準備

★排ワラ装置の取扱い

注 意

＊調節は，エンジンを必ず停止してから行なってください。

工場を出荷するときは，下側にたたんであります。脱こく作業をするときは，上側へ出して水平にし，排ワラアーム固定ボルトで固定してください。排ワラガイドは，ワンタッチで差込んで組立てできるようになっています。
（納品時，排ワラガイド支えスプリングに巻いてあるスポンジは外してください。）



ハーベスタ作業のしかた

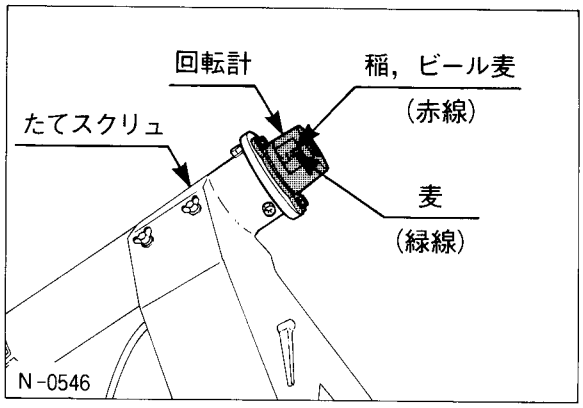
注 意

＊エンジンを始動したり，各クラッチを入れるときは，共同作業者に合図して，安全を確認してください。
＊作業中には，脱こくの回転部に，手や体を近づけないようにしてください。
＊異常が発生したときは，エンジンを必ず停止してから点検してください。
＊外装品(安全カバー)を取外しての作業は絶対にしないでください。
＊ワラくずの上で作業又は停止しないでください。機体フレーム下に排気管があり火災の原因になります。
＊脱こく作業終了後は，3分位空運転し，脱こく機内のワラくずを完全に排出してください。
＊脱こく作業を終えてシートを機械にかけるときは，火災の原因になることがありますので，エンジン，マフラが冷えてからにしてください。
＊エンジン，マフラ，脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。なお，点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

★こぎ胴回転数の合せかた

エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを“入”にし，スロットルレバーで下表のように調整してください。

	回転計表示
稲，ビール麦	赤　線
麦	緑　線



重　要

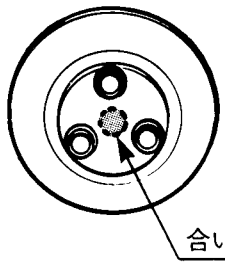
＊脱こくクラッチレバーは，エンジン回転が低速のとき“入”にしないでください。エンジン停止などの原因になります。(スロットルレバーを高の位置にしてから，脱こくクラッチレバーを“入”にする。)

＊稲，ビール麦で脱ぷなどの損傷が目立つ場合は，回転計の指針を赤線より少し手前に合せてください。

＊回転は無負荷にて合せてください。

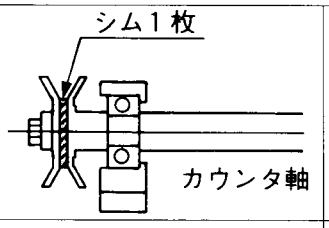
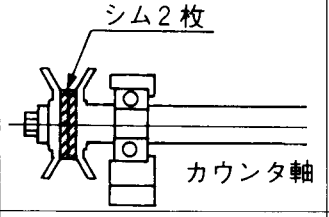
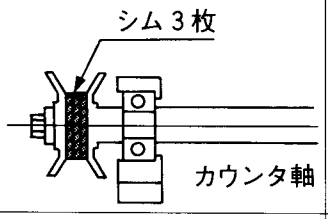
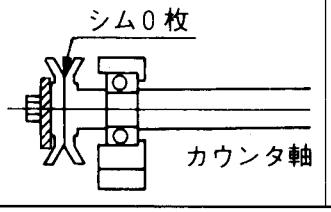
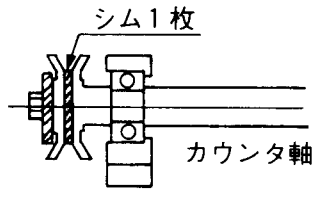
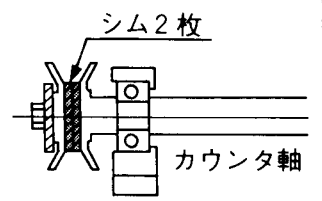
★エンジン変速プーリの調節【RH_1-45仕様】

麦作業で１番口に穂切れ・ノゲ・稈の混入が多いときは，変速プーリを外して逆方向に取付けてください。

稲（出荷標準）		合いマークを内側に向ける。
麦	N-0399改	合いマークを外側に向ける。

★カウンタ割りプーリの調節(稲，麦回転調節)【RH_1-65・75・95仕様】

稲，麦の調整はカウンタ出力プーリのシム調節により，脱こく回転を調整します。

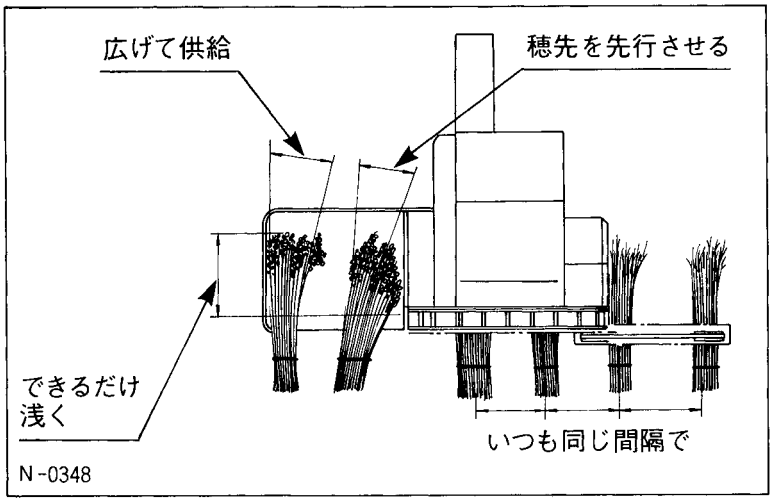
	RH_1-65	RH_1-75	RH_1-95
稲・ビール麦（出荷標準）			
麦			

脱こくの操作のしかた

★ワラ束の供給のしかた

(1)穂先を先行させるようにして，束を広げて等間隔に供給してください。

(2)供給深さはこぎ残しのでない範囲で浅く供給してください。



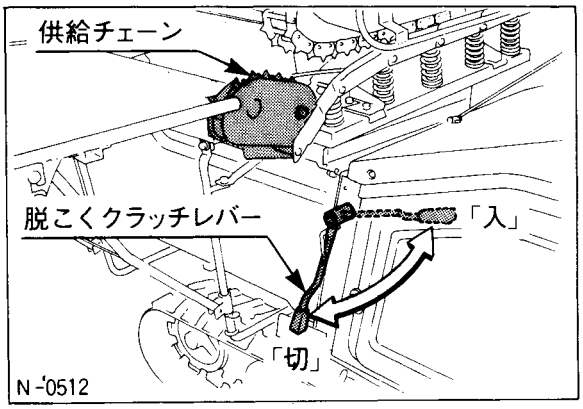
守らないと！	こうなります！
●穂先が先になるように供給してください。	(1)ワラが傷みます。 (2)排じん量が多くなります。 (3)こぎ残りが出やすくなります。
●束が大きいとき広げて供給してください。	(1)馬力を多く要します。 (2)こぎ残りの原因になります。 (3)能率が低下します。 (4)こぎ胴，フィードチェーンでの詰まりの原因になります。
●回転にむらの生じないように，常に一定の負荷で作業してください。	(1)詰まりの原因になります。 (2)安定した性能が発揮できない場合があります。
●脱こく中や後仕末のときは，工具類，石，棒切れなどをワラくずと一緒に供給しないように注意してください。	(1)機械の破損を生じます。 (2)異物混入の原因になります。
●水分が高い(生こぎ)場合の作業時には，束の供給量を少なくしてください。	(1)能率が上がりません。 (2)詰まりの原因になります。

★簡易供給装置の取扱い

警 告

＊供給チェーンに，手や衣類などを巻込まれないように注意しながら作業を行なってください。

(1)エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを“入”にすると，脱こく部と供給チェーンが作動します。



補 足

＊このとき，供給チェーンの上にワラ束が乗っていると，脱こく部に供給されてしまうことがあります。

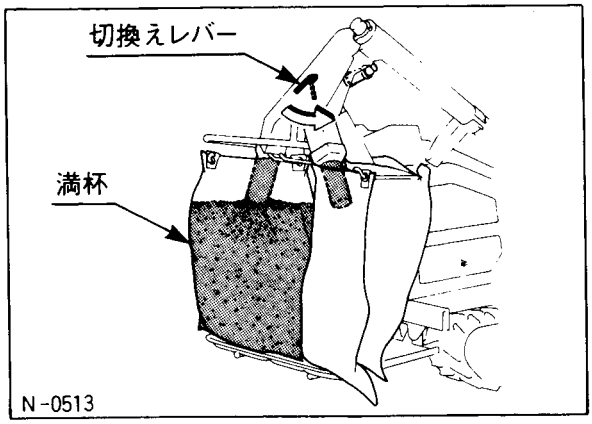
(2)株元は供給チェーンで自然に搬送されますが，穂先側は搬送されませんので穂先を先行させるように供給してください。

(3)ワラ束を供給台に山積みすると，こぎ手の者が効率よく作業ができなくなります。供給台には，４～６束位づつ供給チェーン部を避けた範囲に，平均に並べて置く方が，こぎ手の者は楽に効率よく作業を行なうことができます。

重 要

＊供給チェーンは，バッテリからモータで駆動しています。キースイッチやヒューズが切れていると作動しなくなります。

★吐出口の取扱い



作業中，手前左右の片方の袋が満杯になると，ブザーが数秒間鳴り，吐出口切換えレバーが自動的に左右に切換わりますので，速やかに次の袋にブーツを入れ，満杯の袋を取外してください。

重 要

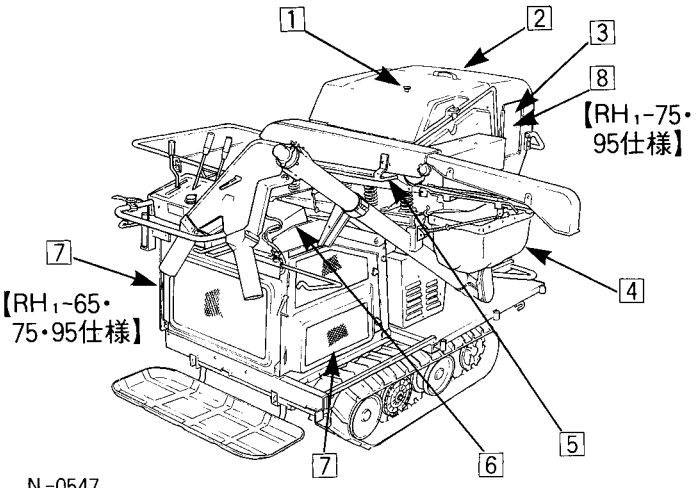
＊そのまま放置していると手前左右共に満杯になり，再度ブザーが数秒間鳴り，吐出口切換えレバーが切換わります。
次に，連続でブザーが鳴り出すと，オーバフロー出口より後方の袋に流れ出しますが，もみが詰まって機械が破損する恐れがあります。
安全のため，なるべく早目に取外してください。

＊後方左右のオーバフローの袋にもみがたまりすぎると，手前の袋を押すため，作業がしにくくなります。早目に脱こくクラッチレバーを切り，袋を交換してください。

＊吐出口切換えレバーは，フザーが鳴り出してから数秒間は，手動では操作できません。

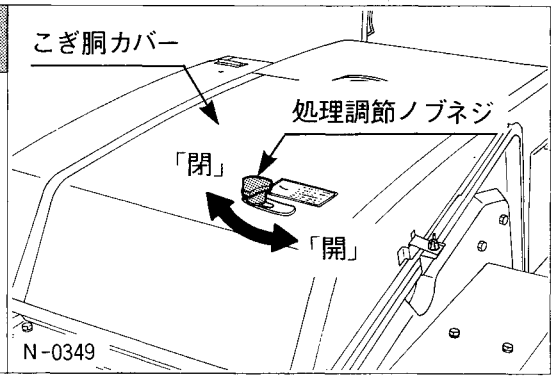
作業に適した調節のしかた（◎印は，出荷標準です。）

No.		調節範囲	適応
1	処理調節	開 閉	湿った稲，麦の脱こく 上記以外特に3番口に小枝梗付が出るとき
2	ブロワ・吸引調節	強 標 弱 N-0046	よく乾燥して３番飛散が多いとき 乾燥稲，ビール麦 湿った稲，麦（ビール麦を除く） １番口に切ワラが混入する
3	排じん仕切板の調節	排じん仕切 下 上 排じん仕切板取外す	よく乾燥して３番飛散が多いとき 乾燥稲，麦 麦でワラ発生が多く，詰まるとき
4	選別調節板の調節 （１番流し板）	上 中 下	穀粒の傷みが多いとき 乾燥しているとき 選別が悪く，長ワラが多く入るとき
5	案内パイプの調節	上 中 下	大　束 標　準 バラこぎ，引ぬきが多いとき
6	株元ガイドの調節	前 後	短稈で大束 たてスクリュパイプに束が当る場合 長稈でたてスクリュパイプに束が当る場合
7	エンジン変速プーリの調節【RH_1-45仕様】 カウンタ割プーリの調節【RH_1-65・75仕様】	稲 麦	稲，ビール麦 小麦，大麦で１番口に切ワラや「ノゲ」が混入するとき
8	排じんガイド３の調節 【RH_1-75・95仕様】	上 中 下	ワラ発生が多く，詰まるとき 標　準【RH_1-75仕様】 標　準【RH_1-95仕様】

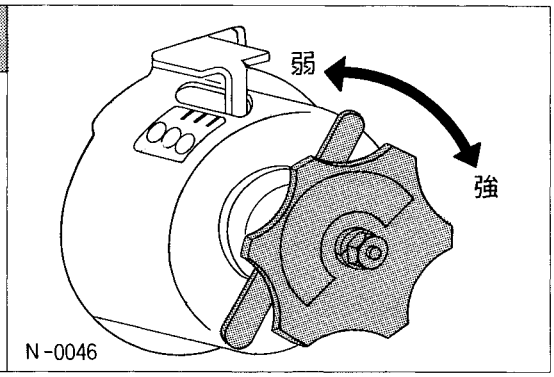


【RH1-45仕様】

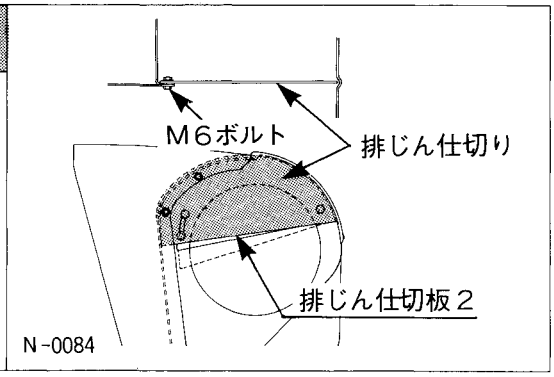
1 処理調節



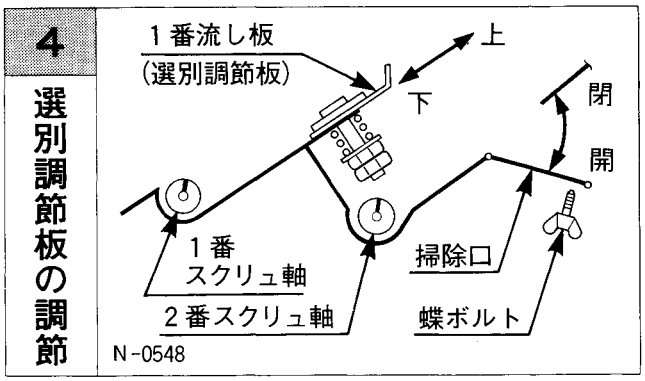
2 ブロワ・吸引調節



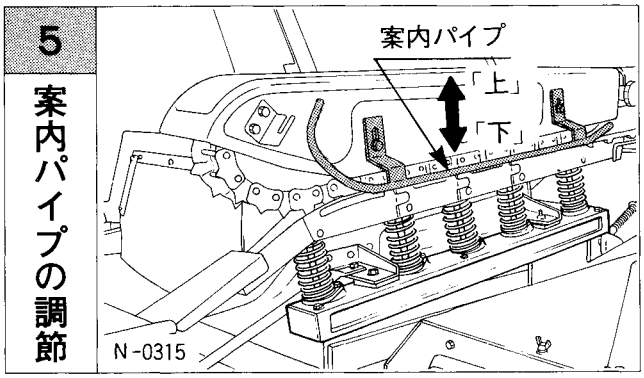
3 排じん仕切板の調節



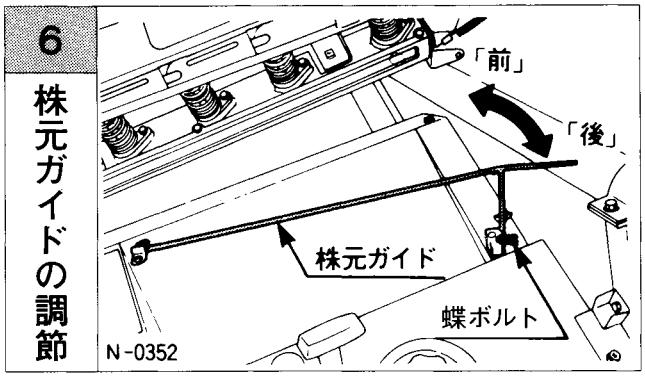
4 選別調節板の調節



5 案内パイプの調節

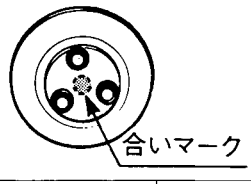


6 株元ガイドの調節



7 エンジン変速プーリの調節

【RH1-45仕様】



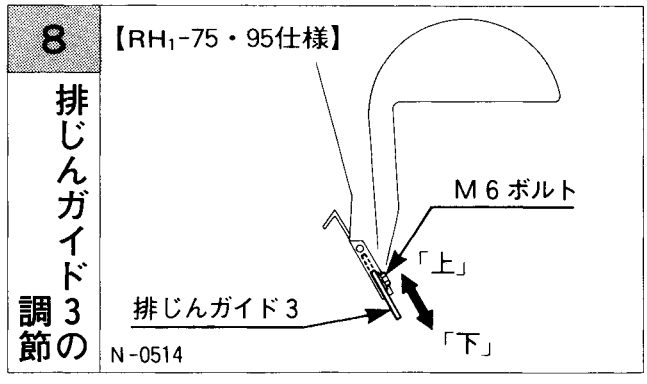
合い マーク	稲	内側
	麦	外側

カウンタ割りプーリの調節

	RH1-65	RH1-75	RH1-95
稲	シム1枚	シム2枚	シム3枚
麦	シム0枚	シム1枚	シム2枚

8 排じんガイド3の調節

【RH1-75・95仕様】



不調時の点検と処置

状　態	原　因	処　置　方　法	参照ページ
3番口(排じん筒)からこく粒の飛散が多い。	①こぎ胴の回転速度が速すぎる。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	22ページ
	②ブロワの回転速度が速すぎる。	ブロワを調節して回転速度を遅くする。	25・26ページ
	③エンジンの回転変動が大きい。	エンジンを点検，調節する。 正しいこぎ方をする。	22･32･33ページ
	④2番スクリュ上にワラくずがたまっている。	機械を止め，きれいにワラくずを取除く。	——
	⑤こぎ方にムラがある。	供給間隔を一定にする。	23ページ
こぎ残りが出る。	①こぎ深さが不適当。	こぎ深さを適正にして，正しいこぎ方をする。	23ページ
	②こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	22ページ
	③こぎ胴駆動ベルトがスリップしている。	脱こく伝導ベルトの張りを調節する。	41・42ページ
	④回転変動が大きい。	エンジンを点検・調節する。 正しいこぎ方をする。	22･32･33ページ
1番口(もみ出口)の選別が悪い。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	22ページ
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	25・26ページ
	③こぎ方にムラがある。	供給間隔を一定にする。	23ページ
	④穂切れ，ノゲ，稈が多い。(麦作業)	回転計の指針をスロットルレバーで緑線(麦)に合す。【RH_1-40・50仕様】	22･25･26ページ
		エンジン変速プーリの取付方向を麦仕様にする。【RH_1-45仕様】	
		カウンタ割リプーリのシム調節を麦仕様にする。【RH_1-65・75・95仕様】	
籾(しいな)粒が循環する。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	22ページ
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	25・26ページ
	③こぎ室のワラ移動が悪い。	ワラ切刃をよく研摩する。	44ページ
		処理調節を“開”にする。	26ページ
	④2番還元量が多い。	選別調節板を上げる。	25・26ページ
		排じん仕切板2を上げる。	26ページ

状　態	原　因	処　置　方　法	参照ページ
もみが損傷(脱ぷ)する。	①こぎ胴の回転速度が速すぎる。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	22ページ
	②脱ぷしやすい品種である。	規定回転速度より少し低めで作業をする。	22ページ
	③こぎ室内でのワラ移動が悪い。	ワラ切刃をよく研摩する。	44ページ
	④2番還元量が多い。	選別調節板を上げる。	25・26ページ
もみが出てこない。	①ぬれたもみが流こく板から流れない。	ぬれたもみは脱こくしないこと。	17ページ
	②揺動装置が止まっている。	ベルト及びテンションプーリを点検し，調整する。	41・42ページ
	③たてスクリュが詰まっている。	たてスクリュ掃除口を開けて掃除をする。	45ページ
排じん部及び2番スロワが詰まる。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	22ページ
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	25・26ページ
	③回転変動が大きい。	エンジンを点検，調整する。 正しいこぎ方をする。	22・32・33ページ
	④長ワラの発生が多い。	ワラ切刃をよく研摩する。	44ページ
	⑤ブロワベルトがスリップしている。	ベルトの張りを強くする。	41・42ページ
	⑥作物がぬれている。	乾いてから脱こくする。	17ページ
動力がかかりすぎる。(馬力を喰う)	①深こぎしすぎる。	こぎ深さを浅くし，正しいこぎ方をする。	23ページ
	②こぎ胴室内にワラがたまりすぎる。	ワラ切刃をよく研摩するか，ブロワの回転速度を速くする。	25・26ページ 44ページ
	③2番スロワが詰まっている。	上の2番スロワの項参照。	——
エンジンが始動しない。【RH_1-40・50仕様】	①点火プラグが汚れている。	点火プラグを外して掃除する。	33ページ
旋回性能が悪い。	①サイドクラッチワイヤが伸びている。	調整ネジによりワイヤを調整する。	38ページ
もみ出口のブザーが鳴らない。	①配線が切れている。	点検して接続し直す。	55・56ページ
	②配線が間違っている。	点検して正しい配線をする。	55・56ページ

状態	原因		処置方法	参照ページ
エンジンがかからない【セル(S)仕様】	セルスタータは回る	燃料送油系統に，空気や水が混入している。	エアー抜き，水抜きをする。	32ページ
		脱こくクラッチレバーが“入”の位置にある。	脱こくクラッチレバーを“切”の位置にしないと，余分な力がかかりセルスタータが回りにくい。	8･9･11･12ページ
		燃料がない。	燃料があるか点検し，ない場合は補給する。	6ページ
		燃料がある。	○燃料フイルタの目詰まりがないか点検し洗浄する。 ○燃料パイプの折れ，破損の点検。 ○自動車用レギュラガソリン(無鉛)を補給したか。【RH_1-40・50仕様】 ○クボタディーゼル重油を補給したか。【RH_1-45・65・75・95仕様】	32ページ 33ページ 6ページ
	セルスタータが回らない	シャトルシフトレバーが“前進”又は“後進”の位置にある。	シャトルシフトレバーを“中立”の位置にする。	8･9･11･12ページ
		バッテリが上がっている。	○補充電をする。 ○バッテリ液を点検し不足の場合は，市販のバッテリ補充液を補給する。	36ページ
		ヒューズがきれている。(予備ヒューズ袋 ヒュージブルリンク)	点検し，切れている場合は予備ヒューズと交換する。	37ページ

★わからない場合は，販売店・ＪＡ農協にご相談ください。

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

【RH_1-45・65・75・95仕様】

現象	原因	処置
始動の困難な場合	(1)燃料が流れない。	(1)燃料タンク・燃料フィルタを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 (2)使用する燃料は，すべてフィルタでこされるため，フィルタには不純物や沈澱物が付着しやすくなっています。付着物があればフィルタを交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	(1)フューエルパイプ継手ボルト・袋ナットなどにゆるみがないかを点検する。 (2)エアー抜き・水抜きをする。
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	(1)ラジエータに熱湯をそそぐ。 (2)気温によってオイルの使い分けをする。
エンジン出力が不足の場合	(1)燃料不足。	燃料系統を点検する。
	(2)エアークリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
エンジンが突然停止した場合	燃料不足。	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(空気・水の混入に注意)
排気色が悪い場合	燃料が悪い。	良質の燃料と交換する。

各部の調整

工場出荷時に各部の調整を行なっておりますが，使用している間にチェーンやベルトが伸びてきますので調整してください。

警　告

＊調整は平たんな広い場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊交換中は火気厳禁!!
＊こぼれたオイルや燃料は，きれいにふきとってください。

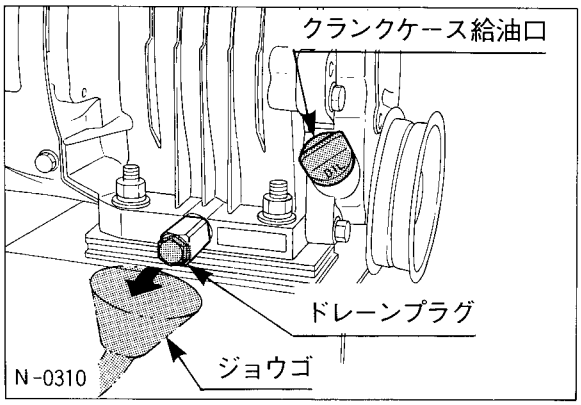
エンジンオイルの点検・交換

★排油のしかた【RH_1-40・50仕様】

エンジン下部にあるドレーンプラグを外して汚れたオイルを出しきります。

補　足

＊エンジンが暖かいうちに行なうと完全に排出します。

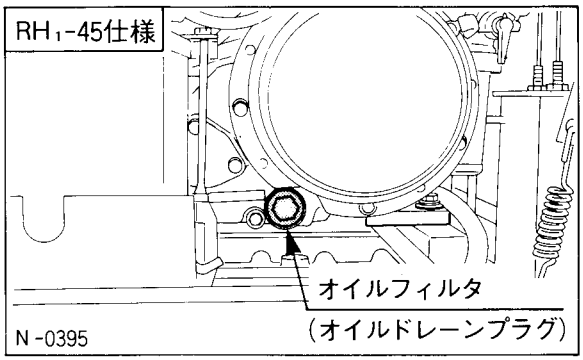


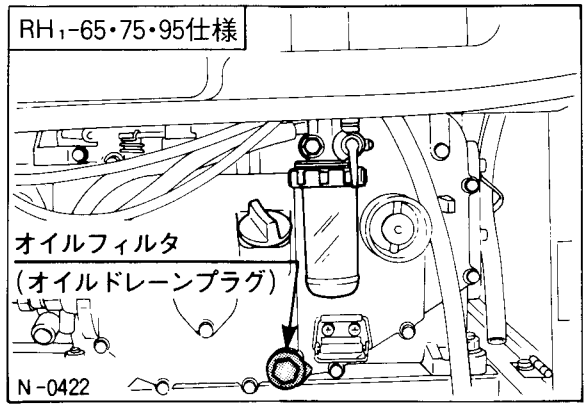
気温	オイルの種類	オイル量
夏	クボタ純オイル G30	【RH_1-40仕様】 0.6ℓ
冬	クボタ純オイル G20	【RH_1-50仕様】 0.9ℓ

点検補給	交換時間	
毎日使用前	第1回目	その後
	50時間目	100時間ごと

★排油のしかた【RH_1-45・65・75・95仕様】

❶オイルフィルタを外して，クランクケース内のオイルを全部排出します。
❷オイルフィルタとクランクケース内を軽油で洗浄します。





オイルは，クボタが研究開発した，オールシーズン用クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用）D10W30をお使いください。
なお，クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温		オイルの種類	オイル量
夏	20℃以上	SAE 30	【RH_1-45仕様】 0.9ℓ 【RH_1-65・75・95仕様】 2.3ℓ
春・秋	5～20℃	SAE 20	
冬	5℃以下	SAE 10W 又は10W－30	

点検補給	交換時間	
毎日使用前	第1回目	その後
	50時間目	100時間ごと

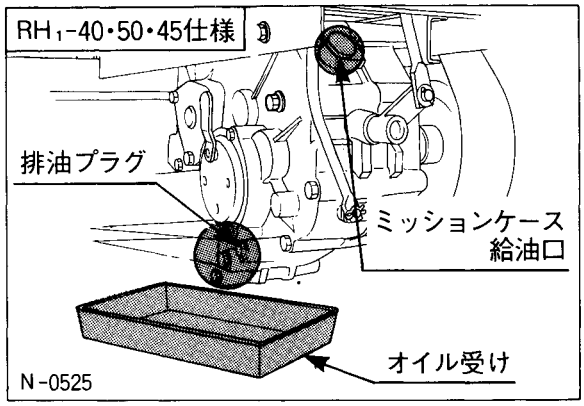
★排油のしかた

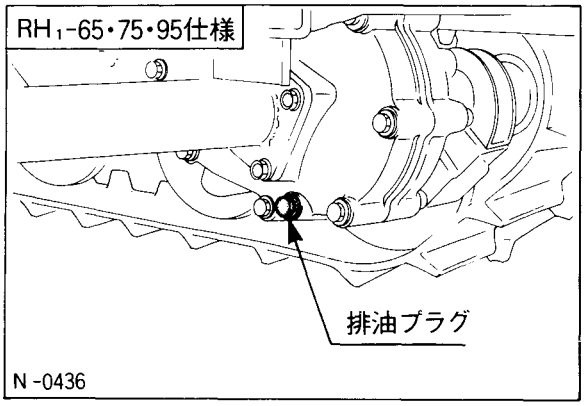
オイル交換はミッションケース排油プラグを外して行なってください。

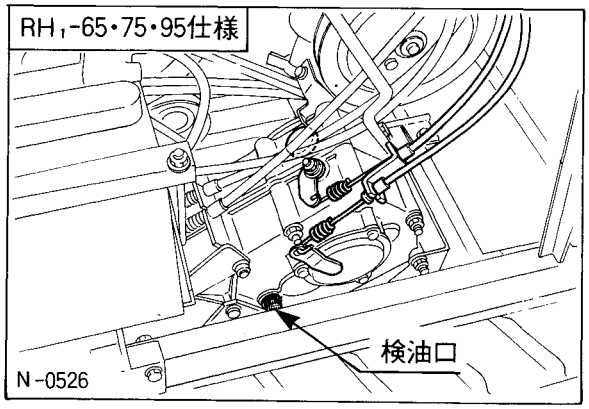
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M80B又はM90 (ミッション用)	【RH_1-40・50・45仕様】 2.2ℓ 【RH_1-65・75・95仕様】 2.7ℓ

★点検のしかた

点検補給	交換	
毎日使用前	第1回目	その後
	50時間目	100時間ごと





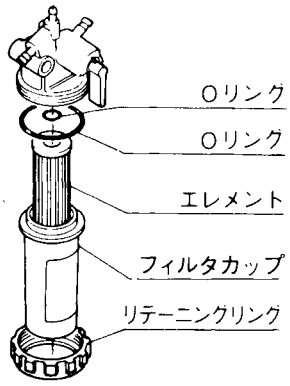


燃料フィルタの点検・清掃

100時間運転に達しますと，燃料フィルタの洗浄を行なってください。
また，燃料フィルタは毎年作業前の燃料の給油か，又は作業終了後の長期保管前の燃料排出時に掃除してください。

❶燃料フィルタのコックを締める。

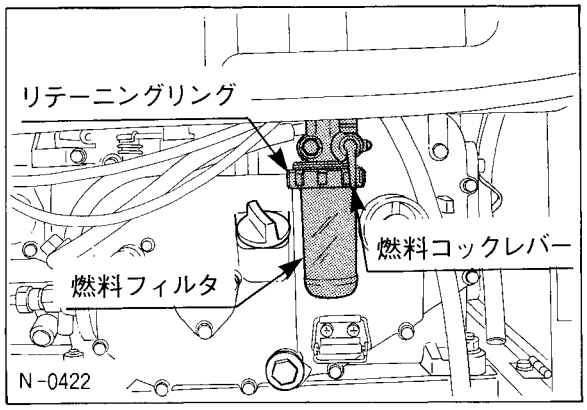
❷リテーニングリングを戻してカップを外し内部を軽油で洗浄する。
(RH$_1$-40・50仕様は灯油)



N-0159

❸エレメントを取出し，軽油につけてすすぎ洗いをする。(RH$_1$-40・50仕様は灯油)

❹洗浄後，ちりやほこりが付かないよう，また燃料漏れのないように元の位置に正しく組付ける。



N-0422

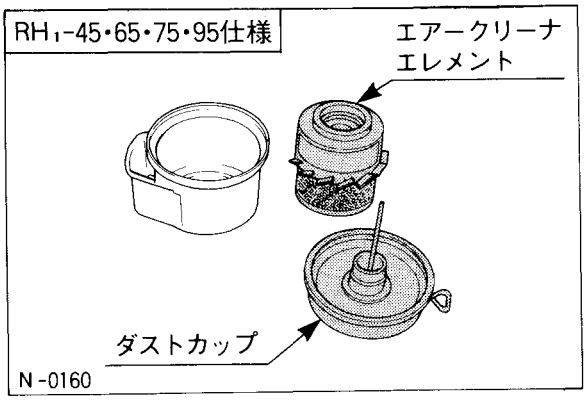
重 要

＊燃料内にちりやほこりが混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗しますので，燃料フィルタの洗浄には，特にちりやほこりが混入しないよう注意してください。

エアークリーナの点検・清掃

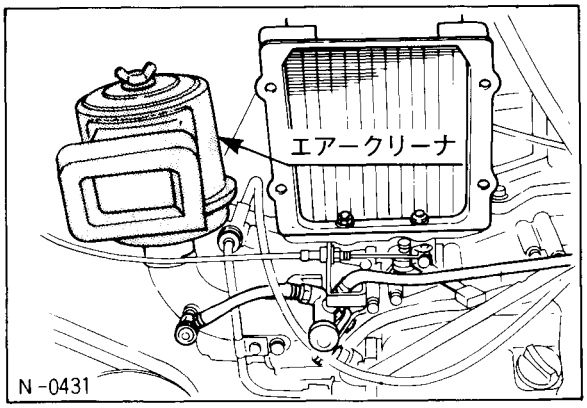
(1)各エアークリーナエレメントの清掃は，エアークリーナカバーを外してから行なってください。

(2)エレメントを取出し，軽くたたきながらゴミ，ホコリを落としてください。

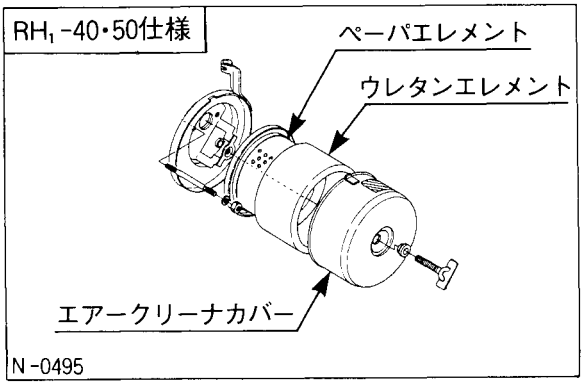


N-0160

エアークリーナエレメント	
清　　掃	100a又は年１回 (土ぼこりの多い作業では毎日行なう。)
交　　換	400～500a又は ４～５年



N-0431



N-0495

エアークリーナの点検・清掃

ハーベスタ作業では，特にちりやほこりを吸いやすいので，使用前には必ずダストカップを点検し，ダストカップ内にちりやほこりが半分以上たまらないように清掃してください。エレメントは清掃以外不必要にさわらないでください。清掃は100a又は年１回ごとに行なってください。

★清掃方法

エアークリーナエレメントの清掃は，エアークリーナカバーを外して，エレメントを取出し軽くたたきながらゴミを落としてください。

カーボンや油分の場合は，中性洗剤に15分間浸してから，数回ザブ洗いを行ないザブ洗いのあと，清水でよくすすいでから，通風のよい場所で自然乾燥してください。

乾燥のとき，圧縮空気や火気は使用しないでください。

重　要

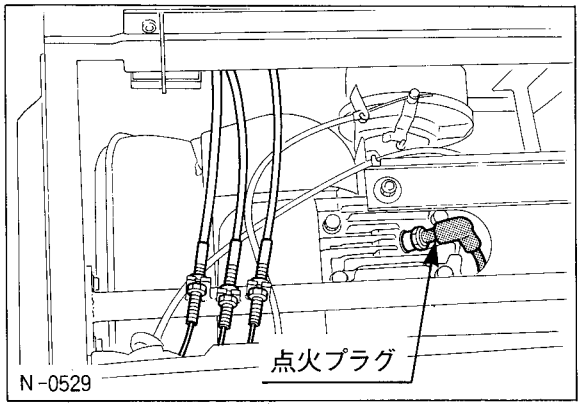
＊エレメントに穴があいたときは，新品と取換えてください。穴があいたままで使用すると，エンジンの寿命を短かくします。

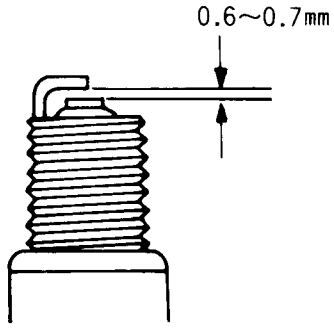
点火プラグの点検・調整【RH1-40・50仕様】

(1)点火プラグがカーボンで汚れている場合には，プラグクリーナ，又はワイヤブラシなどで汚れを落としてください。

(2)電極のすき間が広いときは，0.6～0.7㎜(ハガキ2～3枚分の厚さ)に調整してください。

使用プラグ	NGK BP4HS-10又はデンソー W14FP-UL10
品　　番	13742－6771－0





燃料パイプの点検

燃料系ゴムホースは，使わなくとも老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと又は，傷んだときには新品と交換する必要があります。

警　告

＊ゴムホースが損傷していると，燃料もれを起します。
必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災などの傷害事故を引起します。
＊交換時にパイプや，燃料フィルタにゴミが入らないように気をつけてください。

ラジエータの点検（防じん網）【RH1-45・65・75・95仕様】

注 意

＊点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

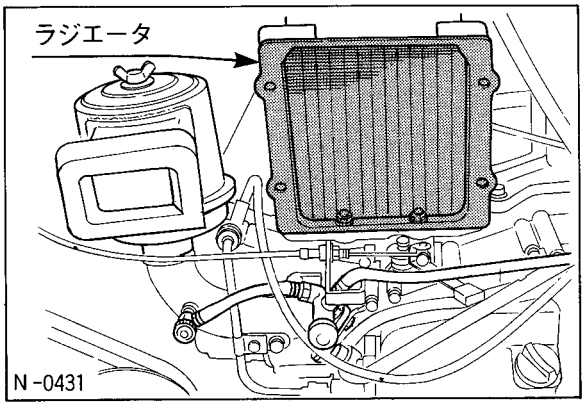
作業中，溢水が止まらずにラジエータ内の水管上端が露出するほど水が減るような場合は，次の点検をしてください。

❶ハーベスタを使用しているうちに，ラジエータの防じん網にワラくずやゴミが付着して，目詰まりを生じます。このような場合は冷却能力が低下しますので，防じん網を開いて，目詰まりを洗い落としてください。

❷ラジエータフィンとチューブの間に詰まっているゴミを，きれいに取除いてください。

❸ファンベルトがゆるんでおれば張ってください。(43ページ参照)

❹ラジエータ水管に水あかがたまっておれば，ラジエータ洗浄剤で洗浄を行なってください。



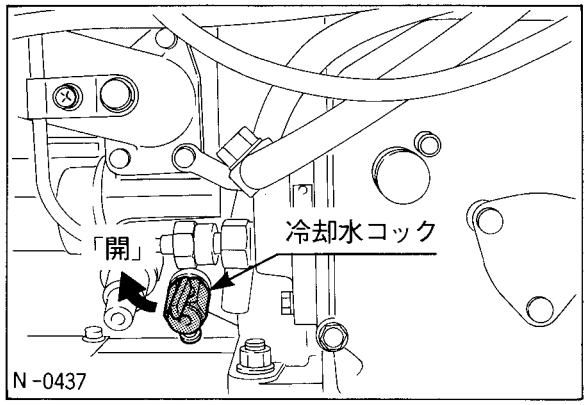
★ラジエータキャップ

注 意

＊運転中及び停止直後にキャップを開けると熱湯が吹出してやけどをしますから，キャップを外すのは，停止後10分以上たって冷えてからにしてください。

重 要

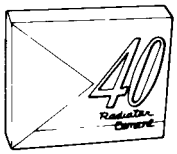
＊ラジエータから冷却水を抜くときは，シリンダヘッドの下にある冷却水コックを開けて，次に圧力キャップを開けますと，冷却水はほとんど全部排出されます。凍結のおそれがあるとき(不凍液を使わない場合)は必ず排出してください。



ラジエータの点検【RH1-45・65・75・95仕様】

★ラジエータセメント

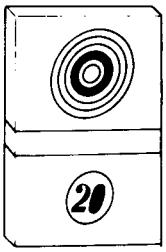
もし，小さな穴があいて水漏れしたような場合は，クボタラジエータセメントで止まります。水漏れが激しい場合は販売店・ＪＡ農協に御相談ください。



Z-1010改

★ラジエータ洗浄剤

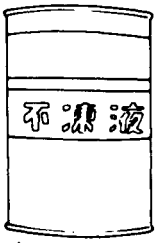
不凍液を混入したり，不凍液混入から水だけに換える場合は，ラジエータ内部を洗浄してください。洗浄にはクボタラジエータ洗浄剤No20を使用すると，たまった水あかがきれいに洗い落とせます。
その他，水に赤さびが混入しているときに使用してください。



Z-1009改

ラジエータの点検【RH_1-45・65・75・95仕様】

★不凍液



Z-1007改

冷却水が氷結するとシリンダやラジエータを破損することがあります。気温が0℃以下になるようなときは使用後，冷却水を抜取るか，不凍液を混入してください。

(1)不凍液は，クボタ不凍液(ロングライフクーラント)を御使用ください。

(2)冷却装置の洗浄後はじめて不凍液を使用する場合は，ラジエータに2～3回清水を入れて，抜き捨てる操作を繰返し，内部を洗浄します。

(3)不凍液の場合は，気温によって異なりますので，使用の際は，使用量，使用方法などを販売店・ＪＡ農協に御相談ください。

ラジエータの冷却水有効容量

RH_1-45	1.0ℓ
RH_1-65 RH_1-75 RH_1-95	1.3ℓ

(4)不凍液の注入

不凍液は水とよく混合させてから入れてください。

(5)不凍液の補給

蒸発により減った場合は水だけ補給します。

漏れた場合は，はじめの比率どおり不凍液を調合してから補給をしてください。

(6)不凍液は吸湿性がありますから，使用後容器のふたは完全にしめて保管してください。

警笛が鳴った場合【RH_1-45・65・75・95仕様】

注　意

＊オーバヒートなどでエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

❶エンジンを停止する。

❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

＊エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けると，ラジエータ部・リザーブタンク部などより熱湯が吹出し，あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

警笛が鳴った場合，又は警笛より水や蒸気が出てきた場合は，⚠注意の手順に従ってください。

●ヤケドなどの危険性がなくなってから，次の点検・整備を行なってください。

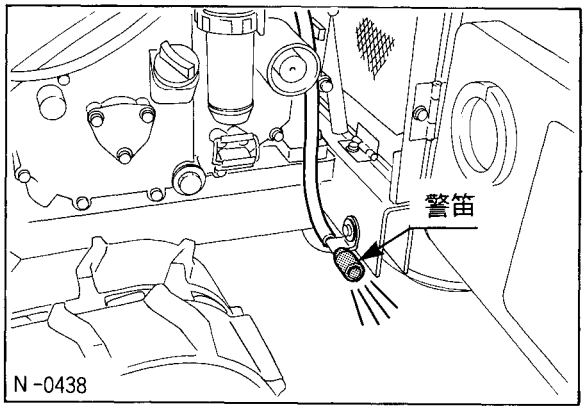
(イ)防じんカバーとラジエータフィンのワラくずやゴミを取除く。(34ページ参照)

(ロ)ラジエータが冷えてから，ラジエータとリザーブタンクに冷却水を規定量まで補給する。(34ページ参照)

(ハ)ファンベルトがゆるんでいないか点検する。(43ページ参照)

(ニ)ラジエータ水管の中に，水アカがたまっていないか点検する。

(ホ)冬期でないときに，不凍液が入っている場合は清水と交換する。



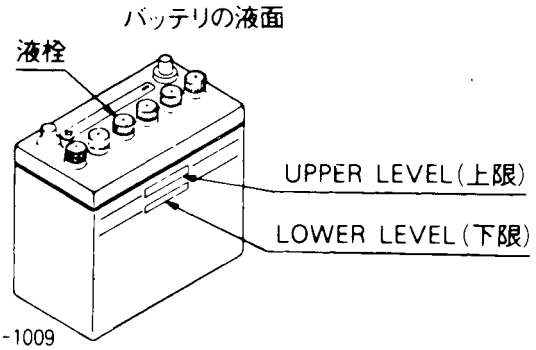
N-0438

警 告

＊エンジンは，必ず停止してから行なってください。
＊バッテリ液が身体や服に付かないようにしてください。(バッテリ液は希硫酸ですので，ヤケドをしたり衣服に穴が開いたりすることがあります)
もし，身体や衣服に付いたときは，すぐに水洗いしてください。
＊バッテリに火気を近づけたり,ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

★電解液について

バッテリの電解液が液面線にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充して液面をいつも正しく保ってください。



重 要

＊電解液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊電解液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸，井戸水，泥水などは絶対に入れないでください。
＊精製水を多く入れ過ぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。
＊エンジンの始動がしにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら，早めに補充電をしてください。
＊使用しているバッテリの型式は，

- RH_1-40・50・45仕様……「26A19L(12N24-3)」(容量20時間率，26Ah)
- RH_1-65・75・95仕様……「36B20L(NS40ZL)」(容量20時間率，35Ah)

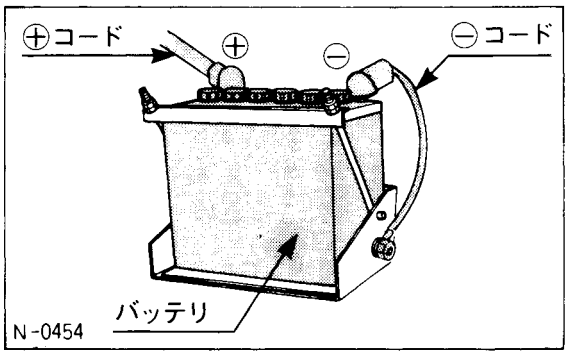
です。
指定外のバッテリは使用しないでください。

★充電方法

充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。
充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通の充電法で行なってください。急速充電法は，放電状態にあるバッテリを短時間でその放電量の幾分かを補うために，大電流で充電する方法です。この方法は応急的な処置として行なうものですから，急速充電法で充電した場合には，作業が終わったらなるべく早く，急速充電器の取扱い方法に従って，正しく補充電をしておかなくてはなりません。補充電をしておかないと，バッテリの寿命は極端に短くなります。

★バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからリード線を外す場合は，必ず⊖側アース線から外してください。(逆にすると，工具などが接触したときショートします)
(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，最後に⊖側を接続してください。(逆にすると，工具などが接触したときショートします)
(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，バッテリと電気系統が故障します。



▶バッテリは次の時間ごとに点検・整備を行なってください。

項目＼時間	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500
バッテリ液の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注　意

＊点検・交換をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災，損傷の危険があります。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は，各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記項目について定期的に点検してください。
(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
(2)ターミナル・ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
(3)各スイッチが確実に作動すること。

電気配線の点検，ヒューズの交換

配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店かＪＡ農協で点検，修理してください。

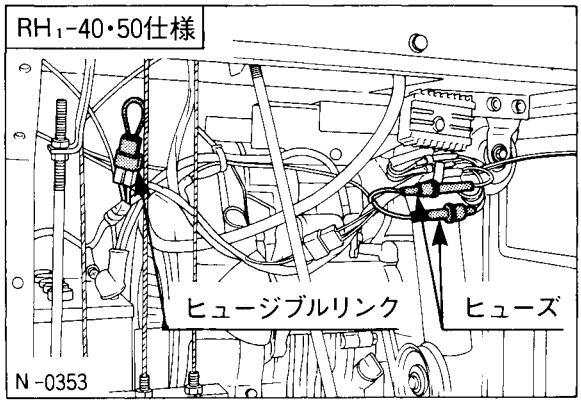
★ヒューズの交換

❶ヒューズを外す。
❷切れたものと同容量のヒューズと交換する。

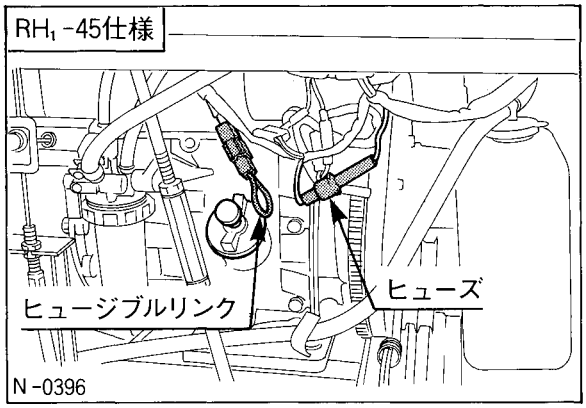
★ヒュージブルリンクの交換

ヒュージブルリンクは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

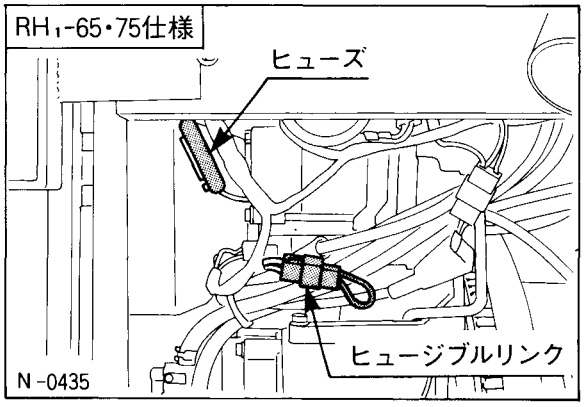
RH$_1$-40・50仕様



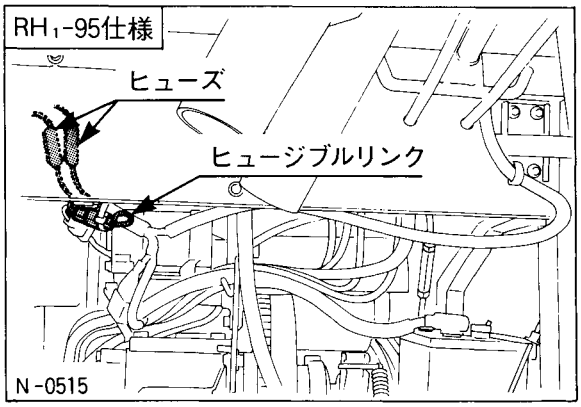
RH$_1$-45仕様



RH$_1$-65・75仕様



RH$_1$-95仕様



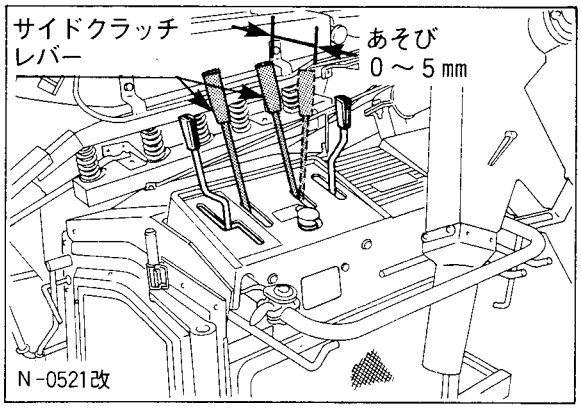
★サイドクラッチワイヤ左右の張りかた

❶サイドクラッチレバーのあそびが多くなったら，サイドクラッチワイヤの調節ネジを下方へ調整してください。

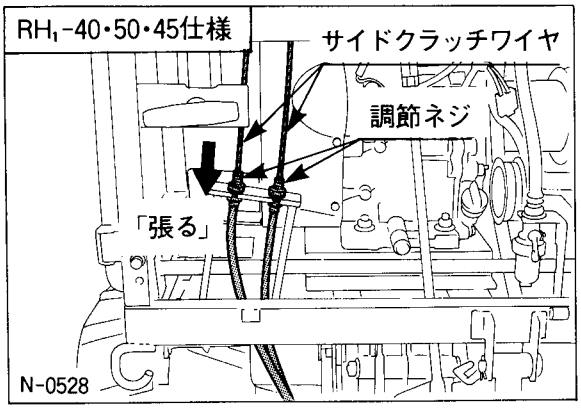
レバーのあそび

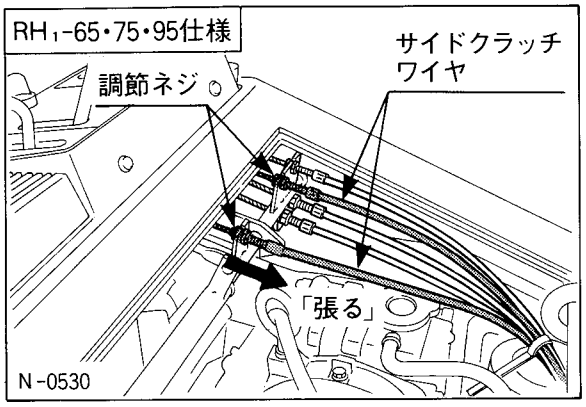
5㎜以上……サイドクラッチレバーを引いても旋回しません。

0㎜以下……サイドクラッチの爪(ミッションの内部)が外れ，動かなくなります。



❷調整後は，ロックナットを確実に締付けてください。





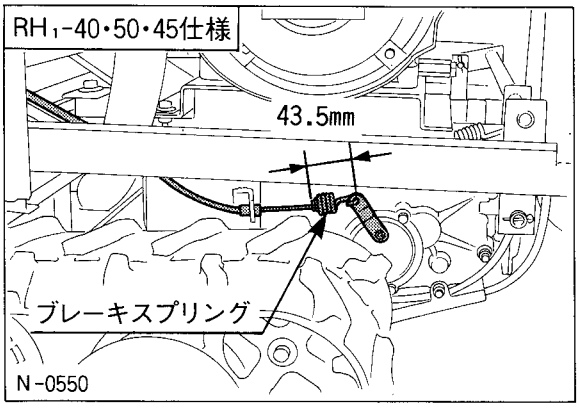
★ブレーキワイヤの調整

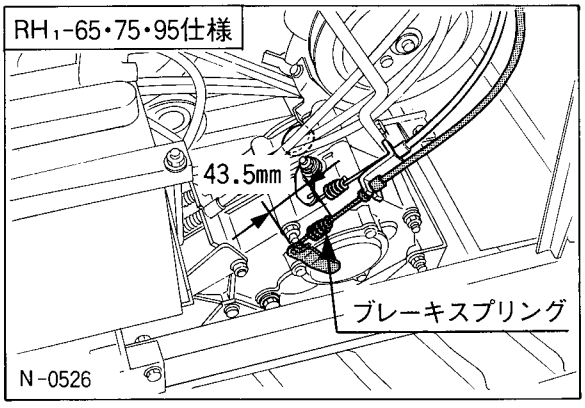
(走行クラッチと連動のため，調整ミスのないよう気をつけてください。)

❶シャトルシフトレバーを"中立"にしたとき，ブレーキスプリングが43.5㎜になるように，ブレーキワイヤ調節ネジを下方へ調節してください。

43㎜以下……ブレーキがきかなくなります。

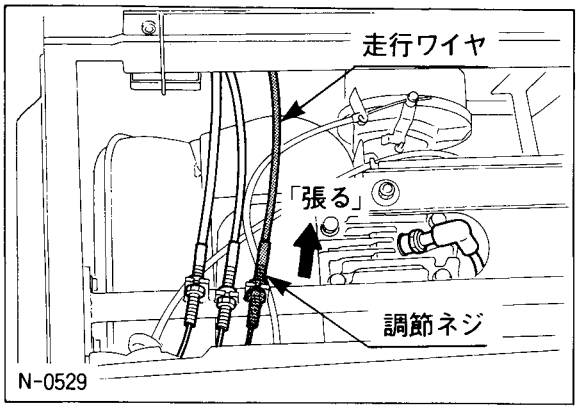
44㎜以上……走行クラッチが切れない間にブレーキが早く入り，走行ベルト，ブレーキシューが早くいたみます。

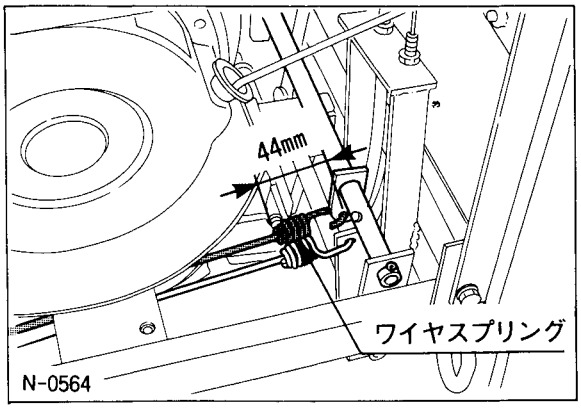




★走行クラッチワイヤの張りかた

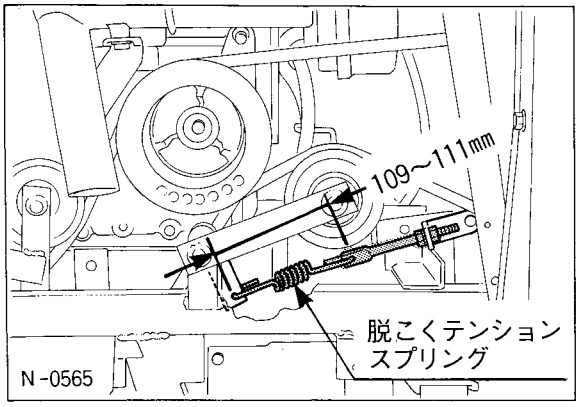
走行ベルトがスリップするときは，シャトルシフトレバーを“前進”にして，ワイヤのスプリングが44㎜になるよう調節ネジを張り方向に調節し，ロックナットを確実に締付けてください。





★脱こくクラッチワイヤの張りかた

エンジン→脱こく駆動ベルトがスリップする場合は，脱こくクラッチレバーを“入”にして脱こくテンションスプリングが109～111㎜になるように張り，ボルトを調整してください。



★シャトルシフトワイヤの張りかた

シャトルシフトレバーを“後進”に入れても前進する場合，又はシャトルシフトレバーを“前進”に入れても後進する場合は，次の事項について調整してください。

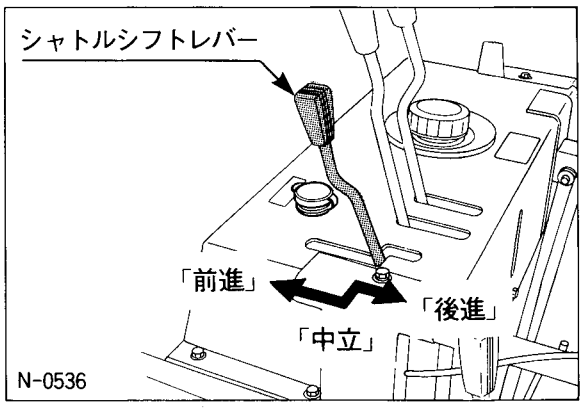
❶シャトルシフトレバーを“後進”側に倒したとき，ミッション内部で“カチカチ”と音が出るまで調節ネジを長くする。(爪クラッチが入るときの音)

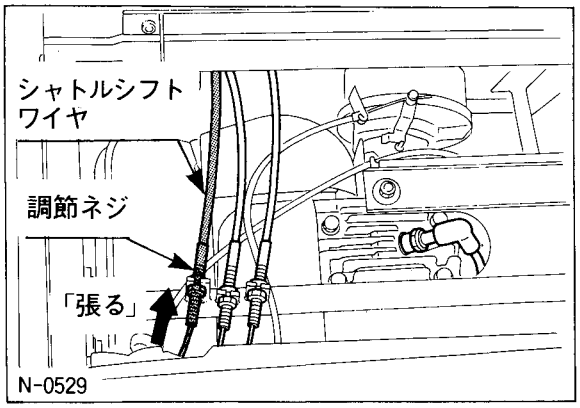
❷シャトルシフトレバーを“中立”に戻して，さらに調節ネジを長くする方向に，3～3.5回転回す。

重　要

＊調節ネジを長く出しすぎると，シャトルシフトレバーを“前進”に入れても後進し，調節ネジを短くねじ込みすぎると，シャトルシフトレバーを“後進”に入れても前進します。

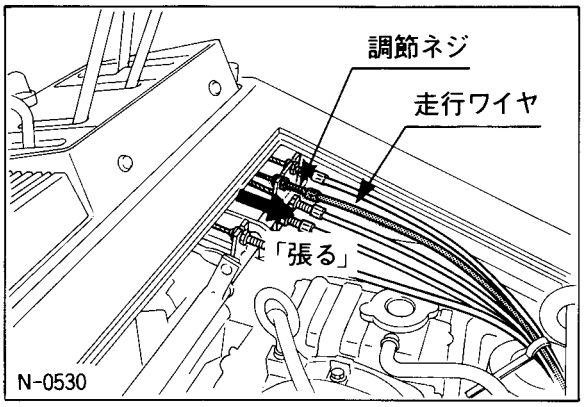
＊調整後は，必ず調節ネジのロックナットを確実に締付けてください。





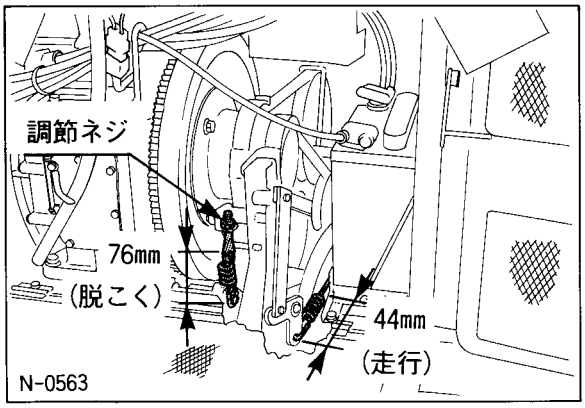
★走行クラッチワイヤの張りかた

走行ベルトがスリップするときは，シャトルシフトレバーを“前進”にして，ワイヤ(走行)のスプリングが44㎜になるよう調節ネジを下方へ調節し，ロックナットを確実に締付けてください。



★脱こくクラッチワイヤの張りかた

エンジン→カウンタベルトがスリップする場合は，脱こくクラッチレバーを“入”にして脱こくテンションスプリングが76㎜になるように張り，ボルトを調整してください。



★シャトルシフトワイヤの張りかた

シャトルシフトレバーを“後進”に入れても前進する場合，又はシャトルシフトレバーを“前進”に入れても後進する場合は，次の事項について調整してください。

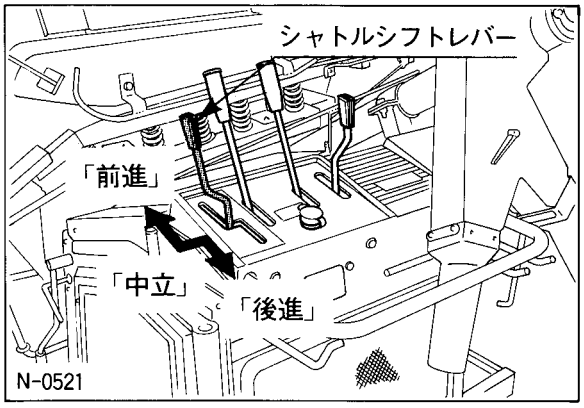
❶シャトルシフトレバーを“後進”側に倒したとき，ミッション内部で“カチカチ”と音が出るまで調節ネジを長くする。(爪クラッチが入るときの音)

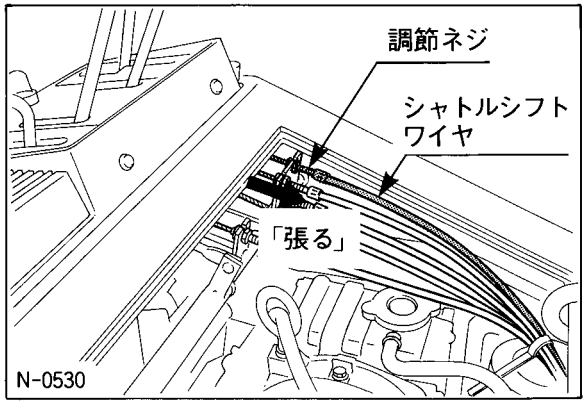
❷シャトルシフトレバーを“中立”に戻して，さらに調節ネジを長くする方向に，３～3.5回転回す。

重　要

＊調節ネジを長く出しすぎると，シャトルシフトレバーを“前進”に入れても後進し，調節ネジを短くねじ込みすぎると，シャトルシフトレバーを「後進」に入れても前進します。

＊調整後は，必ず調節ネジのロックナットを確実に締付けてください。

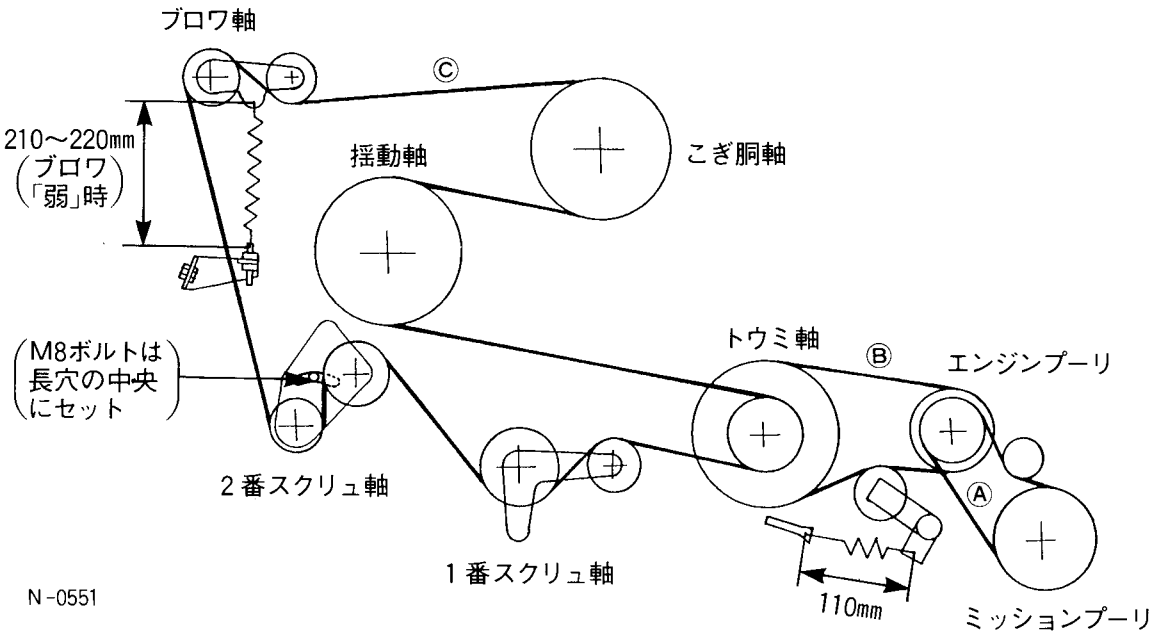




★脱こくベルトの張りかた

脱こく駆動ベルトがスリップするときは，脱こくクラッチレバーを“入”にして各スプリングを下記図に合せて張りボルトで調節してください。(RH$_1$-40・50・45仕様はテンションスプリングが110㎜になるように張りボルトで調節してください)

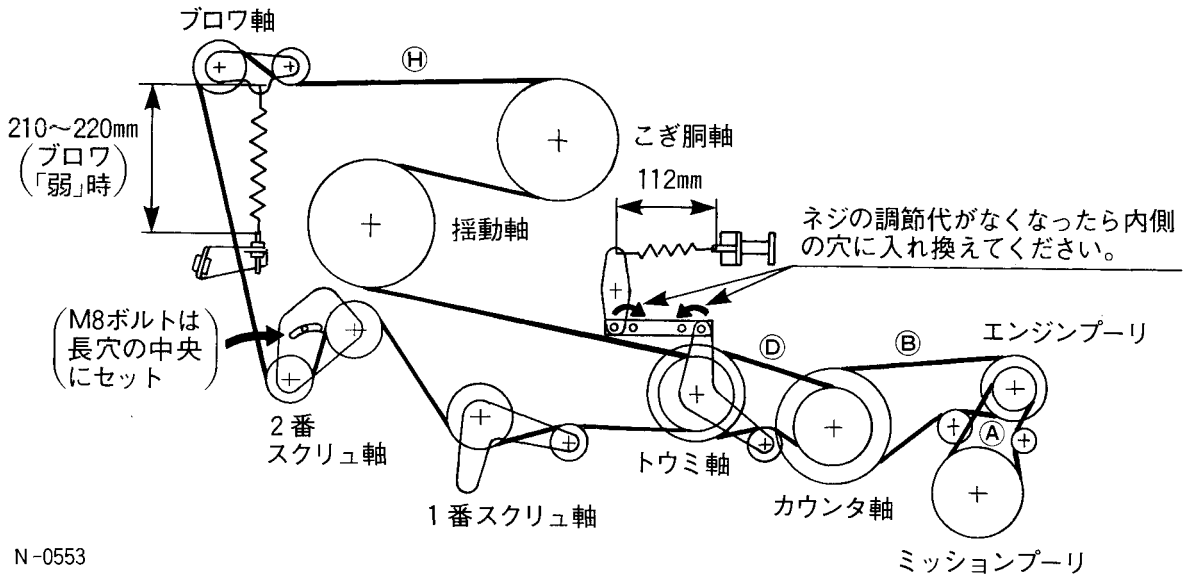
●RH$_1$-40・45・50仕様



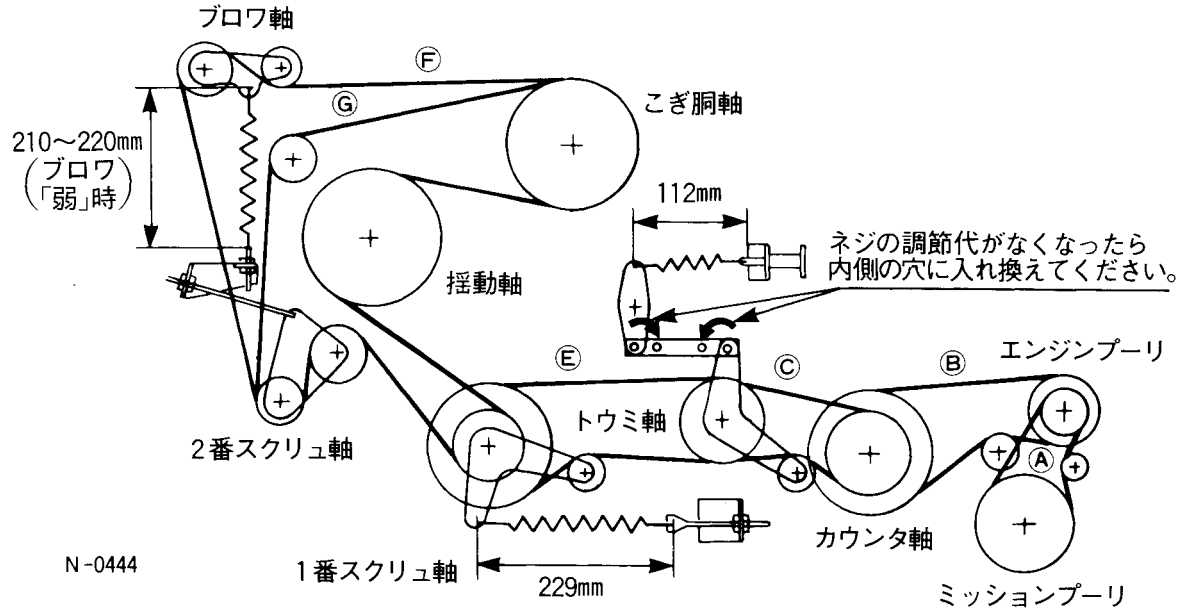
	RH$_1$-40	RH$_1$-50	RH$_1$-45
エンジン↔ミッション	Ⓐ特B43		Ⓐ特B37
エンジン↔脱こく	Ⓑ特B56 ホワイトイエロ		Ⓑ特B62
脱こく	Ⓒ特B165	Ⓒ特B165 ホワイトイエロ	Ⓒ特B165

各部ベルトの張り調整

●RH_1-65仕様



●RH_1-75・95仕様



	RH_1-65	RH_1-75	RH_1-95
エンジン↔ミッション	Ⓐ特B39		
エンジン↔カウンタ	Ⓑ特C49.5		
カウンタ↔トウミ	Ⓓ特B44	Ⓒ特C40	Ⓒ特C39.5
トウミ↔1番スクリュ軸	——	Ⓔ特C53	
脱こく	Ⓗ特B165 ホワイトイエロ	Ⓕ特B133, Ⓖ特B120	

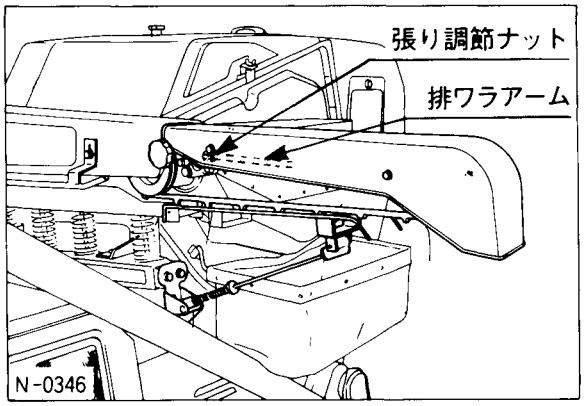
各部ベルトの張り調整

★排ワラベルトの調整

長時間使用すると，排ワラベルトが伸びてきますので，セットボルトを緩め，排ワラアームをナットにてベルトを張ってください。
張り調整後はセットボルトを締付け，ロックナットで確実に固定してください。

重 要

＊張りすぎますと，アームが曲ってしまいますので，張りすぎには注意してください。

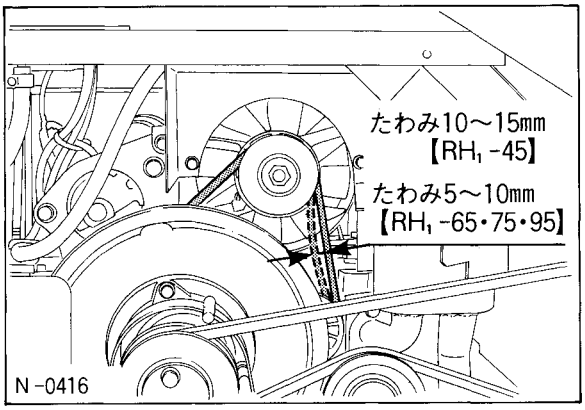


★ファンベルトの点検・調整【RH_1-45・65・75・95仕様】

ファンベルトは，プーリとプーリの間を指で押えて，RH_1-45は10～15mm，RH_1-65・75・95は5～10mmたわむ程度に張ってください。
張るときは，ボルトを緩め，ドライバなどでベルトを張ってから，ボルトを固く締付けてください。

重 要

＊ベルトの張りが弱いまま運転すると，ベルトがスリップし，エンジンの冷却能力が低下するだけでなく，寿命を短くするので，常に点検して適当な張りを保ってください。
＊ファンベルトが切れた場合は，切れてからしばらくするとラジエータ内の蒸気が噴出し続けます。このときはすみやかにエンジンを停止してください。



注 意

＊ファンベルトの点検・調整をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

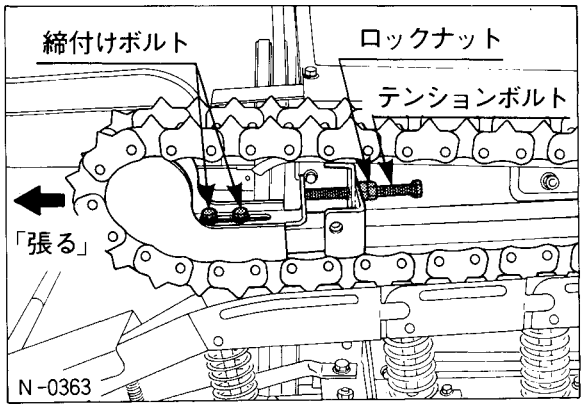
チェーンの調整

★チェーンの張りかた

❶案内パイプを外す。
❷チェーンカバーを外す。
❸テンション締付けボルトを緩める。
❹ロックナットを緩め，テンションボルトを張る。（チェーンを張る）
❺ロックナット及びテンション締付けボルトを締め，チェーンカバーと案内パイプを取付ける。

重 要

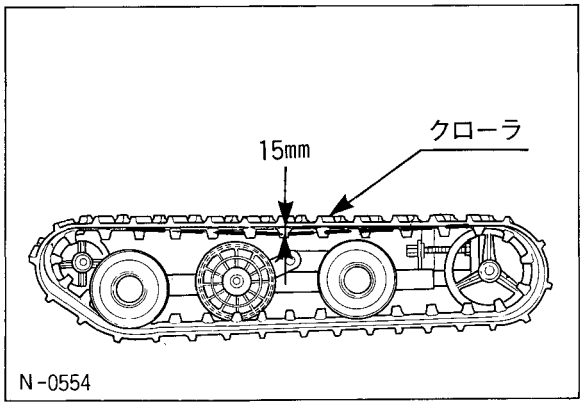
＊フィードチェーンがゆるんだ状態で使用すると，チェーンがスプロケットに乗り上げたりして故障の原因になります。



クローラの点検・調整

★クローラの点検

クローラの自重で15㎜以上のたわみになったら調節してください。



重　要

＊左右のクローラの張り強さは，必ず同じになるように調節してください。

＊ロックナットを締め忘れると走行中にクローラが緩んできて危険です。

【RH_1-40・50・45仕様】

＊ベータピンと回り止め板をつけ忘れると走行中にクローラが緩んできて危険です。

【RH_1-65・75・95仕様】

★クローラの張りかた

【RH_1-40・50・45仕様】

❶ロックナットを緩める。

❷テンションボルトを，スパナで回してクローラを張ります。

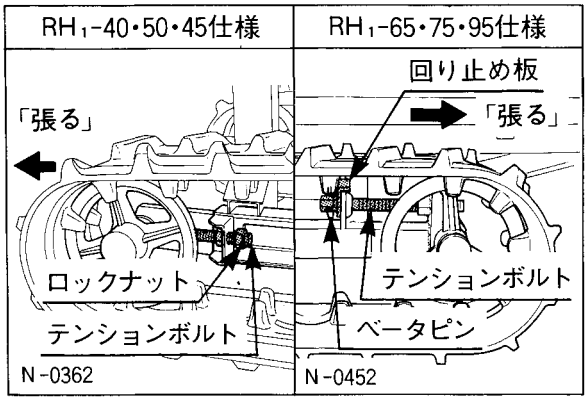
❸ロックナットを確実に締付ける。

【RH_1-65・75・95仕様】

❶テンションボルトに組付けているベータピンと回り止め板を外す。

❷テンションボルトを，スパナで回してクローラを張ります。

❸回り止め板を取付け，ベータピンを差し込む。



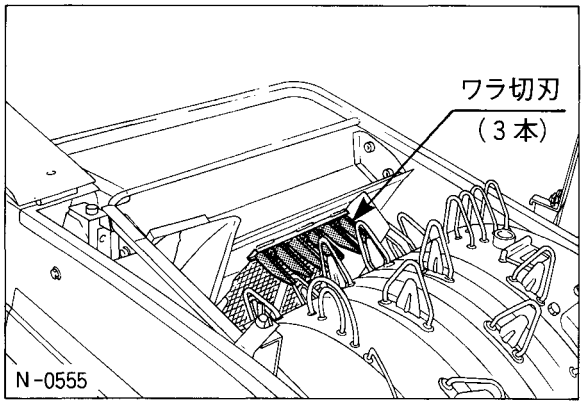
ワラ切刃の交換

★交換のしかた

❶脱こく部のこぎ胴カバーを外す。

❷ワラ切刃締付けボルト・ナット(M8)を緩めてワラ切刃を外す。

❸取付けは，ボルト・ナット(M8)を確実に締付けてください。



★研摩のしかた

ワラ切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するワラくずを細かく切断できなくなるため，ワラくずの移動が悪くなり，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたワラくずがブロワに吸引されにくくなって，2番スクリュに巻付いたり，2番スロワに詰まったりしますので，50～100アール使用ごとに研摩をしてください。

研摩はワラ切刃を外して行なってください。

■エンジン点検・調整表【RH_1-45・65・75・95仕様】

●補給　▲検査　■掃除

番号	項目	運転時間				
		毎日	50時間	100時間	300時間	1,000時間
1	ラジエータ	▲●				
2	クランクケース	▲	■	■		
3	オイルフィルタ		■			
4	フューエルフィルタ			■		
5	送油管		▲			
6	防じんカバー	■			■	
7	エアークリーナ(ペーパエレメント式)	※	▲	■		
8	軸受，ヘッド，ポンプなどの締付部点検			▲		
9	バルブクリアランス			△		
10	エキゾーストバルブすり合せ				□	
11	インレットバルブすり合せ					□
12	シリンダ					□
13	ピストン					□
14	インジェクションポンプ					△

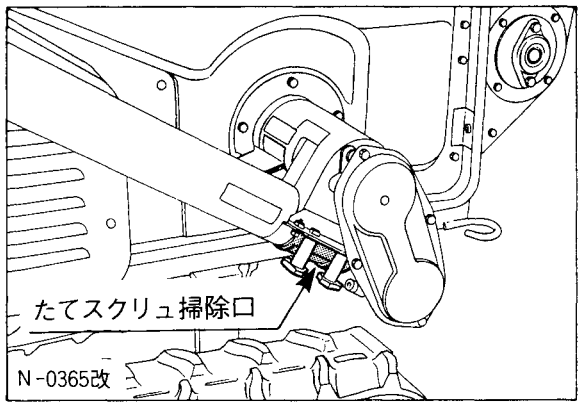
△，□印の項目については販売店・ＪＡ農協に御依頼ください。

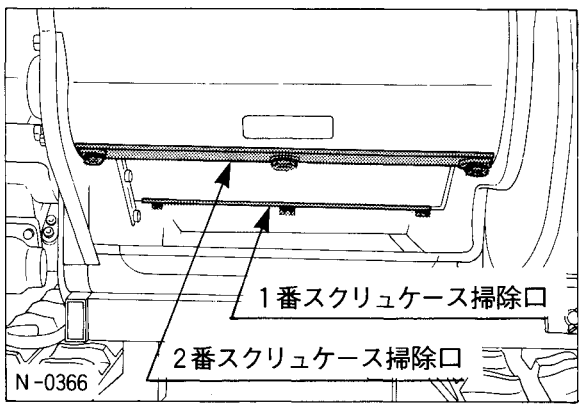
※　特にゴミ，ほこりの多いときは適時。

機内の掃除のしかた

品種混合を避けたいときや，収穫シーズンが終ったときには，機内の残留穀粒をきれいに取除いておきましょう。

お手持ちの動力散布機や，コンプレッサ，電気掃除機を使用すれば，きれいに掃除できます。





長期格納のしかた

注　意

＊掃除は平たんな場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。

ハーベスタをいつまでも長持ちさせ，性能を低下させないために，使用後は必ず掃除と手入れをしてください。

■各部の清掃

(1)各部に付着した雑草やワラくずを完全に取除き泥などの汚れを水できれいに洗い落とし，そのあと水分が残らないようにふき取っておきます。水洗いのときには脱こく機内部に水が入らないように注意してください。

(2)各回転部分，摩擦しゅう動部分，サイドクラッチレバー支点及び各チェーンなどは，きれいに清掃したあと充分注油して，さびたり，硬着したりしないようにしてください。

(3)脱こく機各部に，こく粒やワラくずが残っているとネズミが入り込むのできれいに取除いてください。

(4)塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびがでないようにしてください。

(5)摩耗がひどくて取換える必要のある部品は，販売店・ＪＡ農協に連絡して修理，交換してください。

■エンジン関係

(1)部屋に格納しようとするときは火災の危険があるため，エンジンが冷えてからにしてください。

(2)クランクケース内のよごれたエンジンオイルを排出し，新しいオイルを入れ，５分間エンジンを空運転させ，各部にオイルをゆきわたらせてください。

(3)各部に付いたワラくず，雑草を取除いてください。特に気化器とマフラ，及びシリンダヘッド，リコイルスタータ，スタートハンドルに付いたワラくずは完全に取除いてください。

(4)エアークリーナを掃除してください。

(5)燃料タンク内の燃料を抜き，燃料フィルタを掃除してください。

(6)エンジンは，スロットルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。

(7)作業終了後，格納の際は必ず燃料コックレバーを「閉」(S)の位置にしてください。

(8)点火プラグ穴よりエンジンオイルを約10cc注入し数回空転後，点火プラグを取付け，スタータを引いて圧縮のある所で止めてください。

【RH_1-40・50仕様】

(9)不凍液をいれていないときは，冬期気温が，０℃以下になるとエンジンの凍結割れが生じますので，必ず冷却水を抜取ってください。

シリンダヘッド下部にある冷却水コックを開き，圧力キャップを外して完全に冷却水を排出し，冷却水コックは開いたままにしておき，圧力キャップに“水なし”と書いた札をかけておくと次に使用するときに給水を忘れません。

【RH_1-45・65・75・95仕様】

重　要

＊冷却水コックは開いたままにしておいてください。上の方に水がたまって完全に抜けていないことがあります。【RH_1-45・65・75・95仕様】

(10)リザーブタンク下のバンドをゆるめてパイプを抜取り，リザーブタンクの水を抜いてください。また，同時にパイプの水も抜いてください。水が完全に抜けたら，パイプをリザーブタンクに充分押込み，バンドがタンクのパイプ部分にかかる位置で締付けてください。【RH_1-45・65・75・95仕様】

(11)ほこりを防ぐため，カバーをし，場所は湿気やほこりのない所を選んでください。エンジンのシリンダ内に湿気が入りますと，来季での始動が非常に困難となりますので，リコイルスタータ及びスタートハンドルは圧縮位置にしておいてください。

■その他

(1)スタータスイッチのキーは，抜取って保管してください。

(2)バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。

バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は１カ月に１回，冬は２カ月に１回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは，必ずアース側(㊀側)を外してください。

(3)脱こくクラッチレバーは“切”にしてください。

(4)戸外に置く場合は，雨水がかからないようにシートでおおってください。マフラ，エンジンが冷えてからシートをかけてください。

重　要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにし，整備がすむとカバーを掛けて，ほこりの少ない乾燥した場所に格納してください。

使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異状があるときは，お買上げのＪＡ農協や販売店の修理工場に依頼してください。

●エンジン本体・トランスミッションケース・ギヤー（ベベルギヤーを含む）を内蔵したケース類・電気部品と電気系統

使用済資材の処分について

交換した廃油・バッテリ・ゴム・プラスチック類は公害源になることがありますので処分の注意が必要です。下記を参考にして実施してください。

廃油・バッテリ…ガソリンスタンドに持込んで廃棄を依頼する。

ゴム・プラスチック類…市町村の実施している公害物収集に出すか専門の廃棄業者に依頼する。

ハーベスタ⇄運搬車への切換え〔運搬車仕様付〕

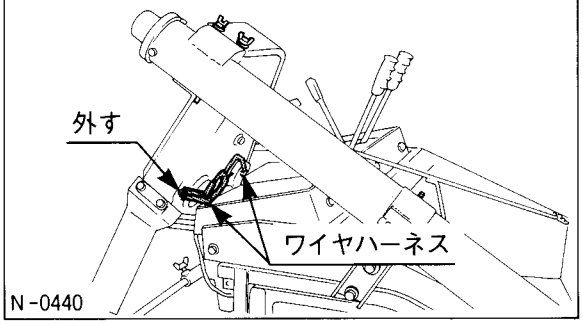
注 意

＊脱こく機の積降ろしは，平たんで安全な場所で行なってください。
＊脱こく機，及び各部の着脱作業は，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊脱こく機の積降ろしは,ひとりでできますが,無理と判断した場合は補助者をつけて,行なってください。
＊脱こく駆動ベルトは，必ず取外して運搬作業を行なってください。

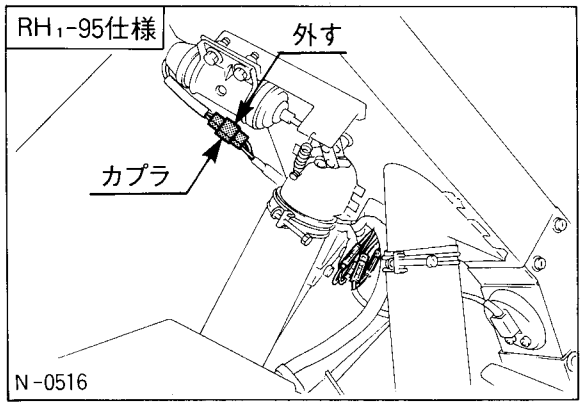
脱こく機の降ろしかた

❶配線を外す。

RH$_1$-40・50・45・65・75仕様

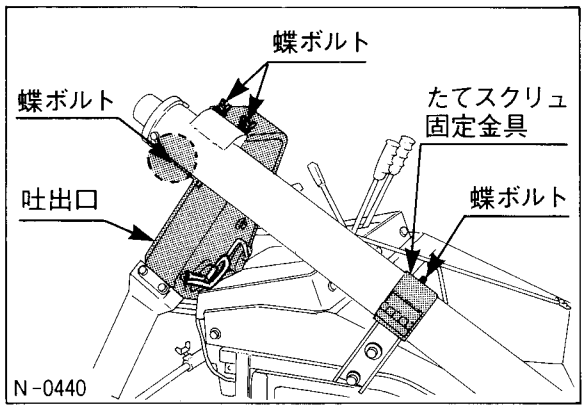


RH$_1$-95仕様



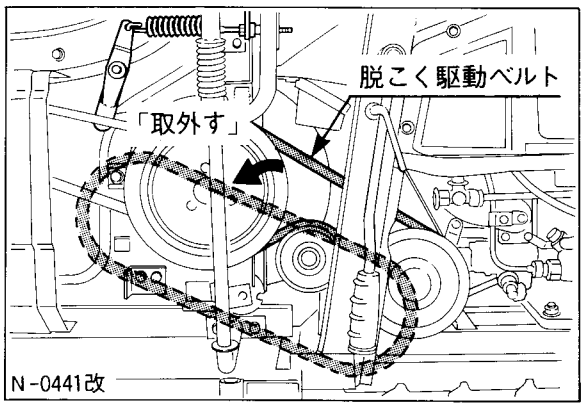
❷吐出口の蝶ボルト(３本)を外し，吐出口を取外す。

❸たてスクリュ固定金具の蝶ボルト(１本)を外して開ける。

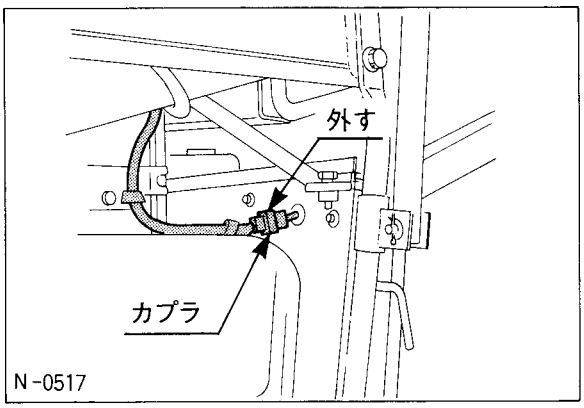


❹脱こくプーリカバーを外し，ハンドル左カバーを開けてベルトを取外してください。

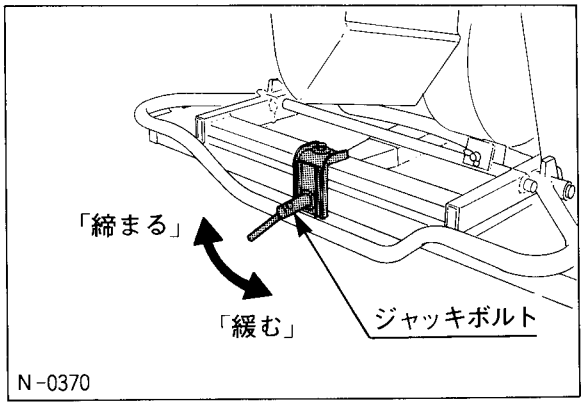
【RH$_1$-65・75・95仕様】



❺ワイパモータの配線を外す。【RH$_1$-95仕様】

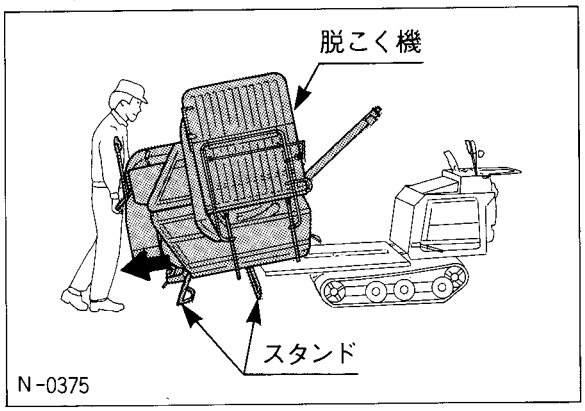


❻ジャッキボルトを緩める。

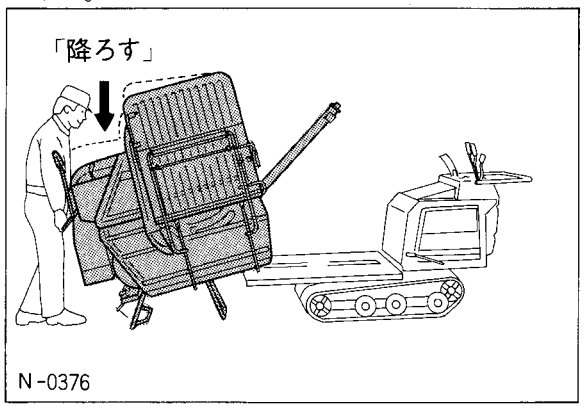


脱こく機の降ろしかた

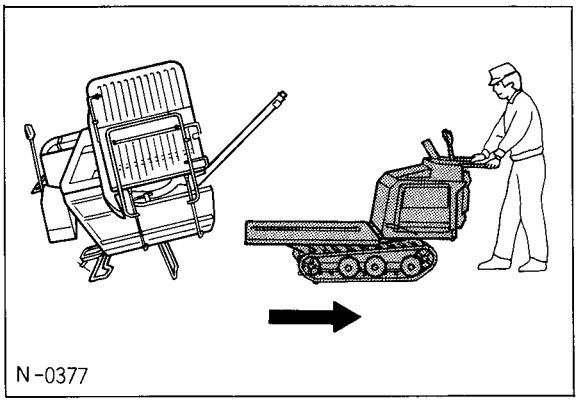
❼脱こく機を前に引出す。スタンドが“前”“後”共，自動的に出る所まで出します。



❽スタンドが出たら，ゆっくり下に降ろしてください。

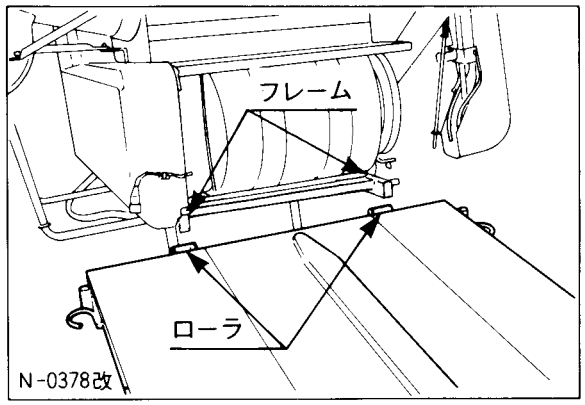


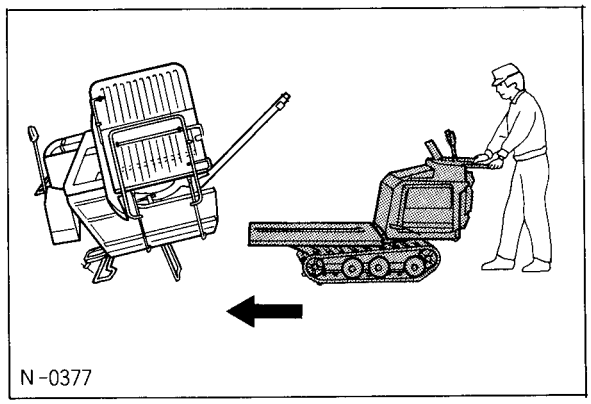
❾本機のエンジンをかけ，バックしてください。



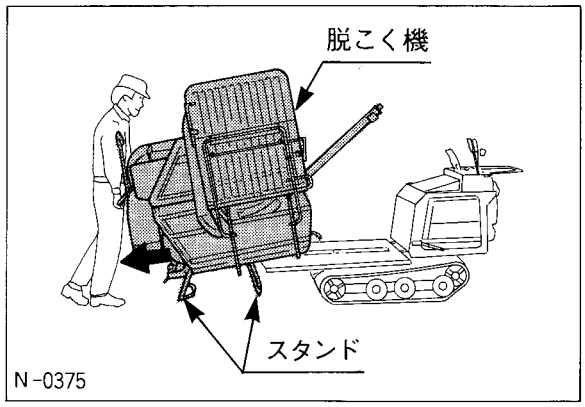
脱こく機の積みかた

❶脱こくフレームに本機ローラの位置を合せて，当るまで入れてください。

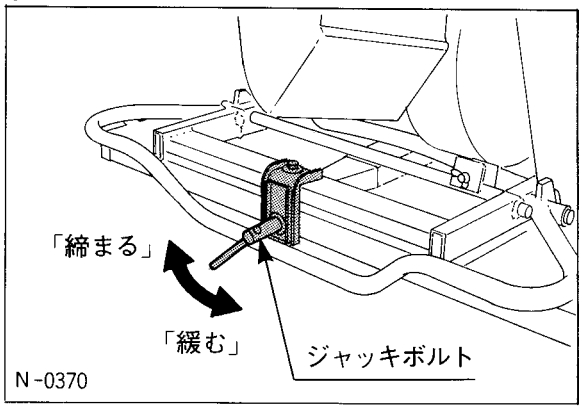




❷脱こく機を押込んでください。

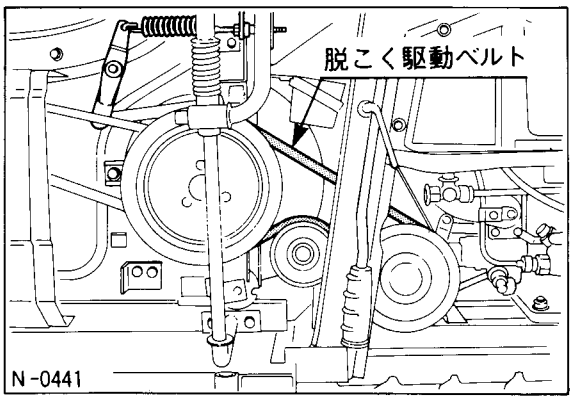


❸ジャッキボルトをしっかり締めてください。



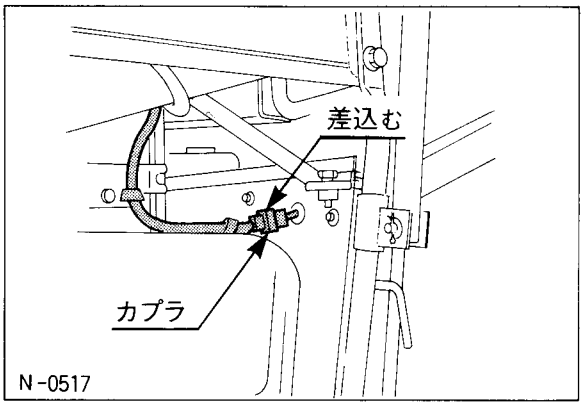
❹脱こく駆動ベルトを入れ，カバーを取付けてください。【RH_1-40・50・45仕様】

❹脱こく駆動ベルトを入れ，脱こくプーリカバーを取付けハンドル左カバーを閉めてください。【RH_1-65・75・95仕様】



❺ワイパモータの配線を差込んでください。

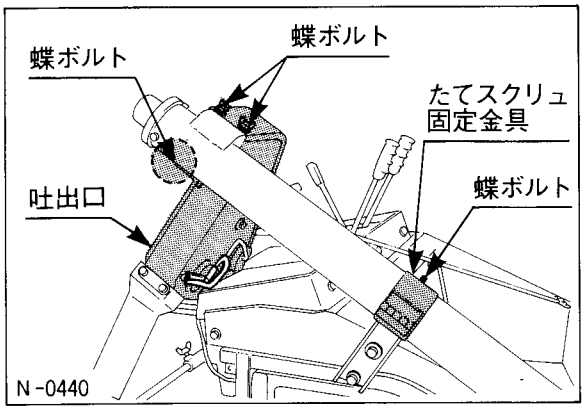
【RH_1-95仕様】



重　要

＊配線方向に注意してください。

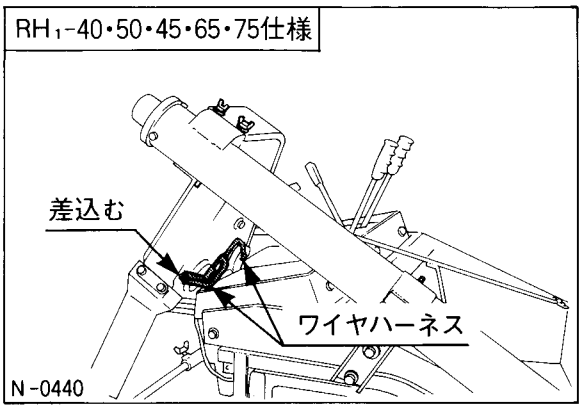
❻蝶ボルトで，たてスクリュ固定金具と吐出口(吐出口３本，固定金具１本)を取付けてください。

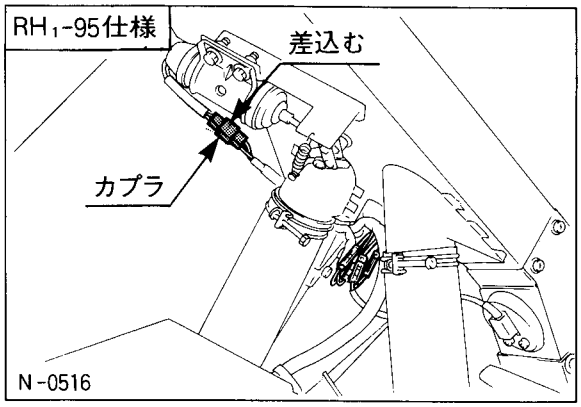


❼配線を差込んでください。

重　要

＊もみセンサへのワイヤハーネスは確実に取付けてください。
もし逆に取付けた場合，吐出口のシャッタが作動しません。

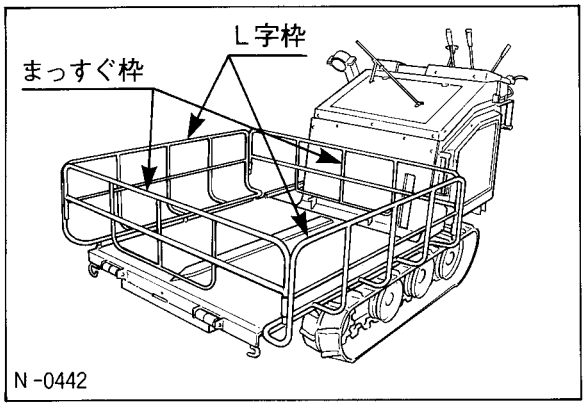




荷台枠の取付け

【荷台枠はオプション】

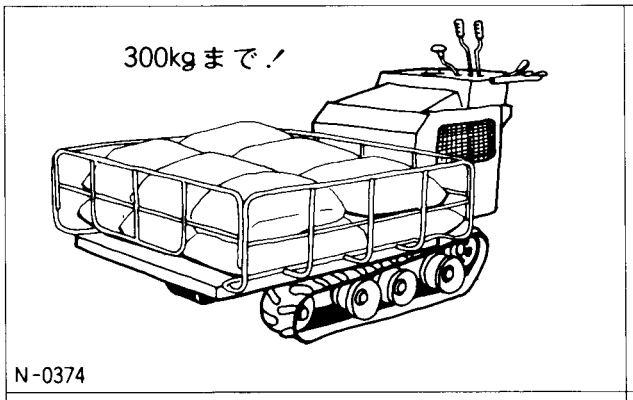
❶荷台枠は４本１組になっています。
❷L字形の枠(２本)を，本機フレームのパイプに差込む。
❸まっすぐな枠(２本)は，L字形の枠に付いているパイプに差込み，ベータピンで抜け止めをしてください。
❹荷台枠全体が浮き上っていないか確認する。

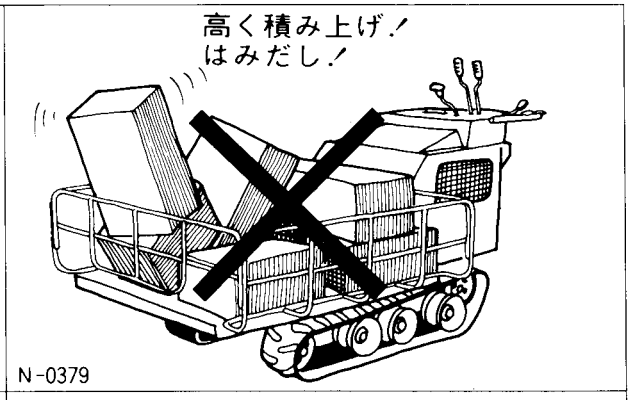


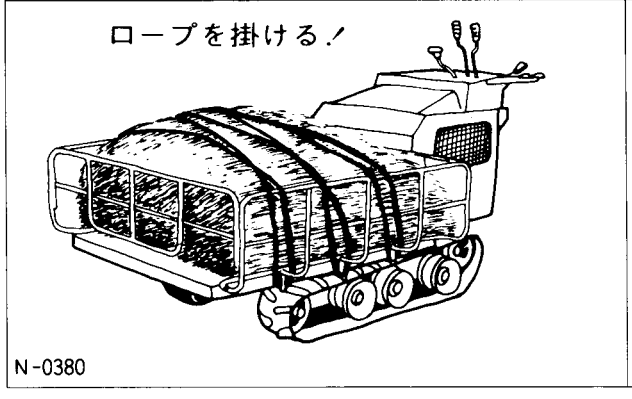
運搬作業

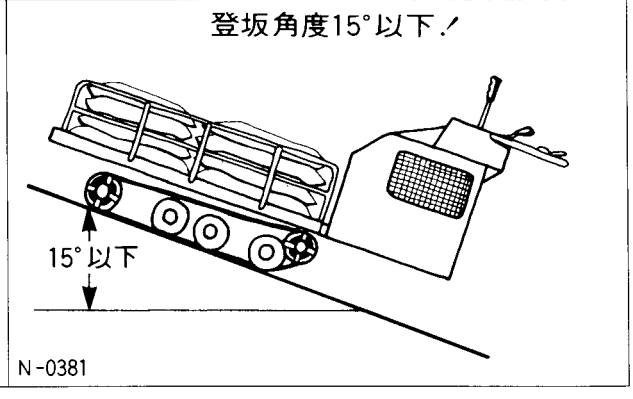
注　意

＊最大積載量は300kgです。
＊運搬車としての用途は農作業用に限ります。(土木用ではありません)
＊重量が規定以内でも，絶対に高く積み上げたり，異常に長くはみ出さないようにしてください。
＊不安定な品物を積載する場合は，ロープを必ず掛けてください。
＊登坂角度は15°以下を守ること。









付　表

主要諸元

			RH$_1$-40			RH$_1$-50					
			-40	-40S	-40D	-50	-50W	-50S	-50D	-50DW	-50DS
機体の大きさ	全長(mm)	格納時	2255								
		作業時	2770								
	全幅(mm)	格納時	1225								
		作業時	2435								
	全高(mm)	格納時	1400		1440	1400			1440		
		作業時	1290		1330	1290			1330		
	重量(kg)		345	355	385	355	360	365	395	400	405
エンジン	形式		GS230-2M1	GS230-2M1-8	GS230-2M1	GS280-2M		GS280-2M8	GS280-2M		GS280-2M8
	出力(PS/rpm)		4/1800(最大：5.8)			5.5/1800(最大：7.5)					
	排気量(cc)		226			276					
	始動方式(仕様)		リコイル	セル	リコイル			セル	リコイル		セル
	重量(kg)		17.5	20.5	17.5	25.5		28.5	25.5		28.5
脱こく機	胴径×幅(cm)		42×42								
	選別方式		揺動，圧風，吸引								
	揚穀方式		タテスクリュ								
	能率(a/hr)		8～15			10～15					
走行部	変速段数		前進2段，後進1段								
	クローラ接地長×幅(cm)		79×17				79×22	79×17		79×22	79×17
	接地圧(kg/cm^2)		0.128	0.132	0.143	0.132	0.103	0.135	0.147	0.115	0.151
操作部	吐出口		2口手動切換式								
	ブロワ調節		無段(ネジ式)								
	稲麦切換		エンジンレリーズ調節								
	掃除口		1番・2番スクリュケース，タテスクリュケース，接続ケース								
	排じん筒調節		ワンタッチ上下収納式								
	駐車ブレーキ		シャトルシフトレバーと連動								
わら処理部	円板カッタ(単体)		有(オプション)								
	大束結束機		なし			有(オプション)					
運搬機能			なし		荷枠オプション300kg積	なし			荷枠オプション300kg積		

			RH$_1$-45					
			-45	-45W	-45S	-45D	-45DW	-45DS
機体の大きさ	全長(mm)	格納時	2255					
		作業時	2770					
	全幅(mm)	格納時	1225					
		作業時	2435					
	全高(mm)	格納時	1400			1440		
		作業時	1290			1330		
	重量(kg)		368	373	378	408	413	418
エンジン	形式		E40-MH		E40-MHB	E40-MH		E40-MHB
	最大出力(PS/rpm)		4/2600					
	排気量(cc)		212					
	始動方式(仕様)		リコイル		セル(リコイル付き)	リコイル		セル(リコイル付)
	重量(kg)		37		42	37		42
脱こく機	胴径×幅(cm)		42×42					
	選別方式		揺動，圧風，吸引					
	揚穀方式		タテスクリュ					
	能率(a/hr)		8～15					
走行部	変速段数		前進2段，後進1段					
	クローラ接地長×幅(cm)		79×17	79×22	79×17		79×22	79×17
	接地圧(kg/cm^2)		0.137	0.107	0.141	0.152	0.119	0.156
操作部	吐出口		2口手動切換式					
	ブロワ調節		無段(ネジ式)					
	稲麦切換		エンジンプーリ組替式					
	掃除口		1番・2番スクリュケース，タテスクリュケース，接続ケース					
	排じん筒調節		ワンタッチ上下収納式					
	駐車ブレーキ		シャトルシフトレバーと連動					
わら処理部	円板カッタ(単体)		有(オプション)					
	大束結束機		有(オプション)					
運搬機能			なし			荷枠オプション300kg積		

			RH1-65				RH1-75		RH1-95	
			-65	-65S	-65D	-65DS	-75D	-75DS	-95S	-95DS
機体の大きさ	全長(mm)	格納時	2250						2325	
		作業時	2540						2615	
	全幅(mm)	格納時	1225				1315			
		作業時	2435				2615		2525	
	全高(mm)	格納時	1455						1350	
		作業時	1340						1350	
	重量(kg)		457	472	487	502	512	527	507	535
エンジン	形式		EA7-MH	EA7-MHB	EA7-MH	EA7-MHB	EA8-MH	EA8-MHB	EA8-MHB2	
	最大出力(PS/rpm)		6/2400				7/2400		8/2600	
	排気量(cc)		340				376			
	始動方式(仕様)		クランクハンドル	セル	クランクハンドル	セル	クランクハンドル	セル	セルスタータ	
	重量(kg)		74	78.5	74	78.5	75	79.5	75	79.5
脱こく機	胴径×幅(cm)		42×42				42×51			
	選別方式		揺動，圧風，吸引							
	揚穀方式		タテスクリュ							
	能率(a/hr)		10～15				15～20		18～24	
走行部	変速段数		前進3段，後進1段							
	クローラ接地長×幅(cm)		85×20							
	接地圧(kg/cm²)		0.134	0.138	0.143	0.147	0.15	0.155	0.149	0.157
操作部	吐出口		2口手動切換式						2口＋2口オーバフロー自動切換式	
	ブロワ調節		無段(ネジ式)							
	稲麦切換		シム調節(カウンタ出力プーリ)							
	掃除口		1番・2番スクリュケース，タテスクリュケース，接続ケース							
	排じん筒調節		ワンタッチ上下収納式							
	駐車ブレーキ		シャトルシフトレバーと連動							
わら処理部	円板カッタ(単体)		有(オプション)							
	大束結束機		有(オプション)							
運搬機能			なし		荷枠オプション300kg積				なし	荷枠オプション300kg積

別途購入アタッチメント一覧表

品　番	品　名	型　式	適　応　機　種
57088-00000	円板カッタ	SH75R	RH_1-40・50・45仕様
57098-00000		SH75RD	RH_1-65・75・95仕様
57444-00000	大束結束機	HK－3R	RH_1-50・45・65・75・95仕様
56343-9110-0	荷台枠アッシ	————	RH_1-40・50・45の運搬車仕様
56363-9110-0		————	RH_1-65・75・95の運搬車仕様

ラットガード

ラットガード クボタ純正品
ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…

- 機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

- ネズミが物を噛じる場合の習性は，かどの部分から噛じり始めます。決して平面部分から噛じり始めることはありませんので，かどの部分を重点的にネズミよけ塗料を塗布してください。
- 電線・管などの断面積の円形のもの，又は細いものは2～3㎝の距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上からネズミよけ塗料を塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めにネズミよけ塗料を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

- ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布後の有効期間は…

- 塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量(1カンで2.8㎡)を使用した場合，次の効果があります。

	条件の良いところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年～2年	1年～1.5年	6ヵ月～1年
臭気効果	8ヵ月～1年	6～8ヵ月	3～6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当るところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

420mℓ

M-1027改

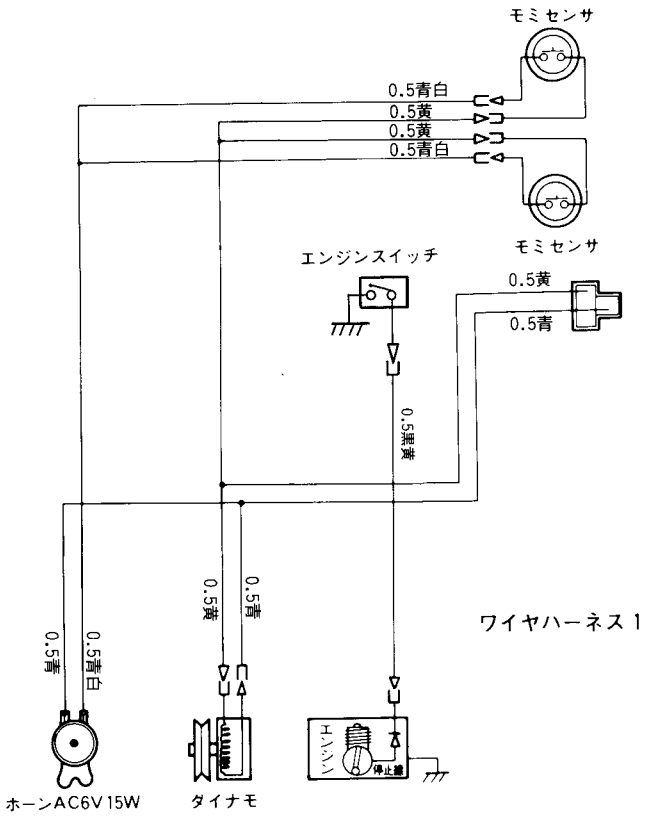
注　意

＊ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。

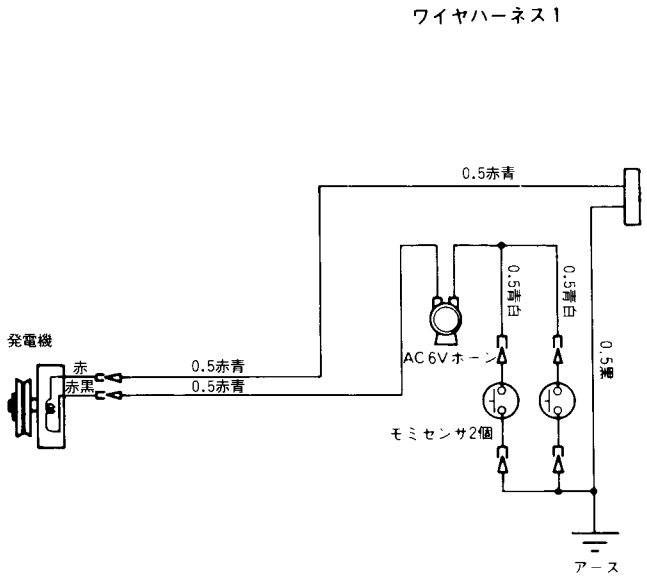
＊ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。

配線図

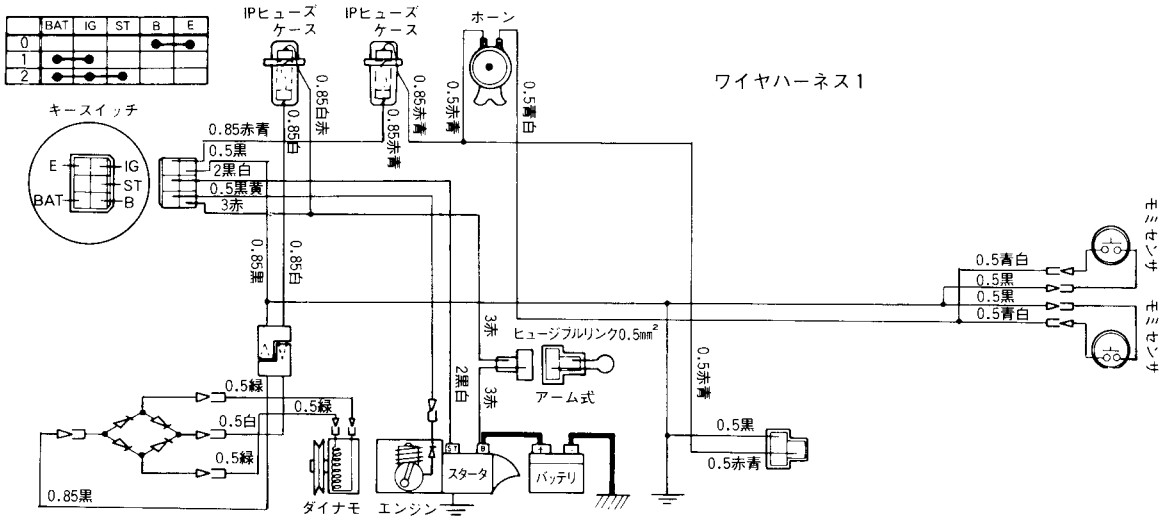
■RH$_1$-40・50のリコイル仕様



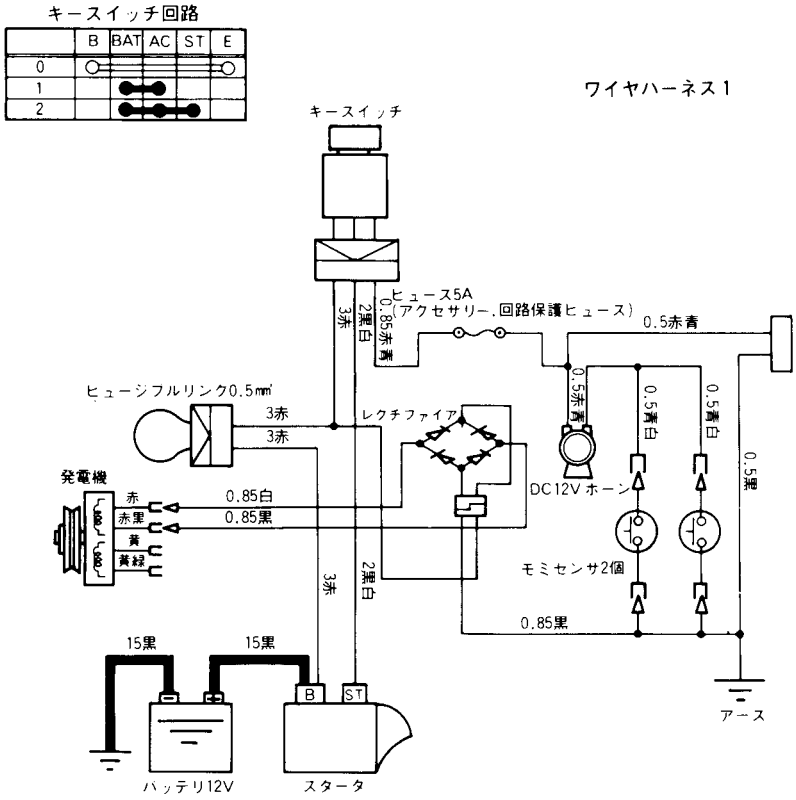
■RH$_1$-45のリコイル仕様
RH$_1$-65・75のクランクハンドル仕様



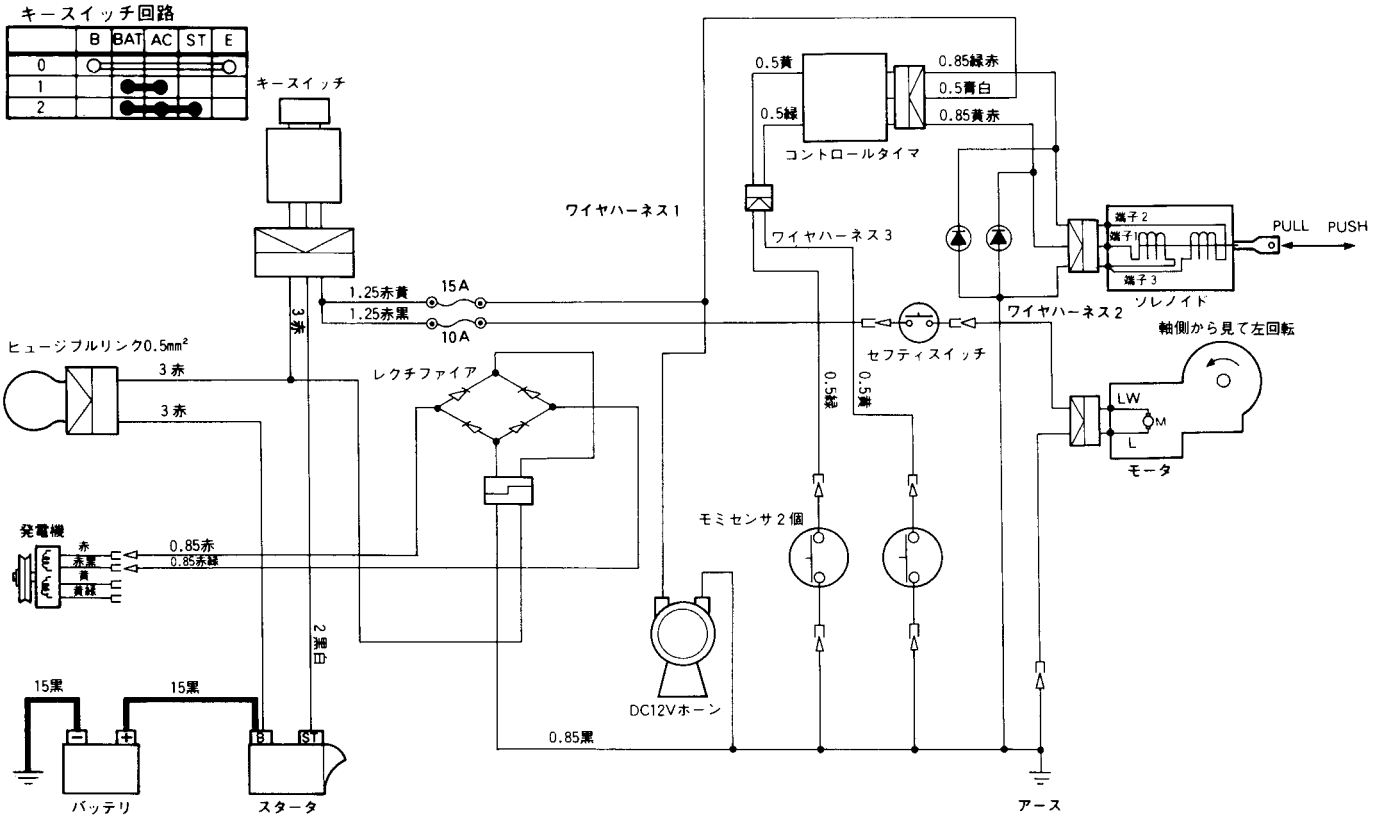
■RH$_1$-40・50のセル仕様



■RH$_1$-45・65・75のセル仕様



■RH$_1$-95仕様

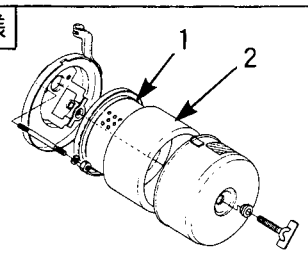


主な消耗・主部品一覧表

■本機部

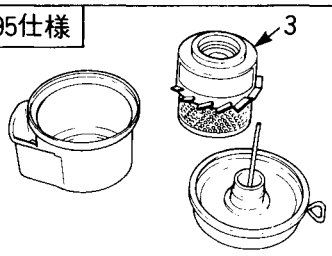
図番	品　　名	品　　番	個数
1	ペーパエレメント【RH1-40仕様】	12451-1121-0	1
	ペーパエレメント【RH1-50仕様】	12425-1121-0	1
2	ウレタンエレメント【RH1-40仕様】	13862-1132-0	1
	ウレタンエレメント【RH1-50仕様】	12425-1132-0	1
3	エアークリーナエレメント【RH1-45・65・75・95仕様】	14971-1118-0	1

RH1-40・50仕様



N-0495

RH1-45・65・75・95仕様



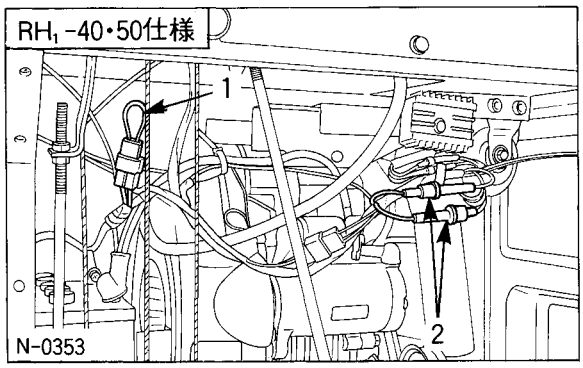
N-0160

【セル(S)仕様】

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ヒュージブルリンク	67111-5519-2	1
2	5Aカンヒューズ【RH1-45・65・75仕様】	54611-4172-0	1
	5Aカンヒューズ【RH1-40・50仕様】		2

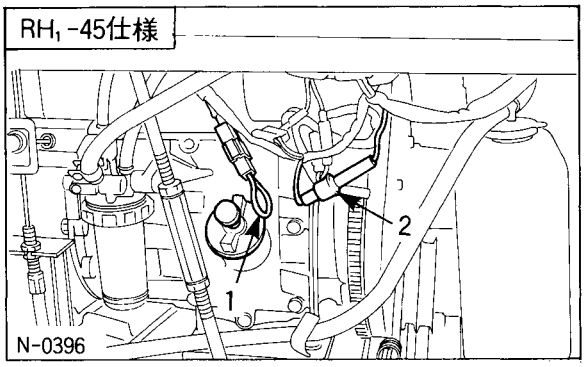
図番	品　　名	品　　番	個数
2	10Aカンヒューズ【RH1-95仕様】	54711-4122-0	1
3	15Aカンヒューズ【RH1-95仕様】	54711-4123-0	1

RH1-40・50仕様



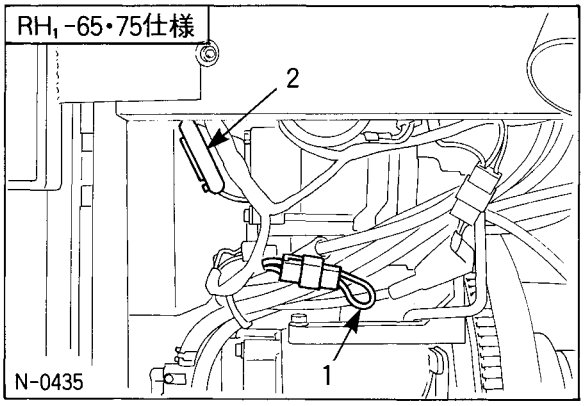
N-0353

RH1-45仕様



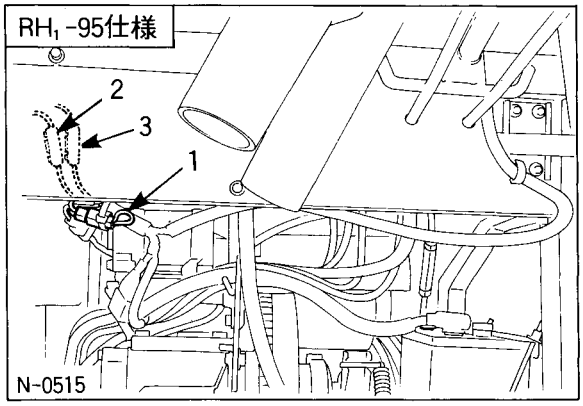
N-0396

RH1-65・75仕様



N-0435

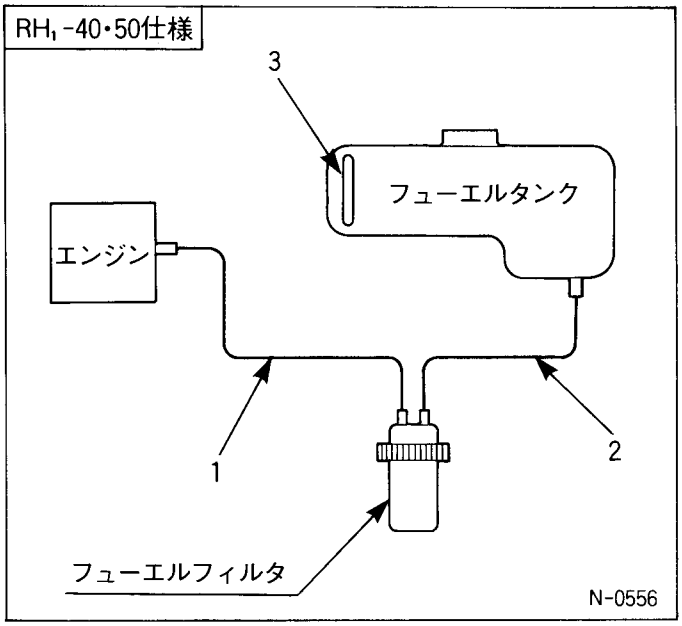
RH1-95仕様



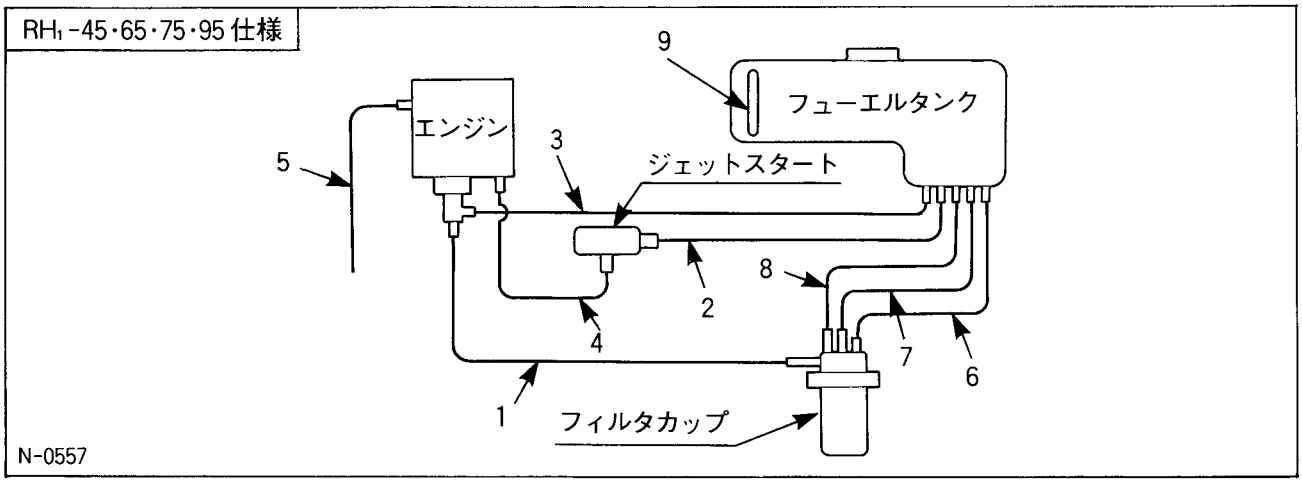
N-0515

【RH_1-40・50仕様】

図番	品名	品番	個数
1	フューエルパイプアッシ【RH_1-40仕様】	12236-4202-0	1
	フューエルパイプアッシ【RH_1-50仕様】	12425-4202-0	1
2	フューエルパイプ【RH_1-40仕様】	56321-3521-4	1
	フューエルパイプ【RH_1-50仕様】	56341-3521-4	1
3	ユメンケイ	56341-3512-0	1



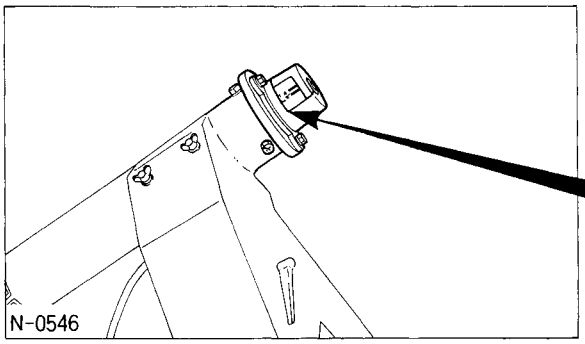
【RH_1-45・65・75・95仕様】



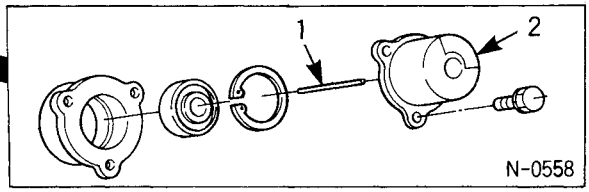
図番	品名	品番	個数
1	フューエルパイプ2アッシ【RH_1-45仕様】	14531-4202-0	1
	フューエルパイプ2アッシ【RH_1-65・75・95仕様】	11131-4202-0	1
2	フューエルパイプ3【RH_1-45仕様】	56331-3517-0	1
	フューエルパイプ2【RH_1-65・75・95仕様】	56363-3516-0	1
3	フューエルパイプ3【RH_1-45仕様】	56331-3517-0	1
	フューエルパイプ3【RH_1-65・75・95仕様】	56363-3517-0	1
4	ジェットスタートパイプ【RH_1-45仕様】	56331-3521-0	1
	エアーベントパイプ2アッシ【RH_1-65・75・95仕様】	11151-4220-0	1

図番	品名	品番	個数
5	ブレザパイプ【RH_1-45仕様】	11151-0551-0	1
	ブレザパイプ【RH_1-65・75・95仕様】	14531-0551-0	1
6	フューエルパイプ1【RH_1-45仕様】	56331-3515-0	1
	フューエルパイプ1【RH_1-65・75・95仕様】	56363-3515-0	1
7	エアーベントパイプ2アッシ【RH_1-45仕様】	14952-4220-0	1
	エアーベントパイプアッシ【RH_1-65・75・95仕様】	11136-4205-0	1
8	エアーベントパイプ2アッシ【RH_1-45仕様】	14952-4220-0	1
	エアーベントパイプアッシ【RH_1-65・75・95仕様】	11136-4205-0	1
9	ユメンケイ	56341-3512-0	1

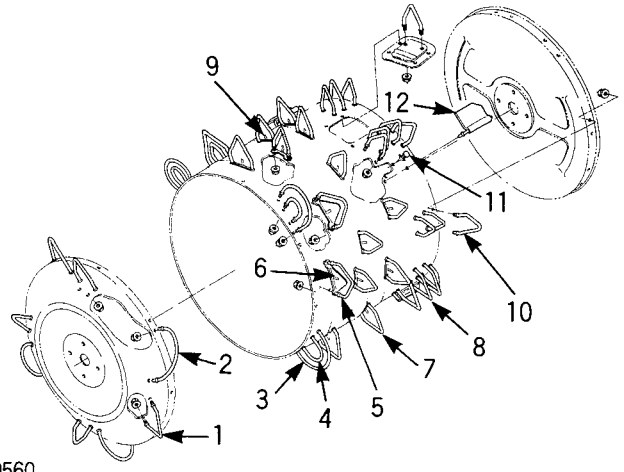
■脱こく部

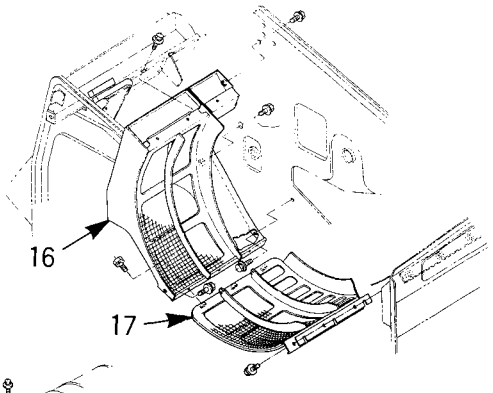


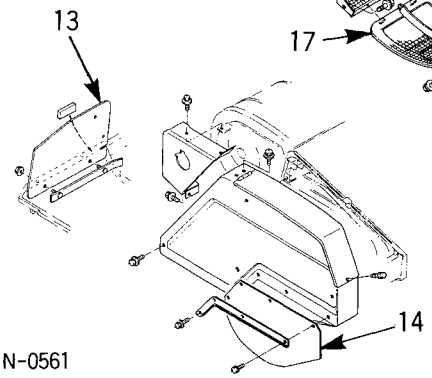
図番	品　　名	品　　番	個数
1	インナーケーブル	53511-2151-0	1
2	カイテンケイ	53455-8111-3	1

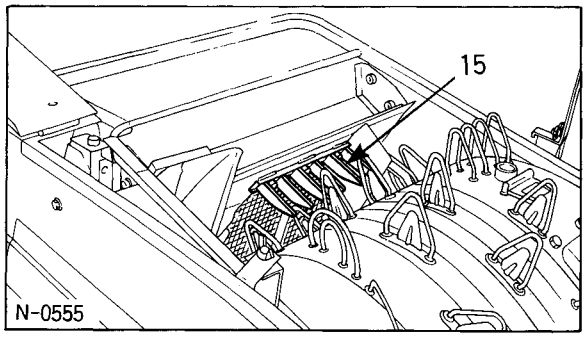


図番	品　　名	品　　番	個数
1	ダイ１セイソシ	53582-7212-0	4
2	ダイ２セイソシ【RH_1-40・50・45・65・75仕様】	53582-7213-0	4
	セイソシ　【RH_1-95仕様】	53478-2143-0	4
3	ダイ３セイソシ	53582-7214-0	4
4	ダイ３セイソシショウ	53514-7213-0	4
5	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	4
6	ダイ２ホキョウシ	53582-7217-0	4
7	イタホキョウシ	53567-2146-0	8
8	ナミハ【RH_1-40・50・45・65仕様】	53582-7219-0	38
	ナミハ【RH_1-75・95仕様】		52
9	イタコキハ【RH_1-40・50・45・65仕様】	53567-2147-0	20
	イタコキハ【RH_1-75・95仕様】		28
10	ナミハ２	53415-2144-0	4
11	コキドウハネクッションゴム	53650-2219-0	4
12	コキドウハネ	53455-2143-0	4
13	イリグチヒサンボウシ２	53468-6121-2	1
14	イリグチヒサンボウシ	53465-6112-0	1
15	ワラキリハ【RH_1-40・50・45・65仕様】	53713-1322-0	5
	ワラキリハ【RH_1-75・95仕様】		6
16	９ミリウケアミ１【RH_1-40・50・45・65仕様】	53415-1341-4	1
	９ミリウケアミ１【RH_1-75仕様】	53418-1341-0	1
	11ミリウケアミ１【RH_1-95仕様】	53478-1341-0	1
17	９ミリウケアミ２【RH_1-40・50・45・65仕様】	53415-1342-0	1
	９ミリウケアミ２【RH_1-75仕様】	53418-1342-0	1
	11ミリウケアミ２【RH_1-95仕様】	53478-1342-0	1

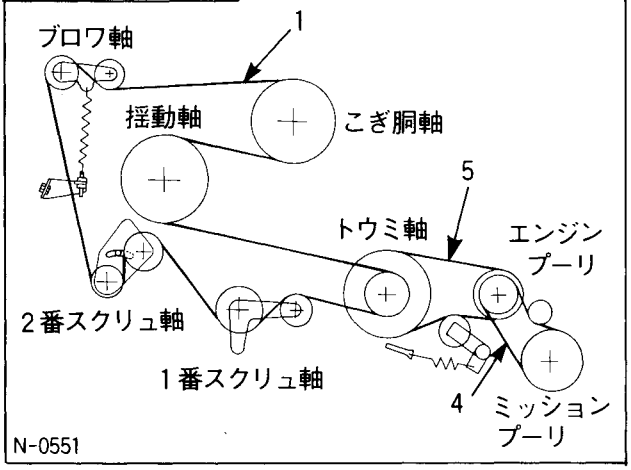




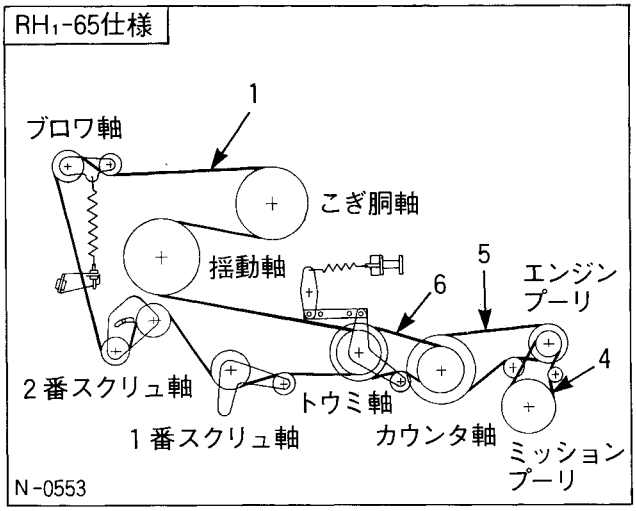




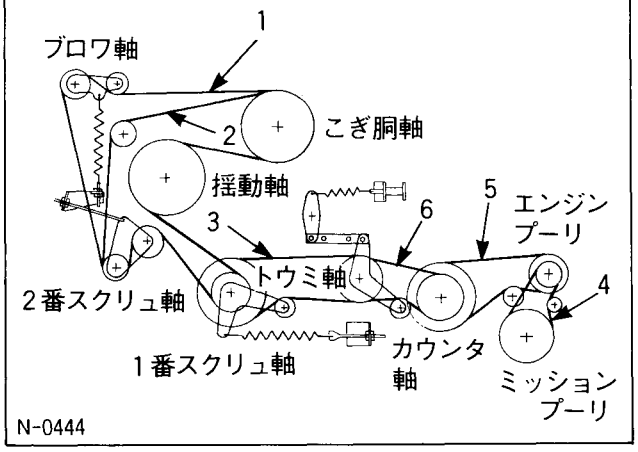
RH₁-40・45・50仕様



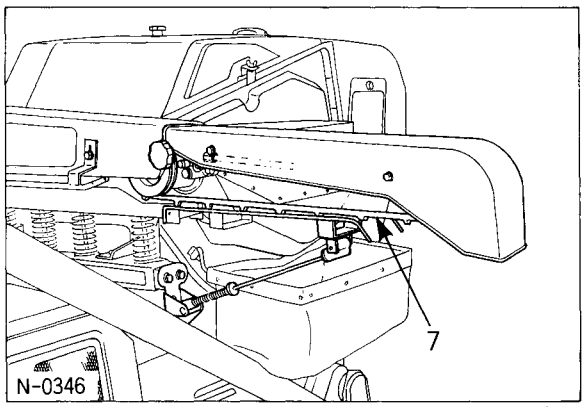
RH₁-65仕様



RH₁-75・95仕様



図番	品名	品番	個数
1	ブイベルトトクビィ165 【RH₁-40・45仕様】	53465-5611-0	1
	ブイベルトトクビィ165 【RH₁-50・65仕様】	53443-5611-0	1
	ブイベルトトクビィ133 【RH₁-75・95仕様】	53468-5613-0	1
2	ブイベルトトクビィ120 【RH₁-75・95仕様】	53468-5614-0	1
3	ブイベルトトクシィ53 【RH₁-75・95仕様】	53468-5612-0	1
4	43ブイベルト 【RH₁-40・45仕様】	55311-1165-0	1
	37ブイベルト 【RH₁-45仕様】	56331-1214-0	1
	ブイベルトトクビィ39 【RH₁-65・75・95仕様】	56363-1211-0	1
5	ブイベルトトクビィ56 【RH₁-40・50仕様】	53475-5621-0	1
	62ブイベルト 【RH₁-45仕様】	56331-1117-0	1
	ブイベルトトクシィ49.5 【RH₁-65・75・95仕様】	56363-1221-0	1



図番	品名	品番	個数
6	ブイベルトトクビィ44 【RH₁-65仕様】	53485-5611-0	1
	ブイベルトトクシィ40 【RH₁-75仕様】	53468-5611-0	1
	ブイベルトトクシィ39.5 【RH₁-95仕様】	53478-5611-0	1
7	ハイワラベルト	56501-3413-3	1

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後10年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06) 648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03) 3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011) 214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022) 267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052) 564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092) 473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011) 662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022) 384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048) 862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862) 79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092) 606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722) 41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286) 61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722) 45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286) 63-6336
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1797
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011) 376-2335

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188) 45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022) 384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048) 862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025) 285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762) 75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586) 24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859) 33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862) 79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878) 74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092) 606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096) 357-6181

品番 56421—6131—6

Kubota